

科目名	経営戦略／＜1＞						
教員名	福澤 光啓						
科目No.	122321000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>企業は、めまぐるしく変化する社会に適応し、存続と成長を実現するために日々の努力を積み重ねている。しかし、成功できる企業の数は限られており、たとえ優れた製品を提供して顧客を獲得できたとしても、それが長続きすることは多くはない。ビジネスの世界では、こうすれば必ず成功するという「正解」は事前には与えられていないといえよう。そのような不確かな状況でも、企業が成長を続けていくためには、ビジネスを成功に導くための論理的な思考と行動が不可欠であり、これが戦略と呼ばれる。この戦略の巧拙が、持続的に成長できる企業とそうでないものを分ける重要な決め手となる。</p> <p>戦略には、競争戦略と全社戦略という二つの大きなカテゴリがあり、競争戦略では一つのビジネスで成功するための方法を考え、全社戦略では企業全体のビジネスをうまく展開して成長していくための方法を考える。本講義では、主として後者の「全社戦略」の理論について説明する。</p> <p>有効な戦略は、それぞれの企業が置かれた状況によって異なる。したがって、単に用語や概念を暗記するだけでは有効な戦略を立てるには不十分であり、それらを使いこなす能力を身につける必要がある。そのために、講義では理論と実際のケースをあわせて解説しつつ授業内での質疑応答を積極的に行い、さらにWeb上で実施する課題レポートの作成も行うことにより、自分の頭で論理的に考え説明するトレーニングをする。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>①戦略に関する基本からやや発展的な考え方を学修する。</p> <p>②上記を活かして、経営を行ううえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、「自分が社長だったらこうする」という解決策を示せるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	経営戦略とは何か：日本企業における戦略の現状と課題 ・授業の全体像、進め方、予習復習の仕方等を説明する。 ・「経営戦略とは何か」について身近な事例から考察する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第2回	戦略計画と創発戦略 ・戦略論の発展の歴史について学修する ・戦略計画と創発戦略の違いや両者の関係性について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第3回	業界構造と競争優位：ポジショニング・アプローチ ・競争優位の獲得・維持の論理として、ポジショニング・アプローチについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第4回	経営資源と競争優位：資源ベース・アプローチ ・競争優位の獲得・維持の論理として、資源ベース・アプローチについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第5回	企業ドメイン ・事業そのもの、および事業範囲の定義をする上で有効な方策を学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第6回	多角化戦略① ・市場ライフサイクル、経験曲線、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントの議論について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第7回	多角化戦略② ・多角化のタイプおよびそれぞれの有効性について学修する。 ・多角化をうまく行うための概念として主として「シナジー」について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第8回	多角化戦略③ ・多角化企業における有効な新規事業開発の方法について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第9回	経営戦略と組織① ・経営戦略と組織デザインの相互関係について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第10回	経営戦略と組織② ・戦略と組織文化の関係性について学修する。 ・戦略構築・実行における経営者の役割について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第11回	経営戦略と技術 ・中核技術にもとづく企業成長について学修する。 ・プラットフォーム戦略について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第12回	企業間分業体制の設計・構築 ・企業間の分業体制の設計と構築について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第13回	グローバル化と経営戦略 ・グローバルな事業展開とそのマネジメントについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第14回	まとめ			【予習】各回の配布資料を確認する。質問を考える。 【復習】各回の授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
〔授業の方法〕							
<p>・事前に配布してある授業資料（事前資料）を受講生が既に読んでいることを前提として講義を行う。</p> <p>・基本的には、①事前資料のポイントを解説しつつ、事前資料には書かれていない事柄（理論、概念、企業の実例など）についても説明し、②事前資料に書かれている内容について受講生が事前に考えてきた質問の収集とそれにもとづいて議論を行い受講生の理解を深める、という流れで授業を進める。したがって、受講生は、事前資料を熟読して、その内容に対する質問を考えようとして、授業に臨むことが必要である。質問内容は「質問メモ」に記入して、授業で定められ</p>							

た方法にて提出すること。

- ・また、授業で学んだことにもとづいて、自分で調査をしたり考えたりする「Web 課題レポート」を実施する（2回から3回を予定）。受講生は、当該課題についてレポートを作成し、提出することを求められる。この課題は CoursePower を用いて行い、成績採点の対象とする。
- ・加えて、適宜、授業内で簡単な課題を出して授業で学んだことを活用して回答してもらうことにより、受講生の理解を深めるための「授業内ワーク」を複数回実施する。
- ・授業時間内に実施する「質問メモ」や「授業内ワーク」、および授業期間内に実施する「Web 課題レポート」の提出は、必ず、授業で指定された方法にもとづいて定められた期限内に、受講生本人が作成して授業担当者に対して行うこととする。いかなる場合・理由であっても、事前・事後の提出や代理提出等を認めない。
- ・なお、授業の方法や成績評価の方法等については、第 1 回目の授業において詳細に説明するので、必ず確認のうえ、授業内で説明された内容にしたがって、Web 課題レポート等への回答や提出を行うこと。
- ・上で示された準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

「Web 課題レポート」（100％）の提出状況および解答内容により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

①戦略に関する基本からやや発展的な考え方を習得できている。

②上記を活かして、経営を行ううえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、「自分が社長だったらこうする」という解決策を示すことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「競争戦略」、「イノベーションと製品開発」、「生産管理」、「マーケティング」などに関する知識を習得することが望ましい。

〔テキスト〕

各回の授業資料は事前に、CoursePower を通じて配布するので、テキストは特にない。それらの資料を各自必要に応じて印刷したり、PC やタブレット端末等を利用して授業に臨むこと。各回の授業資料を事前に熟読して、質問内容を考えたうえで授業に臨むこと。

〔参考書〕

経営戦略についてより深く学びたい人のために、適宜紹介する。参考までに以下のものを挙げておく。

網倉久永・新宅純二郎（2011）『経営戦略入門』日本経済新聞社

高橋伸夫編著（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

伊丹敬之（2012）『経営戦略の論理（第 4 版）』日本経済新聞社

沼上幹（2009）『経営戦略の思考法』日本経済新聞社

三品和宏（2004）『戦略不全の論理』東洋経済新報社

三品和宏（2007）『戦略不全の因果』東洋経済新報社

小川紘一（2015）『オープン&クローズ戦略 増補改訂版』翔泳社

新宅純二郎・天野倫文編（2009）『ものづくりの国際経営戦略』有斐閣

立本博文（2017）『プラットフォーム企業のグローバル戦略』有斐閣

Burgelman, R., A. (2002) Strategy is Destiny, New York: Free Press.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		マーケティング/<1>					
教員名		河塚 悠					
科目No.	122322000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は、売れる仕組みを作る企業のマーケティング活動を総合的に理解することをテーマとします。企業は、自社の提供する製品やサービスが消費者の支持を得て購買され続けなければ、存続と成長を実現することができません。つまり、消費者にとっての価値を理解し、「売れる製品やサービスを作る」ことが企業にとっての最重要課題なのです。</p> <p>本講義では、身近な現象や事例を用いながらマーケティングの基礎的概念やフレームワークを解説します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業におけるマーケティングの活動と役割を理解する。 ・マーケティングの基本である STP と 4P の概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。 ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション ・講義の内容、進め方等について説明する。			【予習】シラバスに再度目を通し、講義の目的と全体的な内容を把握しておく。		60	
第2回	マーケティングとはなにか ・マーケティングと呼ばれる活動とその主体について理解する。			【予習】新聞のマーケティング関連記事を読む。		60	
第3回	マーケティングの誕生 ・マーケティングが誕生した歴史的背景と発展について理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	マーケティングの基礎概念 ・マーケティングの基本概念である STP、4P を理解する。 *課題レポート提出。			【予習】課題レポート作成のために指示された情報、資料を収集しておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第5回	製品戦略① ・4P のうちの Product（製品）のマネジメントについて理解する。 *レポートの発表、フィードバック。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	製品戦略② ・4P のうちの Product（製品）のマネジメントについて理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	価格戦略① ・4P のうちの Price（価格）のマネジメントについて理解する。 ・価格設定のさまざまな方法を具体的に学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。 価格設定の計算ができるようにする。		90	
第8回	価格戦略② ・4P のうちの Price（価格）のマネジメントについて理解する。 ・心理的な価格設定と価格変更の方法を学ぶ。			【復習】講義で学んでキーワードを説明できるようにする。		90	
第9回	流通戦略① ・4P のうちの Place（流通）のマネジメントについて理解する。 ・日本特有の流通構造や問題について考察する。			【予習】日本の流通と海外の流通の違いを調べておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	流通戦略② ・4P のうちの Place（流通）のマネジメントについて理解する。 ・近年における流通戦略の変化を学ぶ。 *課題レポート提出。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第11回	プロモーション戦略① ・4P のうちの Promotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。 *レポートの発表、フィードバック。			【予習】事前配布の資料に目を通しておく		60	
第12回	プロモーション戦略② ・4P のうちの Promotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。 近年におけるプロモーション戦略の変化を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第13回	戦略的マーケティング ・市場での競争のとりえ方、市場地位別の競争戦略について理解する。*課題レポート提出。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第14回	ブランド・マネジメント ・企業の重要な資産であるブランドのマネジメントについて理解する。 *レポートの発表、フィードバック。			【予習】ブランドとは何かという問いに回答できるように考えをまとめておく。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義形式が中心となるが、理解促進のために、新聞記事、映像、ケース等を用いる。</p> <p>授業内で実施するレポートは、受講生が身近なマーケティング事例を授業で得た知識と関連付けて適切に考察できているかを評価する。</p>							

〔成績評価の方法〕

クイズ、課題レポート(40%)、期末試験(60%)で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ・マーケティングの基本であるSTPと4Pの概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。
- ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。
- ・学んだ知識を活かし、マーケティング課題への解決策を提案できる。

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

「会社のしくみと制度」(「会社入門」)、「企業経営の基礎」(「企業経営入門」)などの経営経済基礎科目。

〔テキスト〕

特に指定しない。必要な文献や資料などは適宜配布、紹介する(紹介したものを購入する必要はない)。

〔参考書〕

授業内容の理解促進のために以下を参考書として挙げる。購入の必要はない。

『コア・テキスト マーケティング』、山本晶[著]、新世社。

『マーケティング戦略』、和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦[著]、有斐閣アルマ。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

このシラバスは対面授業の実施を前提に構成されています。オンラインでの実施となった場合には、内容等に変更が生じることを予めご了承ください。

科目名		マーケティング/<2>					
教員名		井上 淳子					
科目No.	122322100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は、売れる仕組みを作る企業のマーケティング活動を総合的に理解することをテーマとします。企業は、自社の提供する製品やサービスが消費者の支持を得て購買され続けなければ、存続と成長を実現することができません。つまり、消費者にとっての価値を理解し、「売れる製品やサービスを作る」ことが企業にとっての最重要課題なのです。</p> <p>本講義では、身近な現象や事例を用いながらマーケティングの基礎的概念やフレームワークを解説します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業におけるマーケティングの活動と役割を理解する。 ・マーケティングの基本である STP と 4P の概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。 ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション ・講義の内容、進め方等について説明する。			【予習】シラバスに再度目を通し、講義の目的と全体的な内容を把握しておく。		60	
第2回	マーケティングとはなにか ・マーケティングと呼ばれる活動とその主体について理解する。			【予習】新聞のマーケティング関連記事を読む。		60	
第3回	マーケティングの誕生 ・マーケティングが誕生した歴史的背景と発展について理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	マーケティングの基礎概念 ・マーケティングの基本概念である STP、4P を理解する。 *課題レポート提出。			【予習】課題レポート作成のために指示された情報、資料を収集しておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第5回	製品戦略① ・4P のうちの Product（製品）のマネジメントについて理解する。 *レポートの発表、フィードバック。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	製品戦略② ・4P のうちの Product（製品）のマネジメントについて理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	価格戦略① ・4P のうちの Price（価格）のマネジメントについて理解する。 ・価格設定のさまざまな方法を具体的に学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。 価格設定の計算ができるようにする。		90	
第8回	価格戦略② ・4P のうちの Price（価格）のマネジメントについて理解する。 ・心理的な価格設定と価格変更の方法を学ぶ。			【復習】講義で学んでキーワードを説明できるようにする。		90	
第9回	流通戦略① ・4P のうちの Place（流通）のマネジメントについて理解する。 ・日本特有の流通構造や問題について考察する。			【予習】日本の流通と海外の流通の違いを調べておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	流通戦略② ・4P のうちの Place（流通）のマネジメントについて理解する。 ・近年における流通戦略の変化を学ぶ。 *課題レポート提出。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第11回	プロモーション戦略① ・4P のうちの Promotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。 *レポートの発表、フィードバック。			【予習】事前配布の資料に目を通しておく		60	
第12回	プロモーション戦略② ・4P のうちの Promotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。 近年におけるプロモーション戦略の変化を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第13回	戦略的マーケティング ・市場での競争のとらえ方、市場地位別の競争戦略について理解する。*課題レポート提出。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第14回	ブランド・マネジメント ・企業の重要な資産であるブランドのマネジメントについて理解する。 *レポートの発表、フィードバック。			【予習】ブランドとは何かという問いに回答できるように考えをまとめておく。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義形式が中心となるが、理解促進のために、新聞記事、映像、ケース等を用いる。</p> <p>授業内で実施するレポートは、受講生が身近なマーケティング事例を授業で得た知識と関連付けて適切に考察できているかを評価する。</p>							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>クイズ、課題レポート(40%)、期末試験(60%)で総合的に評価する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その到達度により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの基本であるSTPと4Pの概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。 ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。 ・学んだ知識を活かし、マーケティング課題への解決策を提案できる。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>「会社のしくみと制度」(「会社入門」)、「企業経営の基礎」(「企業経営入門」)などの経営経済基礎科目。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特に指定しない。必要な文献や資料などは適宜配布、紹介する(紹介したものを購入する必要はない)。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>授業内容の理解促進のために以下を参考書として挙げる。購入の必要はない。</p> <p>『コア・テキスト マーケティング』、山本晶[著]、新世社。 『マーケティング戦略』、和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦[著]、有斐閣アルマ。</p>
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>このシラバスは対面授業の実施を前提に構成されています。オンラインでの実施となった場合には、内容等に変更が生じることを予めご了承ください。</p>

科目名	人間行動と組織 / < 1 >						
教員名	上田 泰						
科目No.	122323000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：組織とかかわる人間の心理と行動を理解する 社会に生きるほとんどの人は、何らかの組織に属し、その組織の一員として活動しています。この講座は、組織の一員として働き、生きていく人間に焦点を当てて、その行動、動機、知覚、態度などを総合的に学んでいく講座です。人間はどのような動機で働くのか、どのようなリーダーシップが効果的なのか、あるいは、上司や部下、同僚などとの人間関係はどのように形成されていくのか、といった働く人にとって身近な話題が提供されます。なお、理解を容易にするために、学生には身近なアイドルの話題などを事例に出す場合があります。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 (1)個人の心理と行動の特徴を理解する。 (2)小集団の心理と行動の特徴を理解する。 (3)組織が個人や集団の心理や行動に与える影響を理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・講座の目的、評価方法などについて学修する。	【予習】日常生活における組織と人間とのかかわりについて考えておく。 【復習】組織行動論の体系と、組織行動論と他の組織論の領域との関係について説明できるようにする。				60	
第2回	パーソナリティ ・パーソナリティの意義、分類方法、組織行動におけるパーソナリティ研究について学修する。	【予習】パーソナリティの一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】働き手のパーソナリティの違いが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。				60	
第3回	知覚 ・知覚の意義、知覚プロセス、対人知覚、対人知覚における誤り等について学修する。	【予習】知覚の一般的な概念、認知との違いについてネットなどで調べておく。 【復習】働き手の知覚の誤りが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。				60	
第4回	態度について ・態度の意義、態度の三要素、ハイダーの理論、フェスティンガーの理論などについて学修する。	【予習】態度の一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】働き手の態度の違いが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。また、知覚やパーソナリティとの関係も説明できるようにする。				60	
第5回	動機づけ（モチベーション） ・モチベーションに関する理論として、古典的理論と近代的理論を学修する。	【予習】動機づけの一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】働き手の動機づけの強さの違いが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。また、知覚やパーソナリティ、態度との関係も説明できるようにする。				60	
第6回	学習と記憶 ・心理学でいう学習の概念と基本プロセスを学修する。 ・記憶プロセスと記憶の種類について学修する。	【予習】パブロフの犬、スキナー箱について予め調べておく。 【復習】学習と記憶の概念について説明できるようにする。				60	
第7回	集団力学 ・小集団の定義、集団過程を学修する。 集団力学の基本的な知識として、社会的促進・抑制、極化、同調について学修する。	【予習】自分がどのような集団に属しているか、その集団からどのような影響を受けているかを考える。 【復習】集団力学が個人に及ぼす影響について説明できるようにする。				60	
第8回	対人コミュニケーション ・コミュニケーションプロセス、コミュニケーションの失敗の原因、中心性の概念と計算方法について学修する。	【予習】自分がコミュニケーションで苦労した経験をまとめておく。 【復習】コミュニケーションの意義や、コミュニケーションがうまくいかなくなる理由について説明できるようにする。				60	
第9回	リーダーシップ ・リーダーシップの概念、特性論、2つの基本的なリーダーシップ、条件適合論などについて学修する。	【予習】リーダーシップの一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】リーダーシップにはどのような種類があり、そのリーダーシップがどのような状況で有効なのかを説明できるようにする。				60	
第10回	役割・規範・ストレス ・役割の意義、役割曖昧性、役割コンフリクトについて学修する。 ・役割曖昧性や役割ストレスに起因するストレスを中心に、ストレスのプロセス、ストレッサ、ストレス軽減について学修する。	【予習】役割や規範の一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】役割がどのような場合にストレスが生じやすいか、それを解消するにはどうしたらよいかを説明できるようにする。				60	
第11回	集団意思決定 ・集団で行う意思決定について、個人の意思決定との違い、長所と短所、意思決定支援などについて学修する。	【予習】集団で物事を決めた経験について、どこが大変だったかをまとめておく。 【復習】集団意思決定はどのようなプロセスで進められるものか、どのような特徴があるかを説明できるようにする。				60	
第12回	組織構造と形態 ・組織構造の基本概念と要素を学修する。 ・組織の基本形態と条件適合理論の考え方を学修する。	【予習】日本の会社を1つとりあげて組織図を調べておく。 【復習】組織構造にはどのような次元があり、どのような要因と関係があるかを説明できるようにする。				60	
第13回	組織文化 ・組織文化の概念とその役割について学修する。 ・組織文化の変革について学修する。	【予習】文化的に特徴ある日本の会社を1つ調べておく。 【復習】組織文化にはどのような次元があり、どのような要因と関係があるかを説明できるようにする。				60	

第14回	組織変革 ・組織変革の意義とその方法について学修する。	【予習】組織変革の事例についてネットなどで調べておく。 【復習】組織変革の方法について説明できるようにする。	60
[授業の方法] 通常の講義形式で行います。内容を分かりやすくするために、プリントを配布するほか、実際の例などを適宜とりいれます。また、eラーニングを活用した小テストを通じて授業時間外の学習を促します。			
[成績評価の方法] 学期末試験80%、授業の復習テスト10%、課題レポート10%による総合評価とします。			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 以下の到達目標の達成度に基づいて評価します。 (1)個人の心理と行動の特徴を理解しているか。 (2)小集団の心理と行動の特徴を理解しているか。 (3)組織が個人や集団の心理や行動に与える影響を理解しているか。			
[必要な予備知識/先修科目/関連科目] 「企業経営の基礎」が先修的な位置づけの科目です。			
[テキスト] 特になし。			
[参考書] 上田泰『組織行動研究の展開』(白桃書房) 上田泰『組織の人間行動』(中央経済社) 手塚・小山・上田・米山編著『現代経営学再入門』(同友館)			
[質問・相談方法等(オフィス・アワー)] ポータルサイトで周知します。			
[特記事項]			
ICT活用			

科目名	人間行動と組織 / < 2 >						
教員名	義村 敦子						
科目No.	122323100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>テーマ：組織で活動する人の心理と行動について学ぶ</p> <p>私たちの社会では、大多数の人がなんらかの形で組織と関わって仕事や仕事以外の活動をしています。この授業は、組織で働く人間の行動や心理特徴の中から、キャリア形成、モチベーション、リーダーシップなどについて、学びます。特に、職業選択の時期にある受講生のために、職業志向や進路選択に関する自己理解を深める課題も提示していきます。</p>							
〔到達目標〕							
<p>この授業の到達目標は、DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下の2点とします。</p> <p>①組織心理学や組織行動論に関して幅広く基礎的な知見を得る。 ②実践的に得た知識を活用して自分のキャリアについて考える。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：組織で働く意味			【復習】なぜ人は組織を作り、共に働くのかに関する授業内容を把握する。		60	
第2回	キャリア形成と生涯発達心理学			【復習】キャリア形成と生涯発達心理学について、説明できるようにする。		60	
第3回	職業選択理論と職業タイプ分類			【復習】職業選択理論と職業タイプ分類について内容を把握するとともに、各自のキャリアデザインを試みる。		90	
第4回	欲求とモチベーション			【復習】欲求とモチベーションについて、j 授業内容を把握する。		60	
第5回	欲求プロセスの諸モデル			【復習】欲求プロセスの諸モデルについて、説明できるようにする。		60	
第6回	目標設定モデルとフィードバック効果			【復習】目標設定モデルとフィードバック効果に関する授業内容を把握する。		60	
第7回	リーダーシップの特性論			【復習】リーダーシップの特性論について、説明できるようにする。		60	
第8回	リーダーシップのプロセス			【復習】リーダーシップのプロセスに関する授業内容を把握する。		90	
第9回	チームワークとパフォーマンス			【復習】チームワークとパフォーマンスの関連について、説明できるようにする。		60	
第10回	職務特性モデル			【復習】職務特性モデルの内容を理解し、実践的にこの理論の応用を試みる。		90	
第11回	職場ストレスとソーシャルサポート			【復習】職場ストレスに及ぼすソーシャルサポートの影響について、説明できるようにする。		60	
第12回	組織風土と組織文化			【復習】組織風土と組織文化の相違点を理解し、身近な組織における組織文化の強化方法について具体案を考える。		60	
第13回	組織イノベーションと創造性			【復習】組織イノベーションと創造性についての授業内容を把握する。		60	
第14回	組織の公平性とパフォーマンスおよび全体のまとめ			【復習】組織の公平性とパフォーマンスの関連について、説明できるようにする。授業全体を振り返り、要点をまとめる。		60	
〔授業の方法〕							
<p>基本的に講義形式をとります。具体的にはパワーポイントによる教材提示をしながら授業を進めます。授業内容に基づいて複数回のレポート提出を求めます。評価の基準は講義中にその都度明らかにします。</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>平常点（授業への積極的参加）10%と提出されたレポート（複数回の合計点）90%によって総合的に評価します。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の 2 点に着目し、その到達度により評価します。

- ①組織心理学および組織行動論の基礎知識が身に付いている。
- ②得た知識を応用して自分理解のツールとして活用できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

より良く「人間行動と組織」を理解するために、これらの科目の受講を推奨しますが、これらの科目を受講していなくても、講義は受けられます。「心理学の基礎」、「日本の労働市場」、「人事政策」、「人的資源管理」

〔テキスト〕

特に指定しません。

〔参考書〕

『組織の心理学』 田尾雅夫著 有斐閣 2, 200 円 ISBN 4-641-08631-1
『なんでアタシだけ叱るのよ!』 上田泰 著 同友館 1, 600 円 ISBN 4-496-03262-7

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名	ファイナンスの基礎／＜1＞						
教員名	俊野 雅司						
科目No.	122324000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>本講座では、ファイナンスの基礎概念について学修する。ファイナンス論は、お金に関する様々な意思決定を助けるための研究領域である。投資家の立場から議論を行う証券投資論（インベストメント）と企業の立場から議論を行う企業金融論（コーポレートファイナンス）に分類される。本講座では証券投資論を中心に学修する。</p> <p>前半部分では、ファイナンス論に共通の基礎知識を取り扱う。金融市場や市場参加者の概要、企業財務データの概要と活用方法、金利、リターン、為替レートの影響、物価水準の変化と名目・実質の関係などファイナンスの基礎概念、割引率と現在価値・将来価値の関係、市場の効率性やリターン分布の正規性などファイナンス論の想定する世界について学修する。</p> <p>後半部分では、証券投資論を中心にファイナンス論の各論について学修する。証券投資論に関しては、証券価格の評価とリスク管理について学修した後で、株式や債券の価格評価、分散投資効果に関する理論的な考え方と代表的なモデルであるCAPM（資本資産評価モデル）、デリバティブ取引について学修する。さらに、コーポレートファイナンスの全体像とコーポレートガバナンス、社会的責任投資についても学修する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>本講座では、ファイナンス論の基礎知識を身につけることを目標とする。今後、幅広くファイナンス（金融）について学習する際の基本知識の習得を目指す。ここで身につけた知識は、今後、資本市場や企業経営、資産運用などに関する様々な応用分野の理論や仕組みについて学修するうえで、役に立つと考えられる。また、社会人になってから、投資家として生涯にわたって自らの資産を計画的に運用していくうえでも活用できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・講座の全体像や進め方、ファイナンス論に関する理論や概念を学修することの意義について説明する。			【予習】基本テキストを入手して、「はじめに」を読んでおくこと。講義用資料は、事前にCoursePowerを通じて掲載するので、読んでおくこと。		60	
第2回	金融の仕組み ・赤字主体と黒字主体の間の資金ニーズを仲介する金融システムの全体像を示す。 ・間接金融と直接金融の違いを示し、株式や債券などの証券は、直接金融の主要な手段であることを説明する。 ・赤字主体と黒字主体、金融仲介機能を果たす銀行や証券会社、年金基金や投資信託をはじめとする機関投資家など金融市場における主要な市場参加者の概要を示す。 ・金融市場が健全に機能することを支える法律、自主規制団体による規則・規制、会計制度などの金融インフラについて説明する。 ・金融システムの機能について説明する。			【予習・復習】基本テキストの第1章と講義用資料を読んでおくこと。 ・証券市場の概要については、後期開講予定の「証券市場」で詳しく説明する（参考書『証券論』を参照）。		60	
第3回	財務諸表の活用 ・企業活動の成績表のような位置づけを持つ財務諸表の基本構成と財務分析の方法について説明する。 ・財務データに基づいて、企業の持続可能成長率を計算する方法を説明する。			【予習】基本テキストの第2章と講義用資料を読んでおくこと。 【復習】課題①：財務分析に関する計算問題を通じて、分析手法を復習すること。		60	
第4回	ファイナンスの基礎概念 ・証券投資論（インベストメント）と企業金融論（コーポレート・ファイナンス）を含むファイナンス論に共通する基礎概念を整理する。 ・金利、投資収益率（インカムゲインとキャピタルゲイン）、外貨建て資産への投資における為替レート変動の意義、インフレーションと名目・実質等について説明する。			【予習】基本テキストの第3章と講義用資料を読んでおくこと。 【復習】演習問題①：投資収益率や実質金利に関する計算問題を通じて、基本概念を復習すること。		60	
第5回	割引率と現在価値・将来価値 ・割引率という概念を用いて、将来発生するキャッシュフローを現在価値へ換算する方法とその応用例を説明する。			【予習】基本テキストの第4章と講義用資料を読んでおくこと。 【復習】課題②：現在価値の計算に関する計算問題を通じて、講義の内容を復習すること。		60	
第6回	ファイナンス論の想定する世界 ・ファイナンス論の歴史に触れたうえで、完全市場、一物一価の法則、効率性市場仮説など、ファイナンス論では、きわめて合理的な投資家等の意思決定者によって証券価格が決定されるという非現実的な世界を想定していることを説明する。 ・ファイナンス論の前提条件である意思決定者の合理性や市場の効率性について説明する。 ・ファイナンス論の主要モデルの前提条件となっているリターン分布の正規性や投資家のリスク回避特性について説明する。			【予習・復習】基本テキストの第5、6章と講義用資料を読んでおくこと。		60	
第7回	証券価格の評価とリスク管理 ・証券投資論の重要な役割である証券価格の評価とリスク管理について説明する。 ・ポートフォリオ理論とデリバティブ取引の概要を説明する。			【予習・復習】基本テキストの第7章と講義用資料を読んでおくこと。		60	
第8回	株式の理論価格 ・代表的な株式価値評価モデルである配当割引モデルの概要と計算例を示す。 ・類似会社のPERを用いた簡便な株価評価モデルも説明する。			【予習】基本テキストの第8章と講義用資料を読んでおくこと。 【復習】課題③：配当割引モデルの計算問題を通じて、理論の考え方と使い方を習得すること。		60	
第9回	債券の理論価格 ・債券の種類と価格評価の基礎について説明したうえで、債券投資のリスク要因を整理する。 ・スポットレートとフォワードレート、金利の期間構造、デュレーションなど、債券の利回りに関する基本的な理論を整理す			【予習】基本テキストの第9章と講義用資料を読んでおくこと。 ・債券の基礎知識や債券取引の仕組みについては、参考書『証券論』の第6～8章を参照。 【復習】演習問題②：債券の理論価格に関する計算問題を通		60	

	る。	じて、講義内容の復習をしておくこと。	
第10回	<p>ポートフォリオ理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リターンとリスクの概念を再整理したうえで、分散投資効果の源泉について説明する。 ・ポートフォリオの期待リターンとリスクの計算方法を確認したうえで、あらゆる投資機会を対象とする投資機会集合と効率的フロンティアの概念に加えて、最適ポートフォリオ特定化の仕組みを説明する。 	<p>【予習・復習】基本テキストの第10章と講義用資料を読んでおくこと。</p> <p>【復習】課題④：分散投資理論の計算問題を通じて、講義内容の復習をしておくこと。</p>	60
第11回	<p>資本資産評価モデル (CAPM)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CAPMの前提条件を整理したうえで、資本市場線について説明する。 ・新たなリスク概念である市場リスク (ベータ) について説明したうえで、ベータの推計方法と期待リターンに関するモデルについて説明する。 ・1ファクターモデルであるCAPMの有効性の限界を踏まえて考案されたマルチファクターモデルとCAPMの応用方法について説明する。 	<p>【予習】基本テキストの第11章と講義用資料を読んでおくこと。</p>	60
第12回	<p>デリバティブ取引</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デリバティブ取引とは何かについて復習したうえで、代表的なデリバティブ取引である先渡・先物取引とオプション取引について具体的な取引の仕組みを説明する。 ・デリバティブ取引の価格形成と活用方法を説明する。 	<p>【予習・復習】基本テキストの第12章と講義用資料を読んでおくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デリバティブの概要や先渡・先物取引とオプション取引の詳しい仕組みについては、参考書『証券論』の第9～11章を参照。 	60
第13回	<p>コーポレートファイナンスの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートファイナンスの全体像を示したうえで、投資政策、資本構成、ペイアウト (配当) 政策の概要を説明する。 	<p>【予習・復習】基本テキストの第13～16章と講義用資料を読んでおくこと。</p>	60
第14回	<p>コーポレートガバナンスと社会的責任投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社制度の発展の歴史に触れたうえで、会社の経営が適切に行われるように企業経営者をコントロールするコーポレートガバナンスの重要性と具体的な取り組みについて説明する。 ・投資家側でも、単にリターンの達成を目指すだけでなく、企業活動の社会的な影響にも配慮すべきことを意味する社会的責任投資についても説明する。 	<p>【予習・復習】基本テキストの第13、17章と講義用資料を読んでおくこと。</p>	120
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回配布するレジュメに基づいて、講義形式で進める。 ・計算例を用いて説明することがあるので、電卓を手元に用意すること。 ・理解度を確認するために、課題とは別に演習問題 (提出や採点はなし) を課す。翌週、答え合わせを行う。 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験を60%、課題を40%の配分で評価を行う。 ・計算問題を中心とする理解度を確認するための課題が4回：10点×4＝40点 			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準 (学則第39条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p> <p>主に、以下の点に関する到達度に応じて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイナンス論の基礎知識を身につけているか ・基本的な計算問題を解くことができるか 			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕</p> <p>特になし</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>『ファイナンス論・入門』俊野雅司・白須洋子・時岡規夫、有斐閣、2020年</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>『現代ファイナンス論 (改訂版) - 意思決定のための理論と実践』ツヴィ・ボディ、ロバート・マートン[著]、大前恵一朗[訳]、ピアソン・エデュケーション、2001年</p> <p>『証券論』大村敬一・俊野雅司、有斐閣、2014年</p>			
<p>〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	ファイナンスの基礎／＜2＞						
教員名	時岡 規夫						
科目No.	122324100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>経済主体の金融に関わる意思決定や金融取引を研究対象とする学問分野であるファイナンスの中で、1950年代以降本格的に展開されるようになるミクロ経済学に基礎を置いた分析フレームを現代ファイナンスと呼んでいます。</p> <p>この授業は、「現代ファイナンス」とよばれる分野の基礎的な内容についての理解を深めることを目的とします。そして、そこでは、しばしば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金の供給主体で証券の需要主体である投資家の資産選択問題などをテーマとする証券投資 ・資金の需要主体で証券の供給主体である企業の投資政策や資本構成や利益還元政策などをテーマとするコーポレート・ファイナンス(企業金融論) ・資金と証券の交換メカニズムである証券市場や銀行 <p>に大別して説明されます。この授業では、はじめに、ファイナンスの学問分野としての特徴、現代ファイナンスの分析フレームワークとしての特徴を概観したのちに、ファイナンスのうち、コーポレート・ファイナンス(企業金融論)に焦点を当て、企業の投資政策、資本構成、利益還元政策の、3つの基本問題とされる企業の意思決定の理論と具体的な事例や関連データをまじえて実際について理解を深めることをめざします。</p> <p>コーポレート・ファイナンス(企業金融論)の基本的な内容については「企業経営の基礎」や「会社のしくみと制度」ですすでに修得済みでしょうが、ここではそれらを確認した上で、さらに詳しい内容について学んでいきます。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、ファイナンスの学問分野としての特徴、現代ファイナンスの分析フレームワークとしての特徴、さらには、ファイナンスのうち、資金の需要主体で証券の供給主体である企業の金融に関する意思決定をテーマとするコーポレート・ファイナンス(企業金融論)の基本問題とされる、投資政策、資本構成、利益還元政策に関する理論と実際について理解し、明確に説明できることを到達目標とします。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	<p>ガイダンスとイントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかた等を説明します。 ・ファイナンスとはどのような学問分野かについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。</p> <p>【復習】配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。</p>		120	
第2回	<p>イントロダクション：現代ファイナンスについて</p> <p>※以下、進捗状況等に応じて内容が一部変更される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学に基礎を置いた分析フレームワークである現代ファイナンスについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第3回	<p>イントロダクション：現代ファイナンスのトピックス(その1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証券投資論とコーポレート(企業金融論)のトピックについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第4回	<p>イントロダクション：現代ファイナンスのトピックス(その2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証券市場論と銀行論のトピックについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第5回	<p>企業の投資政策(その1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の投資政策とは何かについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第6回	<p>企業の投資政策(その2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正味現在価値ルールについて(1)将来のキャッシュフローに不確実性がない場合を学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第7回	<p>企業の投資政策(その3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正味現在価値ルールについて(2)将来のキャッシュフローにリスクがある場合を学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第8回	<p>企業の投資政策(その4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正味現在価値ルール以外の投資プロジェクトの採用基準とその問題点について学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第9回	<p>企業の資本構成(その1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の資本構成とは何かについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第10回	<p>企業の資本構成(その2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資本構成に関するモディリアーニ=ミラーの定理について学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第11回	<p>企業の資本構成(その3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資本構成の具体的な事例、関連データについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第12回	<p>企業の利益還元政策(その1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の利益還元政策とは何か、企業の配当政策と自己株式取得について学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第13回	<p>企業の利益還元政策(その2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配当政策に関するミラー=モディリアーニの定理について学修します。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	

	・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。		
第14回	企業の利益還元政策（その3） ・利益還元政策の具体的な事例、関連データについて学修します。	【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。	90
〔授業の方法〕 通常の講義形式で進めますが、授業中にクイズなどを出すことがあります。また、レポートの提出を求めることがあるかもしれません。ふだんから復習に力を入れ、次回の授業にわからないところを持ち越さないように心がけてください。上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。なお、クイズ、レポートの主なねらいは次のとおりです。 ・クイズ：学修内容についての基本的な理解度やキーワードの理解を確認する。 ・レポート：課題内容を理解し、学修内容をふまえて自分の理解を明確に説明できているかを確認する。 授業自体は、配布資料等を基に、講義内容を詳述します。			
〔成績評価の方法〕 学期末試験および授業中に出されるクイズなどの取り組み状況等ならびにレポートの提出状況・内容等によって総合的に評価します。評価ウェイトは学期末試験が80%、クイズやレポートなどの平常点が20%を目安とする予定です。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ・ファイナンスの学問分野としての特徴、現代ファイナンスの分析フレームワークとしての特徴、さらには、ファイナンスのうち、資金の需要主体で証券の供給主体である企業の金融に関する意思決定をテーマとするコーポレート・ファイナンス（企業金融論）の基本問題とされる、投資政策、資本構成、利益還元政策に関する理論と実際について理解し、明確に説明できる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目としては、「企業経営の基礎」、「会社のしくみと制度」など。 関連科目としては、「ミクロ経済学の基礎」、「マクロ経済学の基礎」、「コーポレート・ファイナンス」、「資産選択の意思決定」、「証券市場」、「社会理解実践講義（資本市場の役割と証券投資）」など。			
〔テキスト〕 ・俊野 雅司・白須 洋子・時岡 規夫〔著〕、2020、『ファイナンス論・入門』、有斐閣（3,600円＋税、ISBN 978-4-641-16570-0） はじめの授業日に担当者から説明があります。			
〔参考書〕 とりあえず ・新井 富雄・渡辺 茂・太田 智之〔著〕、1999、『資本市場とコーポレート・ファイナンス』、中央経済社（3,500円＋税、ISBN 4-502-34902-1） ・砂川 伸幸、2017、『コーポレート・ファイナンス入門』、第2版、日本経済新聞社（860円＋税、ISBN 978-4-532-11368-1） ・岸本 光永・津森 信也・阿部 正樹〔著〕、1999、『現代ファイナンス入門』、中央経済社（3,000円＋税、ISBN 4-502-34882-1） ・榎原 茂樹・菊池 誠一・新井 富雄・太田 浩司〔著〕、2011、『現代の財務管理』、新版、有斐閣（2,100円＋税、ISBN 4-641-12427-2） ・米澤 康博・小西 大・芹田 敏夫〔著〕、2004、『新しい企業金融』、有斐閣（1,900円＋税、ISBN 4-641-12217-2） ・Brealey, Richard A., Stewart C. Myers, and Franklin Allen, 2020, Principles of Corporate Finance, 13th ed., New York: McGraw-Hill Education (ISBN 978-1-260-56555-3)（邦訳の最新版は第10版；リチャード・ブリーリーニースチュワート・マイヤーズ＝フランクリン・アレン〔著〕、藤井 真理子・國枝 繁樹〔監訳〕、2014、『コーポレートファイナンス』、第10版、上・下、日経BP社） を挙げますが、その他、個々のトピックスに関する参考書・参考資料等の参考文献は授業中に適宜紹介、配付します。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。			
〔特記事項〕			

科目名	基本簿記／< 1 >						
教員名	伊藤 克容						
科目No.	122325000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>ビジネスで活躍するために「簿記」は、ひじょうに有力なスキルです。簿記の基礎を何もない状態から基本がひととおりできるところまで勉強します。この講義では、「企業会計の基礎」で取り扱った、会計情報作成のプロセスをさらに深めていきます。具体的には、企業会計でアウトプットされる会計数値を作成する上でのもっとも基本的なスキルである「複式簿記」という計算技術の基本原則を習得を目的とします。</p> <p>会計専門職（公認会計士、税理士など）を志す人や金融機関で活躍することを将来の目標に掲げている人にとっては必須の内容です。一般企業に就職してビジネスパーソンとして実力をつけたいと考えている人にとっても現段階で備えておいた方が圧倒的に有利な知識です。</p> <p>スキルの習得のためには、やはり実習が不可欠です。基本的な知識については解説を加えますが、主役は講義に参加する皆さんです。五感を研ぎ澄まし、それぞれ主体的に反応し、電卓をたたくなどの能動的な作業が必須となります。そのため、欠席がちになりそうな人にはお勧めしない授業です。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1(専門分野の知識・技能), DP3(課題の発見と解決)を達成目標として授業を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複式簿記の基本を理解し、実施できる ・企業や組織がかかわる様々な取引を認識し、その内容を適切に記録して外部に報告できる ・日本商工会議所主催の「簿記検定3級」に合格できるスキルを身に付ける 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス（企業会計の基本構造、成績評価の方法）			【予習】簿記とはどのようなものか、書籍、ウェブサイトなどで自分なりに調べておくこと。 【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 基本用語の理解 財務諸表の構造 基本3式をつかった計算問題			60
第2回	重要な財務諸表について（損益計算書、貸借対照表のレイアウト、情報内容）			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 財務諸表の構造と意味内容 基本3式の運用			60
第3回	基本的な取引の処理(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルールの運用 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。			60
第4回	基本的な取引の処理(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルールの運用 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。 期首残高がある場合に特に注意する。			60
第5回	簿記一巡の手続き(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 計算間違いに気を付ける。			60
第6回	簿記一巡の手続き(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルールの運用 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。			60
第7回	総合問題演習（前半のまとめ）			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 基本の初歩が身に付いたかどうかをチェックする。			60
第8回	現金・当座預金関連の取引の処理			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 小切手の取扱い、当座預金・当座借越勘定について、十分に理解する。			60
第9回	手形関連の取引の処理、帳簿組織			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 約束手形の機能と帳簿組織の概要について、しっかり復習し、定着させる。			60
第10回	商品売買取引の処理			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 商品売買取引の処理方法（3分法）についてしっかり理解する。 売上原価の算定公式をつかえるようにしておく。			60
第11回	期末決算と決算整理事項の処理(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 貸倒引当金の設定、減価償却、売上原価の算定など基本的な処理を完璧にマスターする。			60
第12回	期末決算と決算整理事項の処理(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 前払費用、未払費用、前受収益、未収収益について完璧に処理できるようにする。			60
第13回	期末決算と決算整理事項の処理(3)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 小口現金、現金過不足、消耗品などの処理をマスターする。			60
第14回	伝票会計、総合問題演習			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 伝票の意義と運用方法について理解する。			60
〔授業の方法〕							

基本的には講義形式をとりますが、受講者の授業参加、課題提出なども求められます。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみるようにしてください。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いているうちに段々分かっていくということが、頻繁にあります。計算問題をする際に必要となるので、毎時間かならず自分用の電卓をもってきてください。

〔成績評価の方法〕

毎回の課題提出（40%）、授業への貢献（発言、問題演習の回答）（60%）を基本に評価します。
積極的に参加する意欲の高い受講者に対して加点します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
次の到達目標に着目し、その達成度を総合的に評価します。

- ①複式簿記の計算構造を理解している
- ②単純な複式簿記の計算実務を実施することができる
- ③決算整理事項を含む、多少複雑な複式簿記の計算実務（日商簿記検定3級レベル）を実施することができる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「[企業会計の基礎]で学んだ知識があれば、十分です。基礎から勉強します。特定の先修科目を前提としません。

経営、企業、会計、金融などへの一般的な関心・興味があったほうがよいでしょう。

複式簿記は、会計の基本的な情報を提供する情報処理機構です。多くの会計科目の基礎として位置付けられます。関連科目として、会計関連の諸科目の受講をすすめます。

この講義で基礎を固め、学外の検定試験などへの挑戦を推奨します。

〔テキスト〕

特になし
授業時に資料を配付します。

〔参考書〕

特になし
必要に応じて指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名	基本簿記／< 2 >						
教員名	河路 武志						
科目No.	122325100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>ビジネスで活躍するために「簿記」は、ひじょうに有力なスキルです。簿記の基礎を何もない状態から基本がひととおりできるところまで勉強します。この講義では、「企業会計の基礎」で取り扱った、会計情報作成のプロセスをさらに深めていきます。具体的には、企業会計でアウトプットされる会計数値を作成する上でのもっとも基本的なスキルである「複式簿記」という計算技術の基本原則を習得を目的とします。</p> <p>会計専門職（公認会計士、税理士など）を志す人や金融機関で活躍することを将来の目標に掲げている人にとっては必須の内容です。一般企業に就職してビジネスパーソンとして実力をつけたいと考えている人にとっても現段階で備えておいた方が圧倒的に有利な知識です。</p> <p>スキルの習得のためには、やはり実習が不可欠です。基本的な知識については解説を加えますが、主役は講義に参加する皆さんです。五感を研ぎ澄まし、それぞれ主体的に反応し、電卓をたたくなどの能動的な作業が必須となります。そのため、欠席がちになりそうな人にはお勧めしない授業です。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1(専門分野の知識・技能), DP3(課題の発見と解決)を達成目標として授業を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複式簿記の基本を理解し、実施できる ・企業や組織がかかわる様々な取引を認識し、その内容を適切に記録して外部に報告できる ・日本商工会議所主催の「簿記検定3級」に合格できるスキルを身に付ける 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス（企業会計の基本構造、成績評価の方法）			【予習】簿記とはどのようなものか、書籍、ウェブサイトなどで自分なりに調べておくこと。 【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 基本用語の理解 財務諸表の構造 基本3式をつかった計算問題			60
第2回	重要な財務諸表について（損益計算書、貸借対照表のレイアウト、情報内容）			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 財務諸表の構造と意味内容 基本3式の運用			60
第3回	基本的な取引の処理(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルールの運用 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。			60
第4回	基本的な取引の処理(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルールの運用 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。 期首残高がある場合に特に注意する。			60
第5回	簿記一巡の手続き(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 計算間違いに気を付ける。			60
第6回	簿記一巡の手続き(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルールの運用 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。			60
第7回	総合問題演習（前半のまとめ）			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 基本の初歩が身に付いたかどうかをチェックする。			60
第8回	現金・当座預金関連の取引の処理			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 小切手の取扱い、当座預金・当座借越勘定について、十分に理解する。			60
第9回	手形関連の取引の処理、帳簿組織			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 約束手形の機能と帳簿組織の概要について、しっかり復習し、定着させる。			60
第10回	商品売買取引の処理			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 商品売買取引の処理方法（3分法）についてしっかり理解する。 売上原価の算定公式をつかえるようにしておく。			60
第11回	期末決算と決算整理事項の処理(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 貸倒引当金の設定、減価償却、売上原価の算定など基本的な処理を完璧にマスターする。			60
第12回	期末決算と決算整理事項の処理(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 前払費用、未払費用、前受収益、未収収益について完璧に処理できるようにする。			60
第13回	期末決算と決算整理事項の処理(3)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 小口現金、現金過不足、消耗品などの処理をマスターする。			60
第14回	伝票会計、総合問題演習			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 伝票の意義と運用方法について理解する。			60
〔授業の方法〕							

基本的には講義形式をとりますが、受講者の授業参加、課題提出なども求められます。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみるようにしてください。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いているうちに段々分かっていくということが、頻繁にあります。計算問題をする際に必要となるので、毎時間かならず自分用の電卓をもってきてください。

〔成績評価の方法〕

毎回の課題提出（40%）、授業への貢献（発言、問題演習の回答）（60%）を基本に評価します。
積極的に参加する意欲の高い受講者に対して加点します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
次の到達目標に着目し、その達成度を総合的に評価します。

- ①複式簿記の計算構造を理解している
- ②単純な複式簿記の計算実務を実施することができる
- ③決算整理事項を含む、多少複雑な複式簿記の計算実務（日商簿記検定3級レベル）を実施することができる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「[企業会計の基礎]で学んだ知識があれば、十分です。基礎から勉強します。特定の先修科目を前提としません。

経営、企業、会計、金融などへの一般的な関心・興味があったほうがよいでしょう。

複式簿記は、会計の基本的な情報を提供する情報処理機構です。多くの会計科目の基礎として位置付けられます。関連科目として、会計関連の諸科目の受講をすすめます。

この講義で基礎を固め、学外の検定試験などへの挑戦を推奨します。

〔テキスト〕

特になし
授業時に資料を配付します。

〔参考書〕

特になし
必要に応じて指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名	国際経営 / < 1 >						
教員名	時岡 規夫						
科目No.	122326000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>以下の問題関心に沿って、できるだけ最近の事例をまじえつつ、企業活動の国際化についての理解を深めることを目的とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業活動の「国際化」とは、どういうことなのか？ ・その国際化はどのようにして行なわれるのか？ ・なぜ、企業は国際化するのか？ ・国内だけの経営を考える場合にはない、国際経営ならではの課題にどのようなものがあるか？ <p>ところで、国際経営の分野は、相対的に学際的な性格が強いため、関連する学問領域の成果についても随時織り交ぜていく予定です。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、以下を到達目標とします：</p> <p>企業活動の国際化についての理解を深めることをめざします。</p> <p>さらに、国際経営に関連する学問領域の成果について身につけることをめざします。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかた等を説明します。 ・国際経営の学問上の位置づけ（第2回）を説明する準備をします。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【予習】 シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。</p> <p>【復習】 配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。</p>		60	
第2回	<p>イントロダクション：国際経営の学問上の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際経営の学問上の位置づけを把握します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		60	
第3回	<p>企業の国際化：最近の動きから</p> <p>※以下、進捗状況等に応じて授業の計画・内容が一部変更される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の事例を取り上げて、国際経営の基本的な観点を確認します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第4回	<p>日本の自動車産業の歴史から国際経営を考える（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の自動車産業の歴史を事例として、国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第5回	<p>日本の自動車産業の歴史から国際経営を考える（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、日本の自動車産業の歴史を事例として、国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第6回	<p>日本の自動車産業の歴史から国際経営を考える（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、日本の自動車産業の歴史を事例として、国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第7回	<p>日本の自動車産業の歴史から国際経営を考える（その4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、日本の自動車産業の歴史を事例として、国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第8回	<p>為替レートとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・為替レートについての基本的な知識を修得します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第9回	<p>為替レートと国際経営（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・為替レートと国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第10回	<p>為替レートと国際経営（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、為替レートと国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第11回	<p>多国籍企業とは、コーポレート・ガバナンスと国際経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多国籍企業についての理解を深めます。 ・コーポレート・ガバナンスの観点から、国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第12回	<p>直接投資とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接投資についての基本的な知識を修得します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第13回	<p>直接投資の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接投資の現状についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第14回	<p>直接投資の理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接投資の理論を学修します。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	

〔授業の方法〕

通常の講義形式で進めますが、授業中にクイズなどを出すことがあります。また、レポートの提出を求める予定です。ふだんから復習に力を入れ、次回の授業にわからないところを持ち越さないように心がけてください。上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。なお、クイズ、レポートのねらいは次のとおりです。

- ・クイズ：その回の学修内容についての基本的な理解度やキーワードの理解を確認する。
- ・レポート：課題内容を理解し、学修内容をふまえて自分の理解を明確に説明できているかを確認する。

授業自体は、配布資料等を基に、講義内容を詳述します。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および授業中に出されるクイズなどの取り組み状況等ならびにレポートの提出状況・内容等によって総合的に評価します。評価ウェイトは学期末試験が80%、クイズやレポートなどの平常点が20%を目安とする予定です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①企業活動の国際化について理解し、明確に説明できる。
- ②国際経営に関連する学問領域の成果について明確に説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目としては、「企業経営の基礎」など。

関連科目としては、「会社のしくみと制度」、「ミクロ経済学の基礎」、「マクロ経済学の基礎」、「経営戦略」、「マーケティング」、「人間行動と組織」、「ファイナンスの基礎」、「競争戦略」、「産業の経済学」、「企業の国際戦略」など。

〔テキスト〕

現時点では使用するかどうかを含め未定です。

はじめの授業日に担当者から説明があります。

〔参考書〕

全般的な参考書として、

- ・大木 清弘〔著〕、2017、『コア・テキスト国際経営』、ライブラリ 経営学コア・テキスト 11、新世社（2,500円＋税、ISBN 978-4-88384-266-7）をとりあえず挙げておきます。その他、個々のトピックスに関する参考書・参考資料等の参考文献は授業中に適宜紹介等します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名	ゲーム理論/< 1 >						
教員名	平尾 由紀子						
科目No.	122327000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>ゲーム理論は、企業同士の関係、人と人との関係、国家間関係などにおける戦略的な行動を理解する上で役に立つ知識を与えてくれる。企業同士の競争と協力関係、スポーツや戦争における戦略、労使交渉や国家間交渉など様々な状況をゲーム理論によって分析することができる。また、オークションや公共財の供給などの経済政策もゲーム理論を使って制度設計されている。この授業では、ゲーム理論の基礎を学ぶ。</p> <p>なお、授業の進捗に応じて、以下の授業の計画・内容、及び宿題の回数と提出日を一部変更する場合がある。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①ゲーム理論の基礎的な概念を学び、さまざまなゲームの結果を導出する理論的な理解力を養う。</p> <p>②理論を産業の経済学、金融、競争戦略、経営戦略、企業の国際戦略などの分野に応用して分析するための基礎知識を身につける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション ・ゲーム理論の事例、理論の発展史、紹介			【復習】 授業の内容を復習する。			60
第2回	完備情報下の静学的ゲーム#1 ・囚人のジレンマと支配戦略均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題1に取り組む。			120
第3回	宿題1の解説 完備情報下の静学的ゲーム#2 ・順次消去による支配戦略均衡とナッシュ純粋戦略均衡			【復習】 授業の内容を復習する。宿題1の理解を確認する。			60
第4回	完備情報下の静学的ゲーム#3 ・ナッシュ混合戦略均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題2に取り組む。			120
第5回	宿題2の解説 完備情報下の静学的ゲーム#4 ・クールノー数量競争とベルトラン価格競争			【復習】 授業の内容を復習する。宿題2の理解を確認する。			60
第6回	完備情報下における動学的ゲーム#1 ・展開型ゲームとサブゲーム完全均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題3に取り組む。			120
第7回	宿題3の解説 完備情報下における動学的ゲーム#2 ・ナッシュ均衡とサブゲーム完全均衡の関係			【復習】 授業の内容を復習する。宿題3の理解を確認する。			60
第8回	完備情報下における動学的ゲーム#3 ・繰り返しのゲーム			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題4に取り組む。			120
第9回	宿題4の解説 完備情報下における動学的ゲーム#4 ・交渉ゲーム			【復習】 授業の内容を復習する。宿題4の理解を確認する。			60
第10回	不完備情報下における静学的ゲーム#1 ・ベイジアン・ナッシュ均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題5に取り組む。			120
第11回	宿題5の解説 不完備情報下における静学的ゲーム#2 ・オークションその1			【復習】 授業の内容を復習する。宿題5の理解を確認する。			60
第12回	不完備情報下における静学的ゲーム#3 ・オークションその2			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題6に取り組む。			120
第13回	宿題6の解説 不完備情報下における動学的ゲーム#1 ・ベイズの公式と完全ベイジアン均衡			【復習】 授業の内容を復習する。宿題6の理解を確認する。			60
第14回	全体のまとめ			【復習】 これまでの授業全体の学習内容を復習する。			120
〔授業の方法〕							
<p>授業時にはプリントを配布し、それをもとに講義を行う。授業中の短い演習問題と授業外の宿題を定期的に課し、学生の理解度を見ながら授業を進める。学生は、これらの課題に取り組むことにより、授業の復習をする。分からないことを次の授業に持ち越さないようにする。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、演習、宿題と期末レポートの狙いは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の短い演習と授業外の宿題：その時々の授業内容の理解を確認する。 ・期末レポート：学期中に学んだゲーム理論の内容全般の理解を深める。 							
〔成績評価の方法〕							
<p>平常点（評価の60%程度）と学期末の課題レポート（評価の40%程度）を目安として、総合的に成績評価する。</p> <p>平常点は、授業中の演習問題（毎授業時提出）と、授業外で取り組む宿題（隔週提出）から成る。</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①ゲーム理論の基礎的な概念を学び、さまざまなゲームの均衡を導出する理論の基礎を理解している。
- ②ゲーム理論を産業の経済学、金融、競争戦略、経営戦略、企業の国際戦略などの分野に応用して分析するための基礎知識を身に付けている。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な先修科目は特になし。関連が深いのは「戦略とマーケティング」群の科目。ただし、履修していなくても差し支えない。

〔テキスト〕

- ・渡辺隆裕（2008）『ゼミナール ゲーム理論入門』、日本経済新聞社、3500円＋税（ISBN978-4-532-13346-7）。
- ただし、講義プリントを配布するので、テキストの購入は不要。

〔参考書〕

- ・梶井厚志、松井彰彦（2000）『マイクロ経済学 戦略的アプローチ』、日本評論社、2300円＋税（ISBN4-535-55202-9）。
- ・神戸伸輔（2004）『入門ゲーム理論と情報の経済学』、日本評論社、2500円＋税（ISBN4-535-55414-5）。
- ・松島斉（2018）『ゲーム理論はアート』、日本評論社、2000円＋税（ISBN978-4-535-55892-2）。
- ・R. ギボンズ（1995）『経済学のためのゲーム理論入門』、創文社、3200円＋税（ISBN4-423-85080）。
- ・A. ディキジット、B. ネイルバフ（2010）『戦略的思考をどう実践するか』、阪急コミュニケーションズ、4000円＋税（ISBN4-484-10108-8）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	ゲーム理論/< 2 >						
教員名	平尾 由紀子						
科目No.	122327100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>ゲーム理論は、企業同士の関係、人と人との関係、国家間の関係などにおける戦略的な行動を理解する上で役に立つ知識を与えてくれる。企業同士の競争と協力関係、スポーツや戦争における戦略、労使交渉や国家間交渉など様々な状況をゲーム理論によって分析することができる。また、オークションや公共財の供給などの経済政策もゲーム理論を使って制度設計されている。この授業では、ゲーム理論の基礎を学ぶ。</p> <p>なお、授業の進捗に応じて、以下の授業の計画・内容、及び宿題の回数と提出日を一部変更する場合がある。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①ゲーム理論の基礎的な概念を学び、さまざまなゲームの結果を導出する理論的な理解力を養う。</p> <p>②理論を産業の経済学、金融、競争戦略、経営戦略、企業の国際戦略などの分野に応用して分析するための基礎知識を身につける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・ゲーム理論の事例、理論の発展史、紹介			【復習】 授業の内容を復習する。		60	
第2回	完備情報下の静学的ゲーム#1 ・囚人のジレンマと支配戦略均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題1に取り組む。		120	
第3回	宿題1の解説 完備情報下の静学的ゲーム#2 ・順次消去による支配戦略均衡とナッシュ純粋戦略均衡			【復習】 授業の内容を復習する。宿題1の理解を確認する。		60	
第4回	完備情報下の静学的ゲーム#3 ・ナッシュ混合戦略均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題2に取り組む。		120	
第5回	宿題2の解説 完備情報下の静学的ゲーム#4 ・クールノー数量競争とベルトラン価格競争			【復習】 授業の内容を復習する。宿題2の理解を確認する。		60	
第6回	完備情報下における動学的ゲーム#1 ・展開型ゲームとサブゲーム完全均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題3に取り組む。		120	
第7回	宿題3の解説 完備情報下における動学的ゲーム#2 ・ナッシュ均衡とサブゲーム完全均衡の関係			【復習】 授業の内容を復習する。宿題3の理解を確認する。		60	
第8回	完備情報下における動学的ゲーム#3 ・繰り返しのゲーム			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題4に取り組む。		120	
第9回	宿題4の解説 完備情報下における動学的ゲーム#4 ・交渉ゲーム			【復習】 授業の内容を復習する。宿題4の理解を確認する。		60	
第10回	不完備情報下における静学的ゲーム#1 ・ベイジアン・ナッシュ均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題5に取り組む。		120	
第11回	宿題5の解説 不完備情報下における静学的ゲーム#2 ・オークションその1			【復習】 授業の内容を復習する。宿題5の理解を確認する。		60	
第12回	不完備情報下における静学的ゲーム#3 ・オークションその2			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題6に取り組む。		120	
第13回	宿題6の解説 不完備情報下における動学的ゲーム#1 ・ベイズの公式と完全ベイジアン均衡			【復習】 授業の内容を復習する。宿題6の理解を確認する。		60	
第14回	全体のまとめ			【復習】 これまでの授業全体の学習内容を復習する。		120	
〔授業の方法〕							
<p>授業時にはプリントを配布し、それをもとに講義を行う。授業中の短い演習問題と授業外の宿題を定期的に課し、学生の理解度を見ながら授業を進める。学生は、これらの課題に取り組むことにより、授業の復習をする。分からないことを次の授業に持ち越さないようにする。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、演習、宿題と期末レポートの狙いは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の短い演習と授業外の宿題：その時々の授業内容の理解を確認する。 ・期末レポート：学期中に学んだゲーム理論の内容全般の理解を深める。 							
〔成績評価の方法〕							
<p>平常点（評価の60%程度）と学期末の課題レポート（評価の40%程度）を目安として、総合的に成績評価する。</p> <p>平常点は、授業中の演習問題（毎授業時提出）と、授業外で取り組む宿題（隔週提出）から成る。</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①ゲーム理論の基礎的な概念を学び、さまざまなゲームの均衡を導出する理論の基礎を理解している。
- ②ゲーム理論を産業の経済学、金融、競争戦略、経営戦略、企業の国際戦略などの分野に応用して分析するための基礎知識を身に付けている。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な先修科目は特になし。関連が深いのは「戦略とマーケティング」群の科目。ただし、履修していなくても差し支えない。

〔テキスト〕

- ・渡辺隆裕（2008）『ゼミナール ゲーム理論入門』、日本経済新聞社、3500円＋税（ISBN978-4-532-13346-7）。
- ただし、講義プリントを配布するので、テキストの購入は不要。

〔参考書〕

- ・梶井厚志、松井彰彦（2000）『マイクロ経済学 戦略的アプローチ』、日本評論社、2300円＋税（ISBN4-535-55202-9）。
- ・神戸伸輔（2004）『入門ゲーム理論と情報の経済学』、日本評論社、2500円＋税（ISBN4-535-55414-5）。
- ・松島斉（2018）『ゲーム理論はアート』、日本評論社、2000円＋税（ISBN978-4-535-55892-2）。
- ・R. ギボンズ（1995）『経済学のためのゲーム理論入門』、創文社、3200円＋税（ISBN4-423-85080）。
- ・A. ディキジット、B. ネイルバフ（2010）『戦略的思考をどう実践するか』、阪急コミュニケーションズ、4000円＋税（ISBN4-484-10108-8）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	経営情報／< 1 >						
教員名	山崎 由香里						
科目No.	122328000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
[テーマ・概要]							
<p>テーマ：企業活動（ビジネス）の情報化に関する諸理論およびトピックスの体系的理解</p> <p>企業の経営資源「ヒト・モノ・カネ」に加えて新たな経営資源として着目される「情報」は、企業活動において不可欠である以上に、企業が唯一無二のケイパビリティを活かして競争優位を獲得するための武器となる。社会に溢れるありとあらゆる情報の中から有益な情報を見出し的確な取捨選択を行う能力を身に着けることが、企業活動の勝者となるカギと言える。</p> <p>この授業では、“企業と情報”の関連性に着目して、企業にとって情報が不可欠となった背景から、情報を活用した企業経営の現状、さらには、ビジネスで飛び交うさまざまなキーワード（e.g., ERP, IoT, AI/ML, DX, 情報銀行, 情報倫理, プラットフォームビジネス, シェアリングエコノミー, フィンテック…）の意味や意図、解釈や社会における位置づけなどを理解し、企業活動および社会における情報に係る問題を解決する糸口を見出す。</p>							
[到達目標]							
<p>DP1「専門分野の知識・技能」およびDP3（課題の発見と解決）の実現のために、下記を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の情報化に关連する諸理論を理解する。 2. 企業活動における経営資源としての情報の位置づけや、競争優位源泉となる情報の価値を理解する。 3. 昨今のビジネスで飛び交うさまざまな情報関連キーワードを理解し、関連する諸問題を解決する方法を修得する。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション 授業の概要、成績評価方法等			シラバスを読み、授業内容を理解する。		60分	
第2回	経営情報に関する研究範囲			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第3回	企業組織と経営情報			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第4回	企業組織における経営情報および情報システム利活用の変遷			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第5回	経営情報とコミュニケーションと情報技術			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第6回	経営情報とビジネスプロセス			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第7回	インターネットビジネス(1)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第8回	インターネットビジネス(2)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第9回	インターネットビジネス(3)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第10回	デジタルトランスフォーメーション（DX）			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第11回	システム監査と情報セキュリティ			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第12回	昨今の経営情報関連ビジネス(1)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第13回	昨今の経営情報関連ビジネス(2)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第14回	総括			前回授業の資料を再読する。 全ての授業の内容をまとめる。		60分	
[授業の方法]							
講義形式の授業である。毎回、授業内容の資料を配布する。時折、授業内の課題レポートなどを数回実施し、履修者の理解を深める。							
[成績評価の方法]							
平常点：授業態度（取り組み、課題提出状況等）20%、授業内で提出する課題成果30% 学期末試験：50%を目安に、総合的に評価する。							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. に基づき、下記の目標達成度により成績を評価する。

1. 企業の情報化に関連する諸理論を理解する。
2. 企業活動における経営資源としての情報の位置づけや、競争優位源泉となる情報の価値を理解する。
3. 昨今のビジネスで飛び交うさまざまな情報関連キーワードを理解し、関連する諸問題を解決する方法を修得する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし／企業経営の基礎／情報戦略、情報産業など

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

必要に応じて、授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

ICT 教育科目

科目名	経営情報 / < 2 >						
教員名	吉見 憲二						
科目No.	122328100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>経営のさまざまな領域に情報通信技術が活用されるようになり、「経営」と「情報」の結びつきはますます強くなっている。それに伴い、要求される基本知識も変化し、膨大になってきている。本授業では、テキストを通して「経営情報」について体系的に学ぶことにより、経営学における専門的な内容と併せて、情報社会における最先端のキーワードについて理解することを目的とする。さらに、テキストを1冊通読することにより、文献の読み方についても学んでいく。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】を実現するため、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>(1)「経営情報」に関連した基本用語を説明できる。 (2)情報社会における最先端のキーワードについて説明できる。 (3)文献から重要事項を自分なりに読み解くことができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション、情報社会における企業経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・テキスト第1章の内容について学修する。 ・テキスト第1章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】事前にシラバスをよく読み、質問等があれば用意しておく。第1章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第2回	<p>企業活動と情報システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第2章の内容について学修する。 ・テキスト第2章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第2章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第3回	<p>情報技術とインターネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第3章および第4章の内容について学修する。 ・テキスト第3章および第4章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第3章および第4章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第4回	<p>ナレッジマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第5章の内容について学修する。 ・テキスト第5章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第5章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第5回	<p>SCMにおける情報技術と組織能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第6章の内容について学修する。 ・テキスト第6章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第6章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第6回	<p>IT投資の効果とその測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第7章の内容について学修する。 ・テキスト第7章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第7章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第7回	<p>ビジネスプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第8章の内容について学修する。 ・テキスト第8章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第8章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第8回	<p>インターネットビジネスの戦略とビジネスモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第9章の内容について学修する。 ・テキスト第9章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第9章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第9回	<p>消費者向けネットビジネスとインターネット・マーケティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第10章の内容について学修する。 ・テキスト第10章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第10章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第10回	<p>経営情報システムの諸概念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第11章の内容について学修する。 ・テキスト第11章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第11章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第11回	<p>意思決定を支援する応用ソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第12章の内容について学修する。 ・テキスト第12章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第12章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第12回	<p>オフィス情報システムとEUC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第13章の内容について学修する。 ・テキスト第13章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第13章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第13回	<p>情報システムの計画・設計・開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第14章の内容について学修する。 ・テキスト第14章のキーワードについて理解する。 			<p>【予習】テキスト第14章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第14回	<p>情報システムの運営と管理、まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第15章の内容について学修する。 ・テキスト第15章のキーワードについて理解する。 ・シラバスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。 			<p>【予習】テキスト第15章の内容について事前に読んでおく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。期末試験に向けて準備する。</p>		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で進める。授業の構成として、①ディスカッション準備（10分）②前回内容の振り返り（20分）③ディスカッション（10分×2回）、④講義（40分）⑤質疑応答（10分）⑥小テスト（授業後）を基本とする。詳細は次の通りである。</p> <p>①冒頭に【予習】と関連したディスカッションテーマを提示し、10分間各自で考える時間を与える。</p> <p>②小テストの内容に関して次回授業の前半で振り返りを行い、優れた回答は全体に共有する。</p> <p>③授業時間中に、冒頭に提示したテーマに関して受講者にマイクを回し、ディスカッションを行う。受講人数に応じて実施形態については検討する。</p> <p>④講義は配布した資料を中心に展開する。なお、講義中にも受講者にマイクを回し、意見や回答を求めることがある。</p> <p>⑤ICTを活用した双方向型の授業として、スマートフォンでQRコードを読み取り、授業時間内に質問をできるようにする。授業の最後に質疑応答の時間を設</p>							

ける。

⑥e-ラーニングを活用した自主学習支援として、各回の授業内容に関連した小テストを【予習】【復習】扱いで実施する。

なお、テキストの内容をすべて授業で扱うことは困難であるため、特に重要事項や最新事項に絞って取り上げる。

〔成績評価の方法〕

各回の小テスト（14回：60%）と期末試験（40%）による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- (1) 「経営情報」に関連した基本用語を説明できるか。
- (2) 情報社会における最先端のキーワードについて説明できるか。
- (3) 文献から重要事項を自分なりに読み解くことができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特になし。

〔テキスト〕

『経営情報システム<第4版>』、宮川公男・上田泰(編著)、中央経済社、3,080円、978-4502091704

資料は毎回の授業で配布する。

〔参考書〕

『現代経営情報論』、遠山暁・村田潔・古賀広志、有斐閣、2,970円、978-978-4641221789、購入の必要なし

その他、参考文献については授業内で適宜提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

I C T活用

科目名		競争戦略					
教員名		浜松 翔平					
科目No.	122512000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>この授業では企業の活動について知り、「戦略とは何か」を理解することを目的とします。</p> <p>戦略には、競争戦略と経営戦略という二つの大きな流れがあります。競争戦略では一つのビジネス(事業)で成功するための方法を考えます。経営戦略では複数のビジネス(事業)を束ね、企業全体として成長していくための方法を考えます。</p> <p>この講義は、競争戦略の基礎的な理論や実際の企業の事例を説明します。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP2(課題の発見と解決)、DP6(専門分野の知識・理解)を実現するために、以下の3点を達成目標とする。</p> <p>(1)競争戦略論の基礎的な理論を理解することができる</p> <p>(2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる</p> <p>(3)競争戦略論の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	オリエンテーション			【復習】講義で扱った事例や理論に当てはまる企業の事例を探してみる		60	
第2回	競争戦略論とは `競争戦略論の全体像`			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第3回	マーケティング① `理論:顧客のニーズをとらえる`			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第4回	マーケティング② `理論:ニーズの多様性と相互作用を利用する`			【復習】書籍や新聞やインターネット等で理論に当てはまる企業事例を探す		60	
第5回	マーケティング③ `事例紹介`			【復習】企業の分析を実施する		90	
第6回	競争① `理論:競争優位を作る`			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第7回	競争② `理論:反撃を見越す、敵にしない`			【復習】書籍や新聞やインターネット等で理論に当てはまる企業事例を探す		60	
第8回	競争③ `事例紹介`			【復習】企業分析を実施する		90	
第9回	事業システム① `理論:事業システムでの差別化`			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第10回	事業システム② `理論:効率性と波及効果`			【復習】書籍や新聞やインターネット等で理論に当てはまる企業事例を探す		60	
第11回	事業システム③ `事例紹介`			【復習】企業の分析を実施する		90	
第12回	技術① `理論:技術蓄積の活用`			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第13回	技術② `理論:戦略と技術の関係`			【復習】書籍や新聞やインターネット等で理論に当てはまる企業事例を探す		60	
第14回	講義のまとめ			これまでの講義で学んだ内容を振り返る		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業は基本的には講義形式で行いますが、質疑応答やコメントシートの記載を通じて双方向の授業形式を取り入れます。講義の内容としては、2つに分かれます。まず、戦略の理論に関する講義です。これが本講義の中心的内容となります。そして、紹介した理論を用いて、実際の企業事例の分析を解説します。これらのプロセスを経験することで、競争戦略の基礎的理解を深め、その面白さを体験できる構成を取っています。</p> <p>講義の中で、受講者同士でのグループワークを実施することがあります。授業の進捗によって内容は一部変更する可能性があります。</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>中間評価(レポート)40%、最終評価(テスト)40%、平常点(コメントシートへの記載など)20%として、その他、授業への積極的な参加をプラスに評価します。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づいて評価する。

- (1) 競争戦略論の基礎的な理論を理解することができる
- (2) 実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる
- (3) 競争戦略論の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予習は特に必要ありません。その他に必要な作業は授業で指示します。

〔テキスト〕

テキストは必要ありません。講義におけるプレゼン資料がテキストになります。

〔参考書〕

伊丹敬之(2003)『経営戦略の論理（第3版）』日本経済新聞出版社.

伊丹敬之(2012)『経営戦略の論理（第4版）ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞出版社.

伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社.

購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	情報戦略						
教員名	吉見 憲二						
科目No.	122513000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>近年、GAF A (Google, Apple, Facebook, Amazon) や FANG (Facebook, Amazon, Netflix, Google) といった IT 企業が提供する商品・サービスが世界的に大きなシェアを獲得している。これらの企業は巨大なプラットフォームを持っている点が共通しており、そのサービスはプラットフォームの効果を最大限に発揮したものと なっている。本授業では、こうした企業のビジネスモデルをプラットフォーム戦略の観点から検討する。</p> <p>授業の前半では、テキストとなる文献の内容を中心にさまざまなプラットフォームの効果について概観する。後半では、Google, Apple, Facebook, Amazon のビジネスモデルについて取り上げ、どのようなプラットフォーム戦略を採用しているのか考察する。一連の学習を通して、IT 企業の情報戦略をプラットフォームの観点から理解することが本授業の目的である。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】を実現するため、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>(1) プラットフォームビジネスに関連した基本用語を説明できる。</p> <p>(2) プラットフォームのさまざまな効果について、その優位点や課題を含めて説明できる。</p> <p>(3) IT 企業のビジネスモデルについて、プラットフォーム戦略の観点から説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	イントロダクション ・シラバスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・プラットフォームの定義について理解する。			【予習】事前にシラバスをよく読み、質問等があれば用意しておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第2回	プラットフォームの基本 (1) ・レイヤー構造化について理解する。 ・ネットワーク効果について理解する。			【予習】「レイヤー構造化」と「ネットワーク効果」という用語について調べておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第3回	プラットフォームの基本 (2) ・クロスプラットフォームについて理解する。 ・デバイス転換について理解する。			【予習】「クロスプラットフォーム」と「デバイス転換」という用語について調べておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第4回	プラットフォームの広がり ・WTA (Winner Takes All) について理解する。 ・プロフィットプールの攻防について理解する。			【予習】「WTA (Winner Takes All)」と「プロフィットプール」という用語について調べておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第5回	プラットフォームの戦略 (1) ・エコシステムのマネジメントについて理解する。 ・スイッチングコストについて理解する。			【予習】「エコシステム」と「スイッチングコスト」という用語について調べておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第6回	プラットフォームの戦略 (2) ・マルチホーミングについて理解する。 ・包囲戦略について理解する。			【予習】「マルチホーミング」と「包囲戦略」という用語について調べておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第7回	中間まとめ ・これまでの授業内容について振り返る。 ・レポート課題に関する説明を行う。			【予習】これまでの授業内容で理解が不十分な点を確認しておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第8回	Google ・Google のビジネスモデルについて理解する。 ・Google のプラットフォーム戦略について議論する。			【予習】Google が提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第9回	Amazon ・Amazon のビジネスモデルについて理解する。 ・Amazon のプラットフォーム戦略について考える。			【予習】Amazon が提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第10回	Apple ・Apple のビジネスモデルについて理解する。 ・Apple のプラットフォーム戦略について考える。			【予習】Apple が提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第11回	Facebook ・Facebook のビジネスモデルについて理解する。 ・Facebook のプラットフォーム戦略について考える。			【予習】Facebook が提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第12回	その他の IT 企業 ・その他の IT 企業のビジネスモデルについて理解する。 ・その他の IT 企業のプラットフォーム戦略について考える。			【予習】講義で取り上げた企業以外にプラットフォーム戦略を活用している企業について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第13回	レポート課題のフィードバック ・実施したレポート課題について評価ポイントを理解する。 ・レポート執筆の基本事項について再度確認し、理解する。			【予習】自身の提出したレポートの内容について再確認しておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第14回	まとめ ・全体の内容を振り返り、それぞれの IT 企業がどのようなプラットフォーム戦略を採用しているかについて議論する。 ・シラバスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。			【予習】全体の内容を振り返り、それぞれの IT 企業がどのようなプラットフォーム戦略を採用しているかを考える。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。期末試験に向けて準備する。		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で進める。授業の構成として、①ディスカッション準備 (10分) ②前回内容の振り返り (20分) ③ディスカッション (10分×2回)、④講義 (40分) ⑤質疑応答 (10分) ⑥小テスト (授業後) を基本とする。詳細は次の通りである。</p> <p>①冒頭に【予習】と関連したディスカッションテーマを提示し、10分間各自で考える時間を与える。</p> <p>②小テストの内容に関して次回授業の前半で振り返りを行い、優れた回答は全体に共有する。</p> <p>③授業時間中に、冒頭に提示したテーマに関して受講者にマイクを回し、ディスカッションを行う。受講人数に応じて実施形態については検討する。</p>							

- ④講義は配布した資料を中心に展開する。なお、講義中にも受講者にマイクを回し、意見や回答を求めることがある。
- ⑤ICT を活用した双方向型の授業として、スマートフォンで QR コードを読み取り、授業時間内に質問をできるようにする。授業の最後に質疑応答の時間を設ける。
- ⑥e-ラーニングを活用した自主学习支援として、各回の授業内容に関連した小テストを【予習】【復習】扱いで実施する。
課題レポートの内容、評価基準については、授業内で説明する。

〔成績評価の方法〕

各回の小テスト（14回：42%）、課題レポート（18%）、期末試験（40%）による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
(1)プラットフォームビジネスに関連した基本用語を説明できるか。
(2)プラットフォームのさまざまな効果について、その優位点や課題を含めて説明できるか。
(3)IT企業のビジネスモデルについて、プラットフォーム戦略の観点から説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特になし。

〔テキスト〕

資料は毎回の授業で配布する。

〔参考書〕

『プラットフォームの教科書 超速成長ネットワーク効果の基本と応用』、根来龍之、日経 BP、1,870 円、978-4822255091、購入の必要なし
『プラットフォームビジネス最前線 26 の分野を図解とデータで徹底解剖』、富士通総研（編著）・早稲田大学ビジネススクール根来研究室（編著）・根来龍之（監修）、翔泳社、1,980 円、978-4798133973、購入の必要なし
その他、参考文献については授業内で適宜提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング
ICT活用

科目名	ベンチャー・ビジネス						
教員名	浜松 翔平						
科目No.	122514000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>現在、日本は様々なベンチャー企業（最近ではスタートアップ企業という）が生まれています。この講義では、ベンチャービジネス（＝スタートアップビジネス）の基礎的な理論や実際の企業の事例を解説します。</p> <p>本講義を受講することで、新しい企業を生み出すスタートアップのダイナミズムを知り、スタートアップについて考えたり、興味を持つきっかけとなるでしょう。講義では、現実の課題に対してスタートアップの理論がどのように適用できるかを理解できるように、現実の事例をもとに講義を進めます。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP2(課題の発見と解決)、DP6(専門分野の知識・理解)を実現するために、以下の3点を達成目標とする。</p> <p>(1)ベンチャービジネスの基礎的な理論を理解することができる</p> <p>(2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる</p> <p>(3)ベンチャービジネスの基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第2回	事業機会の発見			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第3回	事業機会の評価			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第4回	事業アイデア			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第5回	ビジネスモデル			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第6回	販売チャネル			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第7回	差別化			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第8回	事業計画			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第9回	チームビルディング			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第10回	資金調達			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第11回	キャッシュフロー			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第12回	企業成長			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第13回	サイドプロジェクト			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第14回	まとめ			復習:授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業は基本的には講義形式で行いますが、質疑応答やコメントシートの記載を通じて双方向の授業形式を取り入れます。講義の内容としては、2つに分かれます。まず、理論に関する講義です。これが本講義の中心的な内容となります。そして、紹介した理論を用いて、実際の企業事例の分析を解説します。これらのプロセスを経験することで、スタートアップの基礎的理解を深め、その面白さを体験できる構成を取っています。</p> <p>講義の中で、受講者同士でのグループワークを実施することがあります。授業の進捗によって内容は一部変更する可能性があります。</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>中間評価(レポート)40%、最終評価(テスト)40%、平常点(コメントシートへの記載など)20%として、その他、授業への積極的な参加をプラスに評価します。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
到達目標の達成度に基づいて評価する。

- (1)ベンチャービジネスの基礎的な理論を理解することができる
- (2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる
- (3)ベンチャービジネスの基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

忽那憲治ほか（2013）『アントレプレナーシップ入門-ベンチャーの創造を学ぶ』有斐閣ストゥディア。
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	ブランド戦略						
教員名	井上 淳子						
科目No.	122515000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>「ブランド」という言葉を聞いて、みなさんは何をイメージするでしょうか。ヨーロッパのいわゆる高級ブランドをイメージする人も多いかもしれませんが。しかし、そのような理解はブランドの一側面にすぎません。近年では、多くの企業がブランドに注目し、様々な戦略を検討しています。本講義では、高級ブランドにとどまらない網羅的なブランドの考え方を学んでいく予定です。具体的な企業の取り組み事例を交えながら、関連する理論や概念についての解説を進めていきます。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドに関連する理論について網羅的な知識を身につけること ・ブランド戦略の視点から、企業の取り組みの是非を自ら判断できるようになること ・自らブランド戦略を考案して提案できるようになること 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の全体像、進め方を説明する ・ブランドの重要性の高まりについて説明する 			【予習】 シラバスで講義のテーマと内容を把握しておく。		60	
第2回	<p>ブランドとマーケティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングにおけるブランドの位置づけについて説明する ・ブランドがマーケティング戦略に与える影響について検討する 			<p>【予習】 マーケティングなどの経営関連科目を復習しておく。</p> <p>【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。</p>		90	
第3回	<p>ブランド・エクイティ（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資産としてのブランドについて説明する ・ブランド認知の考え方について説明する ・ブランド連想の考え方について説明する 			【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第4回	<p>ブランド・エクイティ（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドロイヤルティの考え方について説明する ・知覚品質の考え方について説明する 			【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第5回	<p>ブランド要素（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド要素の選択基準について説明する ・授業内レポートの実施 			<p>【予習】 これまでの内容を整理しておく。</p> <p>【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。</p>		90	
第6回	<p>ブランド要素（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド要素の構成について説明する ・ブランド要素をもちいた戦略について検討する ・授業内レポートの振り返り 			【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第7回	<p>ブランド・ビジョン／ブランド・パーパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド・ビジョンとブランド・パーパスについて解説する。 ・ブランド・ビジョン／ブランド・パーパス実現のための対応を検討する。 			【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第8回	<p>ブランド・ポジショニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジショニング戦略のポイントについて説明する ・差別化戦略と類似化戦略について説明する 			【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第9回	<p>ブランド戦略（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドの参入順位について説明する ・ブランドの参入戦略について説明する ・授業内レポート 			<p>【予習】 これまでの内容を整理しておく。</p> <p>【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。</p>		90	
第10回	<p>ブランド戦略（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドの基本戦略について説明する ・ブランドの採用戦略について説明する ・授業内レポートの振り返り 			【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第11回	<p>ブランド戦略（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドの拡張戦略について説明する ・ブランド拡張の利点と欠点を整理する 			【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第12回	<p>ブランド戦略（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド体系について説明する ・ブランド体系の事例について説明する 			【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第13回	<p>ブランドの新たな動向（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドと消費者の関係性について説明する ・ブランド・コミットメントについて説明する 			【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第14回	<p>ブランドの新たな動向（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド・パーソナリティについて説明する ・ブランド経験について説明する 			【復習】 講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には講義形式で進めるが、必要に応じて、受講生に発言や発表を求める。 ・適宜、映像や新聞記事等を用いて実際のブランド戦略を考察したり、ブランド戦略にかかわる実務家を招いて話を聞いたりする（予定）。 ・授業内において複数回の小レポートを実施する。 							
〔成績評価の方法〕							

授業内で実施するクイズ、レポート（40%）、期末テスト（60%）によって評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①ブランドに関連する基本的な理論や概念を説明できるか。
- ②ブランド戦略を立案するうえで、重要な概念を理解できているか。
- ③企業のブランド戦略を自分なりの視点から評価できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「マーケティング」「競争戦略」「広告と市場」など経営関連科目全般。

〔テキスト〕

特に指定しません。重要な文献については適宜紹介します。

〔参考書〕

『戦略的ブランド・マネジメント』、ケビン・レーン・ケラー著、恩蔵直人監訳、東急エージェンシー。
『ブランド戦略論』、田中洋著、有斐閣。
『価値共創時代のブランド戦略-脱コモディティ化への挑戦-』、青木幸弘編著、ミネルヴァ書房。
『ブランド論-無形の差別化をつくる 20 の基本原則』、デービッド・アーカー著、阿久津聡訳、ダイヤモンド社。
（上記の参考書は購入の必要はありません。）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

このシラバスは対面授業の実施を前提に構成されています。オンラインでの実施となった場合には、内容等に変更が生じることを予めご了承ください。

科目名		消費者行動					
教員名		井上 淳子					
科目No.	122516000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>企業は消費者に自社の製品やサービスを購買してもらうためにマーケティング活動を展開しています。マーケティング活動はどのような場合に、どのようなプロセスで消費者に影響を及ぼしているのでしょうか。それを理解するためには消費者の行動や心理のプロセスについての理解が必要です。本講義では、消費者の購買意思決定プロセスに関する理論枠組みを、具体的なマーケティングの事例と関連付けながら解説します。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題認識」に始まり「購買後評価」に至る消費者の購買意思決定プロセスを理解し、消費者の記憶や知識、態度にかかわる諸理論を説明できる。 ・消費者行動の各理論と企業のマーケティング戦術との接点を見出し、効果的なマーケティング手法について自ら提案できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の全体像、進め方等を説明する。 ・マーケティングと消費者行動との関わり、接点について説明する。 			【予習】シラバスで講義のテーマと全体的な内容を把握しておく。		60	
第2回	<p>消費者の購買意思決定プロセス①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者が購買に向かうプロセス全体を理解する。 ・購買意思決定プロセス全体への影響要因について検討する。 			【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	<p>消費者の購買意思決定プロセス②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者がどのように問題（ニーズ）を認識するかを理解する。 ・動機に関する理論を修得する。 <p>*課題レポートの提出。</p>			<p>【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。</p> <p>【予習】レポート作成に必要な情報収集をしておく。</p>		60	
第4回	<p>消費者の購買意思決定プロセス③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者がどのように情報を探索し、処理するかを理解する。 <p>*前回レポートのフィードバック</p>			【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		90	
第5回	<p>消費者の関与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者関与の概念を理解する。 ・関与の高低に対応する戦略について考察する。 			【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	<p>消費者の知覚と記憶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の知覚から解釈、記憶へのプロセスを理解する。 <p>*課題レポートの提出。</p>			【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	<p>消費者の購買意思決定プロセス④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者がどのように選択肢を評価するか、購買意思決定方略の種類を理解する。 <p>*前回レポートのフィードバック</p>			【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。直近で自らが行った意思決定について方略のパターンを考察する。		60	
第8回	<p>消費者の学習と知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者が学習するメカニズムを理解する。 ・消費者の知識構造を理解する。 			【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	<p>消費者行動と自己</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己」にかかわる心理学的、社会学的理論を理解する。 ・自己表現としての消費者行動について考える。 <p>*課題レポートの提出。</p>			【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		90	
第10回	<p>消費者の態度 part 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の態度はどのように形成されるのかを理解する。 ・態度に関する諸理論を修得する。 <p>*前回レポートのフィードバック</p>			【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	<p>消費者の態度 part 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・態度に関するさまざまなとらえ方を理解する。 ・消費者の態度を形成、変容させるコミュニケーション手法について検討する。 			【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	<p>消費者の購買意思決定プロセス⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者が購買時に直面する選択課題について理解する。 ・購買のパターンや計画性について考察する。 			【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	<p>購買意思決定プロセス⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の購買後行動を考察する。 ・顧客満足の発生メカニズムを理解する。 <p>*課題レポートの提出。</p>			<p>【復習】講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。</p> <p>【予習】レポート作成に必要な情報を収集しておく。</p>		60	
第14回	<p>全体のまとめと復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントの復習と不明点等の質問に対して回答する。 			【予習】これまで講義で学んだ内容を振り返り、不明点等を洗い出しておく。		60	
〔授業の方法〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に講義形式で行うが、トピックに応じて受講生に考えを尋ねたり、グループでディスカッションするなどのインタラクションを取り入れる。 ・理解促進と企業事例を紹介するためにビデオ教材や新聞記事などを用いる。 ・受講生の理解度を確認するために授業内でクイズを行ったり、レポートを実施する。レポートは受講生が授業で得た知識を実際の消費者行動の分析や考察に適切に適用できているかを評価する。 							
〔成績評価の方法〕							

クイズ、課題レポート（40%）、期末テスト（60%）によって総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目しその到達度により評価する。

- ・消費者の購買意思決定プロセス全体が明確に説明できる。
- ・消費者の購買意思決定にかかわる心理プロセスについて主要な概念を説明できる。
- ・企業のマーケティングや消費者の行動（反応）について、理論に基づき考察、提案できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「マーケティング」、「競争戦略」、「ブランド戦略」など経営関連科目全般。

〔テキスト〕

特に指定せず、講義内容に合わせて適宜紹介する。紹介したものを購入する必要はない。

〔参考書〕

講義内容の理解を深めるために下記を参考書として挙げる。購入する必要はない。

- 『消費者行動の知識』 青木幸弘[著]、日本経済新聞出版社。
- 『消費者行動論』 青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司[著]、有斐閣アルマ。
- 『ソロモン 消費者行動論』 マイケル R. ソロモン[著]、松井剛[監訳]、丸善出版。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

* このシラバスは対面授業を前提に書かれています。状況によって内容に変更が生じる可能性があります。

科目名		生産管理					
教員名		福澤 光啓					
科目No.	122517000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>企業は、製品・サービスを顧客へ提供することで収益をあげているが、ライバルよりも高い収益・利益を獲得するためには、自社の製品・サービスを顧客に選択してもらうために、価格や機能、性能、デザイン、広告などにおいて優れている必要がある。これら顧客が直接評価できる項目について他社より優れた状況を実現するためには、品質やコスト、納期といった顧客からは直接見えなくても企業の現場の実力を現す項目において優れていることが必要であり、それを可能にする組織の能力を鍛えることが不可欠である。このような現場の実力や組織の能力が、企業の競争力の根本的な支えとなる。製品・サービスを創造し顧客に提供して価値を獲得するための一連の活動は「ものづくり」と呼ばれ、これをいかに有効かつ効率的に行うことができるかが、企業の長期的な成長や存続に大きな影響を与える。</p> <p>本講義では、生産活動に軸足を置きつつ、ものづくりに関わる諸活動をうまくマネジメントするために必要となるさまざまな概念や方策を体系的に取り上げて解説する。ただし、本講義は「お客様の笑顔づくり」がものづくり活動の根本であるという視点に立っているため、そこで学修することは、いわゆる物理的なモノの生産活動のマネジメントだけでなく、サービス領域にも適用可能なものである。</p> <p>本講義の目標は、受講生が、生産管理に関する基本的な考え方を学ぶとともに、当該活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して解決策を示せるようになることである。そのために、講義では理論と実際のケースをあわせて解説しつつ授業内での質疑応答を積極的に行い、さらにWeb上で実施する課題レポートの作成も行うことにより、自分の頭で論理的に考え説明するトレーニングをする。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>①ものづくり経営・生産管理に関する基本的な考え方を学修する。</p> <p>②上記を活かして、ものづくり・生産活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、有効かつ効率的なものづくりを行うための解決策を示せるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：日本におけるものづくりの現状と課題 ・授業の全体像、進め方、予習復習の仕方等を説明する。 ・企業の生産活動について事例から考察する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第2回	付加価値の流れとしての「ものづくり」活動 ・付加価値創造・転写プロセスとしてのものづくり活動を把握する方法を学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第3回	製品と工程の歴史分析 ・製品・工程ライフサイクル、大量生産方式の発展の歴史、日本型生産システムについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第4回	競争力とその構成要素 ・企業の競争力を現場の視点から把握する方法について学修する。 ・競争力の構成要素、能力構築競争について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第5回	コスト・生産性の管理 ・原価管理、生産性の概念と測定、改善活動、「ジャスト・イン・タイム方式」について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第6回	納期と工程管理 ・納期と工程管理の概念、生産計画、生産期間と在庫、かんばんシステムについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第7回	品質の管理 ・品質の概念・測定、品質管理について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第8回	フレキシビリティ ・部品および工程のフレキシビリティについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第9回	生産戦略 ・生産戦略の概念、生産能力の決定、工場ネットワーク戦略について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第10回	人事・労務管理 ・ものづくりにかかわる人事・労務管理について学修する			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第11回	生産設備と生産技術の管理 ・生産設備と生産技術のマネジメントについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第12回	購買管理とサプライヤ・システム ・購買管理とサプライヤ・システムのマネジメントについて学修する			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第13回	製品開発の基礎 ・製品開発のプロセス、組織、パフォーマンスについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第14回	まとめ			【予習】各回の配布資料を確認する。質問を考える。 【復習】各回の授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
〔授業の方法〕							

- ・事前に配布してある授業資料（事前資料）を受講生が既に読んでいることを前提として講義を行う。
- ・基本的には、①事前資料のポイントを解説しつつ、事前資料には書かれていない事柄（理論、概念、企業の実例など）についても説明し、②事前資料に書かれている内容について受講生が事前に考えてきた質問の収集とそれにもとづいて議論を行い受講生の理解を深める、という流れで授業を進める。したがって、受講生は、事前資料を熟読して、その内容に対する質問を考えようとして、授業に臨む必要がある。質問内容は「質問メモ」に記入して、授業で定められた方法にて提出すること。
- ・また、授業で学んだことにもとづいて、自分で調査をしたり考えたりする「Web 課題レポート」を実施する（2回から3回を予定）。受講生は、当該課題についてレポートを作成し、提出することを求められる。この課題は CoursePower を用いて行い、成績採点の対象とする。
- ・加えて、適宜、授業内で簡単な課題を出して授業で学んだことを活用して回答してもらうことにより、受講生の理解を深めるための「授業内ワーク」を複数回実施する。
- ・授業時間内に実施する「質問メモ」や「授業内ワーク」、および授業期間内に実施する「Web 課題レポート」の提出は、必ず、授業で指定された方法にもとづいて定められた期限内に、受講生本人が作成して授業担当者に対して行うこととする。いかなる場合・理由であっても、事前・事後の提出や代理提出等を認めない。
- ・なお、授業の方法や成績評価の方法等については、第 1 回目の授業において詳細に説明するので、必ず確認のうえ、授業内で説明された内容にしたがって、Web 課題レポート等への回答や提出を行うこと。
- ・上で示された準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

「Web 課題レポート」（100％）の提出状況および解答内容により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
 次の点に着目し、その達成度により評価する。
 ①ものづくり経営・生産管理に関する基本的な考え方を学修できている。
 ②上記を活かして、ものづくり・生産活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、有効的かつ効率的にものづくりを行うための解決策を示すことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

経営戦略論、経営組織論、イノベーション・製品開発論、マーケティング論に関する基礎的な知識を習得することが望ましい。

〔テキスト〕

各回の授業資料は事前に、CoursePower を通じて配布するので、テキストは特にない。それらの資料を各自必要に応じて印刷したり、PC やタブレット端末等を利用して授業に臨むこと。各回の授業資料を事前に熟読して、質問内容を考えてうえで授業に臨むこと。

〔参考書〕

参考までに下記を挙げておく。この他にも生産管理についてより深く学びたい人のために、授業中に適宜紹介する。
 藤本隆宏（1997）『生産システムの進化論』有斐閣
 藤本隆宏（2001a）『生産マネジメント入門Ⅰ』日本経済新聞社
 藤本隆宏（2001b）『生産マネジメント入門Ⅱ』日本経済新聞社
 藤本隆宏（2003）『能力構築競争』中央論新社
 藤本隆宏編（2013）『「人工物」複雑化の時代』有斐閣
 藤本隆宏（2013）『現場主義の競争戦略』新潮社
 藤本隆宏・新宅純二郎・青島矢一（2015）『日本のものづくりの底力』東洋経済新報社
 門田安弘（2006）『トヨタプロダクションシステム』ダイヤモンド社
 中沢孝夫・藤本隆宏・新宅純二郎（2016）『ものづくりの反撃』筑摩書房
 大野耐一（1978）『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社
 高橋伸夫編著（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房
 富野貴弘（2017）『生産管理の基本』日本実業出版社
 富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社
 土屋元彦（2018）『現場主義を貫いた富士ゼロックスの“経営革新”』日刊工業新聞社
 和田一夫（2009）『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会
 Holweg, M. and Pil, F., K. (2004) The Second Century, The MIT Press, Cambridge, MA.
 Womack, J. P., Jones, D. T., and Roos, D. (1990) The Machine that Changed the World, Rawson Associates, New York.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	産業の経済学						
教員名	鷹岡 澄子						
科目No.	122518000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
[テーマ・概要]							
<p>本科目では、企業の戦略的行動と政策の関係について学ぶ。</p> <p>具体的には、市場集中度やカルテル、M&Aなどのテーマを通じて、競争を促進するための規制と企業活動の国際化に対応した規制の流れを学ぶ。</p> <p>また、企業と消費者の間には製品に対する情報の格差がある。企業は自分たちの販売する商品の良さをどうやって消費者に伝えようとするのか。消費者はどのような政策によって、情報が完全でない場合保護されるのか。不必要な規制が緩和されると、どのような効果がもたらされるのかなどを学習していく。</p> <p>なお、授業の進捗によって、以下の授業の計画や内容を一部変更する場合がある。</p>							
[到達目標]							
<p>本科目では、DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、履修学生が次のような水準に到達することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の産業や市場を経済学的に理解する。 ・学習した基礎的な枠組みを具体例に応用することができる。 ・現実の企業行動や政策を分析することができる。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 市場集中度について			【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第2回	市場集中度について（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第3回	カルテルについて カルテルの種類 カルテルの結成動機 カルテル維持の限界 規制			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第4回	カルテルについて（つづき） カルテルの種類 カルテルの結成動機 カルテル維持の限界 規制			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第5回	M&A M&Aとその傾向 M&Aの手法・動機 合併のモデル アドバイザーについて			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第6回	M&A（つづき） M&Aとその傾向 M&Aの手法・動機 合併のモデル アドバイザーについて			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第7回	参入の経済効果 新規参入とその経済効果 過剰参入 コンテストブルマーケットでの新規参入 独占的競争			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第8回	参入の経済効果（つづき） 新規参入とその経済効果 過剰参入 コンテストブルマーケットでの新規参入 独占的競争			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第9回	情報の非対称性と企業行動 品質と情報の非対称性 情報の非対称下の企業戦略 価格と情報の非対称性			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第10回	情報の非対称性と企業行動（つづき） 品質と情報の非対称性 情報の非対称下の企業戦略 価格と情報の非対称性			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第11回	スクリーニング・オークション メカニズム・デザイン入門 スクリーニング オークション			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第12回	スクリーニング・オークション（つづき） メカニズム・デザイン入門 スクリーニング オークション			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	

第13回	<p>広告 広告の種類 ドーフマン=スタイナーのモデル 広告と経済厚生</p>	<p>【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。</p>	60
第14回	<p>まとめ</p>	<p>【予習】 今までのクイズ・授業ノートを理解する。 【復習】 できなかったところをクイズ・授業ノートで確認する。</p>	120
<p>〔授業の方法〕 授業は講義を中心に進める。授業中にクイズを行う。クイズを正解し、答え合わせを報告した学生は成績に加点される。授業ノートなど必要な資料は担当教員が作成し、配布する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 課題 30%、学期末試験 70%を基本としつつ、授業への積極的参加をプラスに評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ミクロ経済学の基礎</p>			
<p>〔テキスト〕 授業ノートはファイルで配布します。</p>			
<p>〔参考書〕 『産業組織の経済学 第2版』、長岡貞夫・平尾由紀子、日本評論社、3240 円、ISBN-13: 978-4535556676 Industrial Organization, Oz Shy, The MIT Press、0-262-69179-5</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		情報産業					
教員名		吉見 憲二					
科目No.	122519000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>情報化の進展に伴い、「産業の情報化」「情報の産業化」がますますその勢いを強めている。「産業の情報化」は様々な産業の生産活動の中で情報に関連した労働や中間投入が増加していく側面をとらえた概念であり、「情報の産業化」は産業の情報化に伴い情報関連のサービス活動が独立した産業を形成して発展していく側面をとらえた概念である(出典：平成 29 年版情報通信白書)。近年の各種産業の変化をとらえるためには、「産業の情報化」と「情報の産業化」の観点は必要不可欠である。</p> <p>授業では、広義の情報産業に関連する各種産業の構造・特徴について概観し、近年の課題について取り上げる。そのため、原則として各回の講義で1つずつ関連した産業を扱う予定である。授業全体を通して、「産業の情報化」と「情報の産業化」がどのようにそれぞれの産業に影響を与えているかを理解し、今後の展望について考えられるようになることが本授業の目的である。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】を実現するため、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>(1)情報産業の発展の過程を「産業の情報化」と「情報の産業化」の概念を踏まえて説明できる。</p> <p>(2)講義で取り上げる各産業の構造・特徴を理解し、近年の当該産業を巡る課題について議論できる。</p> <p>(3)講義で取り上げる各産業の理解を踏まえて、広義の情報産業の今後の展望について自分なりの考えを説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	インTRODakShION ・シラバスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・「産業の情報化」と「情報の産業化」について理解する。			【予習】事前にシラバスをよく読み、質問等があれば用意しておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第2回	放送産業 ・放送産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の放送産業を巡る課題について理解する。			【予習】情報化によって生じた放送産業の変化について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第3回	出版産業 ・出版産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の出版産業を巡る課題について理解する。			【予習】情報化によって生じた出版産業の変化について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第4回	音楽産業 ・音楽産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の音楽産業を巡る課題について理解する。			【予習】情報化によって生じた音楽産業の変化について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第5回	映画産業 ・映画産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の映画産業を巡る課題について理解する。			【予習】情報化によって生じた映画産業の変化について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第6回	アニメーション産業 ・アニメーション産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のアニメーション産業を巡る課題について理解する。			【予習】情報化によって生じたアニメーション産業の変化について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第7回	ゲーム産業 ・ゲーム産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のゲーム産業を巡る課題について理解する。			【予習】情報化によって生じたゲーム産業の変化について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第8回	中間まとめ ・これまでの講義内容について振り返る。 ・レポート課題に関する説明を行う。			【予習】これまでの講義内容で理解が不十分な点を確認しておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第9回	通信産業 ・通信産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の通信産業を巡る課題について理解する。			【予習】情報化によって生じた通信産業の変化について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第10回	オンラインサービス産業 ・オンラインサービス産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のオンラインサービス産業を巡る課題について理解する。			【予習】情報化によって生じたオンラインサービス産業の変化について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第11回	コンピュータ産業 ・コンピュータ産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のコンピュータ産業を巡る課題について理解する。			【予習】情報化によって生じたコンピュータ産業の変化について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第12回	ソフトウェア産業 ・ソフトウェア産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のソフトウェア産業を巡る課題について理解する。			【予習】情報化によって生じたソフトウェア産業の変化について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第13回	レポート課題のフィードバック ・期中に実施したレポート課題について評価ポイントを理解する。 ・レポート執筆の基本事項について再度確認し、理解する。			【予習】自身の提出したレポートの内容について再確認しておく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第14回	まとめ ・全体の内容を振り返り、「産業の情報化」と「情報の産業化」がどのようにそれぞれの産業に影響を与えているかについて議論する。 ・シラバスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。			【予習】全体の内容を振り返り、「産業の情報化」と「情報の産業化」がどのようにそれぞれの産業に影響を与えているか考える。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。期末試験に向けて準備する。		60	
〔授業の方法〕							

<p>授業は講義形式で進める。授業の構成として、①ディスカッション準備（10分）②前回内容の振り返り（20分）③ディスカッション（10分×2回）、④講義（40分）⑤質疑応答（10分）⑥小テスト（授業後）を基本とする。詳細は次の通りである。</p> <p>①冒頭に【予習】と関連したディスカッションテーマを提示し、10分間各自で考える時間を与える。</p> <p>②小テストの内容に関して次回授業の前半で振り返りを行い、優れた回答は全体に共有する。</p> <p>③授業時間中に、冒頭に提示したテーマに関して受講者にマイクを回し、ディスカッションを行う。受講人数に応じて実施形態については検討する。</p> <p>④講義は配布した資料を中心に展開する。なお、講義中にも受講者にマイクを回し、意見や回答を求めることがある。</p> <p>⑤ICTを活用した双方向型の授業として、スマートフォンでQRコードを読み取り、授業時間内に質問をできるようにする。授業の最後に質疑応答の時間を設ける。</p> <p>⑥eラーニングを活用した自主学习支援として、各回の授業内容に関連した小テストを【予習】【復習】扱いで実施する。</p> <p>課題レポートの内容、評価基準については、授業内で説明する。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>各回の小テスト（14回：42%）、課題レポート（18%）、期末試験（40%）による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>(1) 情報産業の発展の過程を「産業の情報化」と「情報の産業化」の概念を踏まえて説明できるか。</p> <p>(2) 講義で取り上げる各産業の構造・特徴を理解し、近年の当該産業を巡る課題について議論できるか。</p> <p>(3) 講義で取り上げる各産業の理解を踏まえて、広義の情報産業の今後の展望について自分なりの考えを説明できるか。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>必要な予備知識は特にない。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>資料は毎回の授業で配布する。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>『情報メディア白書(各年版)』、電通メディアイノベーションラボ編、ダイヤモンド社 その他、参考文献については授業内で適宜提示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>アクティブ・ラーニング ICT活用</p>

科目名	広告と市場						
教員名	河塚 悠						
科目No.	122521000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>現代社会に生きる私たちは、毎日膨大な量の「広告」に接しています。テレビや新聞、雑誌、駅構内や電車、スマホ画面など、至る所で広告を見かけます。そもそも「広告」とはどのようなものなのでしょうか。なぜ、企業は「広告」をつくっているのでしょうか。また、「広告」はどのようにして作られ、どのようなプロセスを経て、私たちの前に姿を表しているのでしょうか。本講義では、広告活動に関する基本的な知識や理論を解説します。</p> <p>また、近年急増している「広告のような」手法（セールス・プロモーション、PR、パブリシティ、クチコミなど）についても取り上げます。TwitterやFacebook、instagramといったソーシャルメディアの進展により、今までの「広告概念」ではとらえきれない現象が起きており、このような「広告のような」手法についても学修することで、より「広告」への理解を深めることができます。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するために、以下を到達目標とします。</p> <p>(1) 広告に関する基本的な知識や理論が身についている。</p> <p>(2) マーケティング・コミュニケーションに関する基本的な知識や理論が身についている。</p> <p>(3) 近年のマーケティング・コミュニケーション活動、広告活動のあり方を理解している。</p> <p>(4) 企業のコミュニケーション戦略について、自分なりに考察できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	<p>▼イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の進め方について説明する。 ・成績評価について説明する。 			<p>▼予習</p> <p>シラバスで講義のテーマと内容を把握しておく。</p>			60
第2回	<p>▼広告とは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広告の定義について解説する。 ・広告の類型について学修する。 ・広告の社会的機能について学修する。 			<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料に目を通す。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。 			60
第3回	<p>▼マーケティングにおける広告の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングにおける広告の位置づけについて解説する。 ・ブランド戦略における広告の役割を説明する。 			<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料に目を通す。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。 			60
第4回	<p>▼広告と市場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングにおける「市場」のとらえ方を説明する。 ・市場における広告の役割を説明する。 			<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料に目を通す。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。 			60
第5回	<p>▼広告活動のマネジメント①（広告計画の策定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広告マネジメント・プロセスについて解説する。 ・広告計画をどのように策定するのかを解説する。 			<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料に目を通す。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。 			60
第6回	<p>▼広告活動のマネジメント②（広告予算の設定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の広告市場の特徴について説明する。 ・さまざまな広告予算の算出方法を紹介する。 			<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料に目を通す。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。 			60
第7回	<p>▼広告活動のマネジメント③（広告表現の企画と制作）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広告表現の企画・制作プロセスについて説明する。 ・広告表現の制作にかかわるスタッフを紹介する。 			<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料に目を通す。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。 			60
第8回	<p>▼広告活動のマネジメント④（広告メディアの選定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広告メディアにはどのようなものがあるか紹介する。 ・トリプルメディアについて解説する。 ・クロスメディアの考え方を説明する。 			<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料に目を通す。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。 			60
第9回	<p>▼広告活動のマネジメント⑤（広告効果の測定・評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広告効果を測定する意義を説明する。 ・広告効果モデルを解説し、測定例を紹介する。 			<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料に目を通す。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。 			60
第10回	<p>▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング・コミュニケーションの定義と諸活動について学修する。 ・統合型マーケティング・コミュニケーション（IMC）の考え 			<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料に目を通す。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中にとったメモに目を通す。 			60

	方について解説する。	・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	
第11回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション② ・セールス・プロモーションについて解説する。	▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	60
第12回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション③ ・PRとパブリシティについて学修する。 ・クチコミについて解説する。	▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	60
第13回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション④ ・インスタ・マーチャライジングについて学修する。	▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	60
第14回	▼まとめ ・第13回までの振り返り ・総括	▼予習 ・全体を振り返り、理解が不十分である部分を把握する。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。	60
〔授業の方法〕 講義形式で進めていきます。講義ではパワーポイントで作成した講義資料を用います。履修者には同様の講義資料を配布しますが、空欄をもうけていますので、自分で埋めながら講義を聞いてください。授業内では履修者に発言を求めることがあります。講義毎にミニレポートを実施します。			
〔成績評価の方法〕 授業内で実施するミニレポート（30%）、期末テスト（70%）等から総合的に評価します。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. (1) 広告に関する基本的な知識や理論が身についている。 (2) マーケティング・コミュニケーションに関する基本的な知識や理論が身についている。 (3) 近年のマーケティング・コミュニケーション活動、広告活動のあり方を理解している。 (4) 企業のコミュニケーション戦略について、自分なりに考察できる。			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 関連科目：「マーケティング」「ブランド戦略」「消費者行動」など経営関連科目全般。			
〔テキスト〕 特に指定しません。重要な文献については適宜授業内で紹介します。			
〔参考書〕 ・『わかりやすい広告論（第2版）』、石崎徹（編著）、八千代出版、2012年（4,970円）。 ・『わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告』、石崎徹（編著）、八千代出版、2019年（4,970円）。 ・『現代広告論（第3版）』、岸志津江・田中洋・嶋村和恵（著）、有斐閣アルマ、2020年（2,640円）。 ・『新版 この1冊ですべてがわかる広告の基本』、波田浩之、2019年（1,650円）。 ・『広告心理』、仁科貞文・田中洋・丸岡吉人（著）、電通、2007年（548円）。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。			
〔特記事項〕 特にありません。			

科目名	イノベーションと製品開発						
教員名	福澤 光啓						
科目No.	122522000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>企業は、製品・サービスを顧客へ提供することで収益をあげている。そこで提供される製品・サービスの品質や開発コスト、開発期間において優れていることが、企業の競争力の根本的な支えとなる。</p> <p>この製品・サービスをつくるための一連の活動を製品開発と呼ぶ。いかに有効かつ効率的に製品開発活動を行うことができるかが、企業の長期的な成長や存続に大きな影響を与える。しかし、成功できる製品を開発できる企業数は限られており、たとえ優れた製品を提供して顧客を獲得できたとしても、それが長続きすることは多くはない。製品開発の戦略や開発組織・プロセスのマネジメントの巧拙が、持続的に成長できる企業とそうでないものを分ける重要な決め手となる。</p> <p>本講義では、イノベーションや製品開発に関するさまざまな概念・現象を、「ものづくりは笑顔づくり」という視点から整理・統合しながら議論を進めていく。本講義の目標は、受講生が、イノベーションや製品開発に関する基本的な考え方を学ぶとともに、製品開発活動をマネジメントするうえで実際に生じる問題を自分なりの視点から分析して、有効かつ効率的に製品開発を行うための解決策を示せるようになることである。そのために、講義では理論と実際のケースをあわせて解説しつつ授業内での質疑応答を積極的に行い、さらに Web 上で実施する課題レポートの作成も行うことにより、自分の頭で論理的に考え説明するトレーニングをする。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>①イノベーションや製品開発に関する基本的な考え方を学修する。</p> <p>②上記を活かして、製品開発活動をマネジメントするうえで実際に生じる問題を自分なりの視点から分析して、有効かつ効率的に製品開発を行うための解決策を示せるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション：ものづくりは笑顔づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の全体像、進め方、授業の方法、予習復習の仕方等を説明する。 企業の競争力の源泉としての製品開発力について身近な事例から考察する。 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第2回	<p>イノベーションと製品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> イノベーションのタイプや製品開発活動の概略について学修する。 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第3回	<p>製品開発の戦略①</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品戦略の基礎やコア技術戦略について学修する 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第4回	<p>製品開発の戦略②</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数のプロジェクトをマネジメントする方法や、プラットフォーム開発における戦略や組織運営について学修する。 プラットフォーム・リーダーシップの獲得のための戦略について学修する。 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第5回	<p>製品アーキテクチャ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品アーキテクチャのタイプについて学修する 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第6回	<p>製品アーキテクチャ②</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品アーキテクチャのダイナミズムをうまくマネジメントするための戦略と組織運営について学修する 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第7回	<p>製品開発の組織とプロセス①</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品開発の一連の業務について学修する 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第8回	<p>製品開発の組織とプロセス②</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品開発組織のデザインについて学修する 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第9回	<p>製品開発の組織とプロセス③</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト組織のマネジメントについて学修する 重量級プロジェクト・マネジャーの概念について学修する 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第10回	<p>オープン・イノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行開発活動、技術統合活動、オープン・イノベーションのマネジメントについて学修する。 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第11回	<p>イノベーションと資源動員</p> <ul style="list-style-type: none"> イノベーションを可能にするうえで重要となる資源動員のプロセスや方法について学修する 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第12回	<p>製品開発と企業間関係のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品開発に関わる業務範囲の意思決定について学修する 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第13回	<p>グローバル化とイノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル環境下でのイノベーション・マネジメントについて学修する 			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第14回	まとめ			<p>【予習】各回の配布資料を確認する。質問を考える。</p> <p>【復習】各回の授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
〔授業の方法〕							

- ・事前に配布してある授業資料（事前資料）を受講生が既に読んでいることを前提として講義を行う。
- ・基本的には、①事前資料のポイントを解説しつつ、事前資料には書かれていない事柄（理論、概念、企業の実例など）についても説明し、②事前資料に書かれている内容について受講生が事前に考えてきた質問の収集とそれにもとづいて議論を行い受講生の理解を深める、という流れで授業を進める。したがって、受講生は、事前資料を熟読して、その内容に対する質問を考えようとして、授業に臨む必要がある。質問内容は「質問メモ」に記入して、授業で定められた方法にて提出すること。
- ・また、授業で学んだことにもとづいて、自分で調査をしたり考えたりする「Web 課題レポート」を実施する（2回から3回を予定）。受講生は、当該課題についてレポートを作成し、提出することを求められる。この課題は CoursePower を用いて行い、成績採点の対象とする。
- ・加えて、適宜、授業内で簡単な課題を出して授業で学んだことを活用して回答してもらうことにより、受講生の理解を深めるための「授業内ワーク」を複数回実施する。
- ・授業時間内に実施する「質問メモ」や「授業内ワーク」、および授業期間内に実施する「Web 課題レポート」の提出は、必ず、授業で指定された方法にもとづいて定められた期限内に、受講生本人が作成して授業担当者に対して行うこととする。いかなる場合・理由であっても、事前・事後の提出や代理提出等を認めない。
- ・なお、授業の方法や成績評価の方法等については、第 1 回目の授業において詳細に説明するので、必ず確認のうえ、授業内で説明された内容にしたがって、Web 課題レポート等への回答や提出を行うこと。
- ・上で示された準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

「Web 課題レポート」（100％）の提出状況および解答内容により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
 次の点に着目し、その達成度により評価する。
 ①イノベーションや製品開発に関する基本的な考え方を修得できている。
 ②上記を活かして、製品開発活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、有効的かつ効率的に製品開発を行うための解決策を示すことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

経営組織論や経営戦略論、マーケティング論に関する基礎的な知識を習得することが望ましい。

〔テキスト〕

各回の授業資料は事前に、CoursePower を通じて配布するので、テキストは特にない。それらの資料を各自必要に応じて印刷したり、PC やタブレット端末等を利用して授業に臨むこと。各回の授業資料を事前に熟読して、質問内容を考えてうえで授業に臨むこと。

〔参考書〕

日本語で書かれた文献について、参考までに下記を挙げておく。この他にもイノベーションや製品開発についてより深く学びたい人のために、授業中に適宜紹介する。

- 浅川和宏（2011）『グローバル R&D マネジメント』慶應義塾大学出版会
- 藤本隆宏・安本雅典編著（2000）『成功する製品開発』有斐閣
- 藤本隆宏編（2013）『「人工物」複雑化の時代』有斐閣
- 一橋大学イノベーション研究センター（2017）『イノベーション・マネジメント入門＜第 2 版＞』日本経済新聞社
- 生稲史彦（2012）『開発生産性のディレンマ』有斐閣
- 近能善範・高井文子（2010）『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社
- 中川功一（2011）『技術革新のマネジメント』有斐閣
- 延岡健太郎（2006）『MOT[技術経営]入門』日本経済新聞社
- 小川絃一（2015）『オープン&クローズ戦略 増補改訂版』翔泳社
- 新宅純二郎（1994）『日本企業の競争戦略』有斐閣
- 新宅純二郎・天野倫文編（2009）『ものづくりの国際経営戦略』有斐閣
- 高橋伸夫編著（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房
- 武石彰・青島矢一・軽部大（2012）『イノベーションの理由』有斐閣
- 立本博文（2017）『プラットフォーム企業のグローバル戦略』有斐閣
- 都留康・守島基博編著（2012）『世界の工場から世界の開発拠点へ』東洋経済新報社

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		環境と経営戦略					
教員名		田口 誠					
科目No.	122523000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「企業戦略と自然環境問題」</p> <p>本講義では、企業の環境マネジメントに関連した具体的なトピックを取り上げ、経営学の側面から詳しく分析する。例えば、</p> <p>(1) 企業の環境対策は収益性を高めるのか？</p> <p>(2) ISO14000 シリーズの認証取得は本当に環境を改善させる効果を持つのか？</p> <p>(3) どのような特性を持つ消費者が環境にやさしい製品を積極的に買うか？</p> <p>(4) 企業は戦略上、どのような商品について優先的に環境対策を進めていくべきか？</p> <p>(5) 企業が環境情報を開示することで、株価はどの程度の影響を受けるのか？</p> <p>といった基本的かつ重要な疑問に対して、国内外の企業の事例や統計、調査研究例を紹介しながら議論する。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>1. 企業が直面する環境問題の性質や、環境対策の内容について説明できるようにすること。</p> <p>2. 経営学の各分野の理論を用いて、環境経営に関わる問題の解決を提案できるようにすること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・環境経営について、その概略を説明する。 			【復習】環境経営を学ぶ意義について説明できるようにする。		60	
第2回	<p>企業の収益性と環境対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境対策が企業の収益性に与える影響について考える。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	<p>環境に配慮した製品設計・生産：エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費に重点を置き、製品設計や生産の面から企業の環境対策について考える。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	<p>環境に配慮した製品設計・生産：有害化学物質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有害化学物質に重点を置き、製品設計や生産の面から企業の環境対策について考える。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	<p>環境に配慮した製品設計・生産：LCA</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した生産を支援する手法としてのLCAについて学ぶ。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	<p>製品差別化と環境対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境対策を通じた製品の差別化について学ぶ。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	<p>グリーン・マーケティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した製品のマーケティングについて考える。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	<p>環境と消費者行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者は環境に配慮した製品についてどのように考え、行動するかについて考える。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	<p>ISO14000と企業組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織における環境対策手法としてのISO14000の意義について考える。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	<p>組織としての環境対策の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業における環境対策が歴史的にどのように発展して来たかについて説明する。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	<p>政府の規制と企業の戦略的行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府の環境規制と企業行動の関係性について考える。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	<p>企業による自主的な環境対策の効果と収益性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の自主的な環境対策が環境や経営に与える効果について考える。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	<p>環境情報の公開と株価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境情報の公開が企業価値に与える影響について考える。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	<p>企業の環境対策と歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに企業の環境対策に対する考え方がどのように変化してきたかを学ぶ。 			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義を中心に進める。普段から講義資料を使った復習に力を入れ、次回の授業にわからない点を持ち越さないようにすること。また、授業中に課題を提示し、レポートの提出を求めることがある。</p> <p>なお、課題レポート、学期末試験の狙いは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート：講義の内容が理解できているかを確認する。 ・学期末試験：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 							
〔成績評価の方法〕							

学期末試験 70%, 課題レポート 30%をめやすとして総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

1. 企業が直面する環境問題の性質や、環境対策の必要性について、事例を交えながら論理的にわかりやすく説明できる。
2. マーケティング、消費者行動、ファイナンスなどの理論を用いて、環境経営に関わる諸問題の解決を提案できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
授業で指示する。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

講義の中で適宜、紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	企業の国際戦略						
教員名	平尾 由紀子						
科目No.	122524000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>まず、国際経済のミクロ経済学的側面について講義する。財・サービスの貿易理論、通商政策、および国際経済の時事問題などについて学ぶ。次に、貿易と海外直接投資に関する企業の国際戦略の事例も紹介する。</p> <p>なお、授業の進捗に応じて、以下の授業の計画・内容、及び宿題の回数と提出日を一部変更する場合がある。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①貿易の経済理論を学ぶことにより、日本や海外諸国の貿易の特徴と変遷に関する知識を深める。</p> <p>②貿易が各国経済に及ぼす厚生効果について学び、通商政策と国際貿易体制に関する理解を深める。</p> <p>③貿易と海外直接投資に関する現実の企業の国際戦略を説明する理論と実例を習得する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション ・国際収支と日本の貿易パターンの変遷			【復習】 授業の内容を復習する。			60
第2回	リカード・モデル#1 ・絶対優位と比較優位の概念			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題1に取り組む。			120
第3回	宿題1の解説 課題レポートのテーマを指示 リカード・モデル#2 ・貿易パターン、交易条件と貿易の利益			【復習】 授業の内容を復習する。宿題1の理解を確認する。			60
第4回	ヘクシャー=オリーン・モデル#1 ・自国と外国の生産可能領域			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題2に取り組む。			120
第5回	宿題2の解説 ヘクシャー=オリーン・モデル#2 ・貿易のパターンと交易条件			【復習】 授業の内容を復習する。宿題2の理解を確認する。 【予習】 課題レポートの課題について調べ始める。			90
第6回	ヘクシャー=オリーン・モデル#3 ・貿易と所得分配			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題3に取り組む。			120
第7回	宿題3の解説 貿易の利益と貿易政策の経済分析			【復習】 授業の内容を復習する。宿題3の理解を確認する。 【予習】 課題レポートの課題について引き続き調べる。			90
第8回	貿易を行う企業の国際戦略#1 ・海外進出の3形態 ・貿易の実務と資金の流れ			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題4に取り組む。			120
第9回	宿題4の解説 貿易を行う企業の国際戦略#2 ・企業の輸出努力の事例 ・企業の価格設定とダンピング			【復習】 授業の内容を復習する。宿題4の理解を確認する。 【予習】 課題レポートのテーマについて引き続き調べる。			90
第10回	外国為替取引#1 ・外国為替取引と為替レートの変遷			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題5に取り組む。			120
第11回	宿題5の解説 外国為替取引#2 ・為替リスクとリスクヘッジ			【復習】 授業の内容を復習する。宿題5の理解を確認する。 【予習】 課題レポートの執筆を始める。			120
第12回	海外直接投資#1 ・海外直接投資の現状と現地法人の設立方法			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題6に取り組む。			120
第13回	宿題6の解説 海外直接投資#2 ・企業の海外直接投資の目的 ・多国籍企業			【復習】 授業の内容を復習する。宿題6の理解を確認する。 【予習】 課題レポートの執筆を続ける。			120
第14回	海外直接投資#3 ・移転価格と税制 ・海外直接投資の経済効果 全体のまとめ			【復習】 学期全体の内容の復習と理解に努める。			120
〔授業の方法〕							
<p>授業時にはプリントを配布し、それをもとに講義を行う。授業中の短い演習問題と授業外の演習を定期的に課して、学生の理解度を見ながら授業を進める。学生は、これらの課題に取り組むことにより、授業の復習をする。分からないことを次回の授業に持ち越さないようにする。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、演習、宿題と期末レポートの狙いは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の短い演習と授業外の宿題：その時々の授業内容の理解を確認する。 ・期末レポート：現実の国際貿易のしくみと企業の国際戦略の事例について各自が調べることにより、知識を深めることを目的とする。 							
〔成績評価の方法〕							

平常点（評価の60%程度）と学期末の課題レポート（評価の40%程度）を目安として、総合的に成績評価する。
平常点は、授業中の演習問題（毎授業時提出）と、授業外で取り組む宿題（隔週提出）から成る。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。
①日本や海外諸国の貿易の特徴と変遷に関する理論的・現実的な理解を深めている。
②貿易が各国経済に及ぼす効果、および通商政策と国際貿易体制について経済分析をすることができる。
③現実の企業の国際戦略を説明する国際経済学の理論と実例の知識を深める。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

国際貿易の理解には、「ミクロ経済学の基礎」、「国際経営」などの科目が役に立つ。ただし、これらの科目を履修していなくても差し支えない。

〔テキスト〕

・大川昌幸（2015）『コア・テキスト 国際経済学 第2版』、新生社、2,650円＋税（ISBN978-4-88384-232-2）。
ただし、授業時に講義プリントを配布するので、テキストの購入は不要。

〔参考書〕

・若杉隆平（2009）、『国際経済学 第3版』、岩波書店、2600円＋税（ISBN978-4-00-026699-4）。
・P.クルーグマンとM.オブズフェルド（1997）、『国際経済 I 国際貿易』、新生社、3,800円＋税（ISBN4-915787-58-3）。
・木村福成（2000）、『国際経済学入門』、日本評論社、3,200円＋税（ISBN4-535-55128-6）。
・土屋六郎編著（1997）、『国際経済学』、東洋経済新報社、2,300円＋税（ISBN4-492-81431-0）。
・R. Feenstra and A. Taylor（2012）、"International Economics, Second Edition," Worth Publishers.
以上はいずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	人事政策						
教員名	義村 敦子						
科目No.	122532000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>現代の組織において、ヒト（人的資源）は最も大切な経営資源です。また、多くの受講生が卒業後に企業の組織メンバーとして仕事をするという意味でも、人的資源の活用法は身近な問題と言えます。この授業では、人のマネジメントに関する主な理論を、歴史的な変遷を踏まえながら学びます。そして、人のマネジメントに関する諸理論は時代とともに変化していることや、その変化は仕事内容や働く人自身の仕事観の変化と密接に関連していることも学んでいきます。</p>							
〔到達目標〕							
<p>この授業の到達目標は、DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下の2点とします。</p> <p>①人のマネジメントに関する諸理論をその成立背景を踏まえて理解する。 ②労働市場の現状と今後の変化について人のマネジメントの観点から考えるための基礎が身につく。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	・ガイダンス：授業内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・労務管理から人的資源管理へ			【復習】授業内容を配布資料をもとにして確認する。			60
第2回	テイラーの科学的管理法 労働市場の現状①			【復習】当該理論の特徴を理解する。労働市場に関するキーワードの意味を説明できるようにする。			60
第3回	ウェーバーの組織論 労働市場の現状②			【復習】当該理論の特徴を理解する。労働力の構造を確認する。			60
第4回	ファヨールの古典的経営管理論			【復習】当該理論の特徴を理解する。2～4回を整理して各理論の特徴と共通点を説明できるようにする。キーワードを用いて実際の労働市場の現状を調べる。			120
第5回	メイヨの人間関係論			【復習】当該理論の特徴を理解する。			60
第6回	レスリスパーガーの人間論的組織論			【復習】当該理論の特徴を理解する			60
第7回	バーナードの組織論			【復習】当該理論の特徴を理解する。			60
第8回	マズローの欲求段階説			【復習】当該理論の特徴を理解する。			60
第9回	マクレガーのX理論Y理論			【復習】当該理論の特徴を理解する。			60
第10回	ハーズバーグの動機づけ・衛生理論			【復習】当該理論の特徴を理解する。			60
第11回	マーチ＝サイモンの組織行動論			【復習】当該理論の特徴を理解する。			60
第12回	人事政策の現状と今後Ⅰ			【予習】前回の授業において指示した労働市場の現状について事前に調べておく。			60
第13回	人事政策の現状と今後Ⅱ			【予習】前回の授業において指示した労働市場の現状について事前に調べておく。			60
第14回	人事政策の現状と今後Ⅲ			【予習】前回の授業において指示した労働市場の現状について事前に調べておく。			60
〔授業の方法〕							
<p>基本的に講義形式をとります。具体的にはパワーポイントによる教材提示をしながら授業を進めます。授業内容に基づいて複数回のレポート提出を求めます。評価の基準は講義中にその都度明らかにします。</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>平常点（授業への積極的参加）10%と提出されたレポート（複数回の合計点）90%によって総合的に評価します。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の 2 点に着目し、その達成度により評価します。

①人のマネジメントに関する諸理論とその成立背景を理解し、説明できる。

②労働市場の現状を人のマネジメントの観点から把握し、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

幅広い理解のためにこれらの科目の受講を推奨しますが、これらの科目を受講していなくても講義は受けられます。「日本の労働市場」、「キャリアの経済学」、「労働法」

〔テキスト〕

特に指定しません。

〔参考書〕

必要に応じて指定します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名	意思決定科学						
教員名	俊野 雅司						
科目No.	122533000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>多くの経済学のモデルには、社会の中で活動する構成員は登場しないことが一般的である。「神の見えざる手」によって、何らかの均衡的な関係が成立すると結論づけられている。ミクロ経済学の一分野であるファイナンス論においても、非常に合理的な投資家を想定して理論構成が行われており、モデルの中では、意思決定に携わっている人は、ほとんど目立たない存在となっている。</p> <p>これらの理論やモデルでは説明できない現象が多数存在することが認識されてきており、特にファイナンス論ではアノマリーと呼ばれている。人間の意思決定の特徴や歪みの源泉に関する研究が進んでおり、これらの知見を取り込んで、経済学やファイナンス論を修正する動きが見られ、行動経済学（行動ファイナンス）と呼ばれている。本講座では、合理的な意思決定者を前提とした標準的な経済学やファイナンス論の理論モデルの整理を行ったうえで、行動経済学（行動ファイナンス）の説明を行う。そのことで、標準的な経済学（ファイナンス論）の活用方法や限界について理解を深めていただきたいと考えている。</p>							
〔到達目標〕							
<p>D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>本講座では、様々な前提条件のもとで構築されてきた意思決定の助けとなりうる理論（モデル）について理解を確認するとともに、生身の人間の意思決定の特徴（歪みの源泉）を踏まえて提示された行動経済学（行動ファイナンス）の概要を理解することを主な目的とする。そのうえで、意思決定のあり方について実践的な知識を身につけることを目標とする。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション ・講義の全体像や進め方について説明する。			【予習】【復習】講義用資料をコースパワーに掲載するので、読んでおくこと。			60
第2回	マクロ経済学のモデル ・代表的なマクロ経済学の理論（モデル）を例示し、意思決定との関連性を考察			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。マクロ経済学の復習をしておくこと。			60
第3回	ミクロ経済学のモデル ・代表的なミクロ経済学の理論（モデル）を例示し、意思決定との関連性を考察			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。ミクロ経済学の復習をしておくこと。			60
第4回	経済学のモデルの活用 ・マクロ経済学やミクロ経済学の理論（モデル）の活用方法について考察 ・課題①の説明			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。課題①に取り組むこと。			60
第5回	ファイナンス論の全体像 ・ミクロ経済学の応用分野の1つであるファイナンス論の全体像を概観			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。			60
第6回	ディスカウントキャッシュフロー（DCF）分析 ・DCF分析を用いた証券の理論価格の推計やプロジェクト評価手法などの応用例を説明			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。			60
第7回	リスク概念とリスク管理 ・リスク概念の整理 ・リスク管理プロセスやリスク管理手法 ・デリバティブ取引			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。			60
第8回	主要なファイナンス理論 ・ポートフォリオ理論 ・資本資産評価モデル（CAPM）			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。			60
第9回	証券市場のアノマリー ・類型Ⅰのアノマリー ・類型Ⅱのアノマリー ・類型Ⅲのアノマリー			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。			60
第10回	意思決定上の歪みの源泉 ・人間の思考プロセスの特徴 ・限定合理性 ・感情的要因 ・社会的要因 ・課題②の説明			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。課題②に取り組むこと。			60
第11回	決定理論 ・リスクを伴う状況での意思決定 ・狭義の不確実性が存在する場合の意思決定			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。			60
第12回	行動ファイナンスのモデル ・簡便的意思決定法（ヒューリスティクス） ・プロスペクト理論 ・心理的勘定の設定			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。			60
第13回	行動ファイナンスの応用 ・アノマリーの背景の理解と対応 ・意思決定プロセスの改善 ・政策的対応			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。			60
第14回	まとめよりよい意思決定を行うためのアプローチ ・講義全体のまとめ ・課題と期末試験について			【予習】【復習】講義用資料を読んでおくこと。課題の仕上げと期末試験の準備を行うこと。			120
〔授業の方法〕							

毎回配布する講義用資料（レジュメ）に基づいて、講義形式で進める。

〔成績評価の方法〕

期末試験 50%、課題 50%の配分で評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 主に、以下の点に関する到達度に応じて評価する。

- ・標準的な経済学のモデルを理解しているか
- ・ファイナンス論の概要を理解しているか
- ・行動経済学（行動ファイナンス）の概要を理解しているか
- ・これらの理論を踏まえて、意思決定のあり方について自分なりの考えを持つことができるか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

マクロ経済学
ミクロ経済学
ファイナンスの基礎
経営科学
行動ファイナンス

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

『マクロ経済学・入門（第 5 版）』福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年
『ミクロ経済学の力』神取道宏、日本評論社、2014 年
『ファイナンス論・入門』俊野雅司・白須洋子・時岡規夫、有斐閣、2020 年
『アニマルスピリット』ジョージ・アカロフ、ロバート・シラー、東洋経済新報社、2009 年
『ファスト&スロー（上）、（下）』ダニエル・カーネマン、早川書房、2012 年（2014 年文庫版）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

学内専用ホームページで周知する。

〔特記事項〕

科目名		カウンセリングの基礎					
教員名		林 潤一郎					
科目No.	122535000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>カウンセリングの定義は様々な観点からなされているが、あえて単純化した定義をするならば「悩みや成長欲求を持つ個人を支援・援助する専門的かかわり」である。</p> <p>カウンセリングにおいては、各個人が有する固有の悩みや人間性をいかに理解していくのか、そして、そうした理解に基づき、いかなる援助的かかわりを提供していくのかという点についての多様なアプローチが提唱されている。そして、こうしたアプローチは、自他の心の動きについての理解を深め、円滑な対人関係の構築を助けるものであるため、日常生活（学生生活や就職後の社会生活）にも役立つものを多く含んでいる。</p> <p>そこで本講義では次の3つを軸として、カウンセリングについて学ぶこととする。第一に、カウンセリングの全体像を把握し、発展の歴史や多様性について学ぶ。第二に、カウンセリングの代表的なアプローチ法を知り、それぞれの理論と実際を学ぶ。第三に、カウンセリングスキルの中から日常生活で活かすことができると思われるコミュニケーションスキルを学ぶ。こうした一連の学びを通して、カウンセリングについての正しい理解を得るとともに、各受講生が自他の心の動きや対人関係についての理解を深め、日常生活で役立てることのできる知識やスキルを身につけるきっかけにしてもらいたいと考えている。</p> <p>なお、授業の進捗および学生の希望や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p> <p>【オンライン授業になった場合の変更点】</p> <p>内容には変更はないが、「授業の方法」と「成績評価の方法」を一部、変更する予定である。変更の詳細は各項目を参照のこと。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) カウンセリングについて正しい理解を得ること</p> <p>(2) カウンセリング（人を理解する視点や人を支援する方法）の多様なアプローチを知ること</p> <p>(3) 自他を理解する目を養うとともに、自分の日常生活（学生生活や将来の社会生活）で活かすことのできるスキルを身につけること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を理解する。 カウンセリングの全体像を把握する（1） カウンセリングとは何かを学ぶ。 			<p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【復習】60</p>	
第2回	<p>カウンセリングの全体像を把握する（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの発展の経緯と多様性を知る。 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第3回	<p>カウンセリングの全体像を把握する（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの効果とそれを規定する要因を学ぶ。 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第4回	<p>カウンセリングの全体像を把握する（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの効果とそれを規定する要因を学ぶ（続き）。 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第5回	<p>カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神分析的療法・力動的療法を学ぶ。 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第6回	<p>カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神分析的療法・力動的療法を学ぶ（続き）。 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第7回	<p>カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 来談者中心療法・パーソンセンタード療法を学ぶ。 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第8回	<p>カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知療法／行動療法／認知行動療法を学ぶ 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第9回	<p>カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知療法／行動療法／認知行動療法を学ぶ（続き）。 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第10回	<p>カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族療法／コミュニティアプローチ／システム療法を学ぶ。 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第11回	<p>カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（7）</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族療法／コミュニティアプローチ／システム療法を学ぶ（続き）。 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	
第12回	<p>日常生活で使えるカウンセリングスキル／コミュニケーションスキルを学ぶ（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 話を聴く技術（マイクロカウンセリングと基本的かかわり技法）を学ぶ。 			<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>		<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>	

第13回	日常生活で使えるカウンセリングスキル／コミュニケーションスキルを学ぶ(2) ・話を聴く技術(マイクロカウンセリングと基本的かかわり技法)を学ぶ(続き)。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第14回	日常生活で使えるカウンセリングスキル／コミュニケーションスキルを学ぶ(3) ・相手に意見や意向を伝える技術(アサーションスキル)を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
[授業の方法]			
<p>授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。期末テストも実施する。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、出欠確認のために学生証を使用するため、必ず持参して授業に臨むこと。</p> <p>なお、各回のレスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる(必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である)。なお、レスポンスシートは必ず当日の授業内容を踏まえたものを提出すること。 ・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 <p>【オンライン授業になった場合の変更点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「期末テスト」が実施できなくなるため、「期末テスト」を「学期末の最終課題(レポート)」に変更予定である。 ・各回の授業終了時に、レスポンスシート提出に加えて、理解度確認用の確認ミニテストを実施し、それも評価対象に追加する予定である。 			
[成績評価の方法]			
<p>授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点(40%)、期末テスト(60%)、により総合的に評価する。</p> <p>【オンライン授業になった場合の変更点】</p> <p>学期末試験は実施しない。授業への参加状況、各回の確認ミニテストの成績とレスポンスシートの提出状況、および学期末課題(CoursePowerで提出するレポート)の提出状況を踏まえ、総合的に平常点として成績評価する。</p>			
[成績評価の基準]			
<p>成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その到達度により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) カウンセリングについて正しい理解を得ること (2) カウンセリング(人を理解する視点や人を支援する方法)の多様なアプローチを知ること (3) 自他を理解する目を養うとともに、自分の日常生活(学生生活や将来の社会生活)で活かすことのできるようなスキルを身につけること。 			
[必要な予備知識/先修科目/関連科目]			
<p>関連科目：こころの健康と臨床</p>			
[テキスト]			
<p>特になし。なお、各回のレジュメは事前に Course Power にアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。</p>			
[参考書]			
<p>特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。</p>			
[質問・相談方法等(オフィス・アワー)]			
<p>ポータルサイトで周知する。</p>			
[特記事項]			
<p></p>			

科目名		組織と社会					
教員名		高橋 史郎					
科目No.	122538000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この授業では、個人と組織の関わり合いを社会という枠組みの中で探っていきます。個人と組織の間には少なからずの相互作用があります。組織はその活動結果を様々な手段で開示し（ディスクロージャー）、それを受けて個人は組織に対して何らかの反応をします（モニタリング）。その反応に対して、組織は活動方針の変更や現状の維持といったさらなる対応を試みます。この開示⇒反応⇒再対応という循環が繰り返されていくのです。この循環がうまくいけば、社会全体としてみれば経済的ベネフィットは大きく損なわれることはないでしょう。</p> <p>近年、経済学や経営学の分野では、個人と組織や社会との関わり合いについて多種多様なアプローチでの分析が試みられています。経営学の領域でとりわけ分析の対象となるのは、営利を追求する法人である企業や高いレベルでの公益性を目指す非営利法人などが挙げられるでしょう。いずれの法人も個人の集合体であるがゆえにそれぞれに固有な傾向が観察されますが、昨今の状況を見ると共通点も多くみることができます。社会的貢献、明瞭な説明責任、協働と共生などですが、それらに対する社会的関心がこれまで以上に高まっているのです。</p> <p>上述した好循環を実現するためにはどうしたらよいか。何が必要なか。難しい問題ですが、この科目では「個人」を受講生の皆さんの立場である「学生」と見なして、組織との関わり合いについて考察を進めていきます。キーワードは「アカウントビリティ（説明責任）」です。各種の組織について、個人との関わりの中でいかなるアカウントビリティが存在し、どのような条件の下でそれが達成されるかを探っていきます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3つを到達目標とする。</p> <p>①アカウントビリティの意義について理解できる。 ②営利法人のアカウントビリティについて説明できる。 ③非営利法人のアカウントビリティについて説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、成績評価方法などを確認する。			【予習】これまでの履修で使用したテキストや資料などを振り返り、営利法人（株式会社など）がどのような情報開示を行っているかについて復習する。		60	
第2回	・アカウントビリティとは何か。 営利法人、非営利法人のそれぞれについて「説明責任」を学修する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	学校法人のアカウントビリティ1 ・学校法人に注目して開示資料などを確認する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	学校法人のアカウントビリティ2 ・学校法人の開示資料についての問題点を探る。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	学校法人のアカウントビリティ3 ・学校法人の開示資料に不足していることを考察する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	医療法人のアカウントビリティ1 ・医療法人に注目して開示資料などを確認する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	医療法人のアカウントビリティ2 ・医療法人の開示資料についての問題点を探る。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	医療法人のアカウントビリティ3 ・医療法人の開示資料に不足していることを考察する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	公益法人のアカウントビリティ1 ・公益法人に注目して開示資料などを確認する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	公益法人のアカウントビリティ2 ・公益法人の開示資料についての問題点を探る。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	営利法人（株式会社）のアカウントビリティ1 ・営利法人に注目して開示資料などを確認する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	営利法人（株式会社）のアカウントビリティ2 ・営利法人の開示資料に不足していることを考察する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	営利法人（株式会社）のアカウントビリティ3 ・営利法人に注目して開示資料などを確認し、問題点を探る。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	アカウントビリティの機能についての考察 ・アカウントビリティが効果的に果たされるための諸条件について考察し、授業のまとめとする。			【復習】これまでの授業を振り返り、改めてアカウントビリティとは何かについて熟考する。		60	
〔授業の方法〕							

授業は講義を中心に進めます。授業の進行具合に応じて、CoursePower のクリッカー、テスト、アンケートなどを利用した課題で、理解度の確認を行います。課題は、原則として授業中に解答して提出してもらいます。

質問などは、授業中やメールなどで随時受け付けます。授業終了後、配布資料などを見直して理解できなかったことや疑問点を確認し、次回の授業やメールなどで質問をするように心がけてください。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安なので、各自の理解度に応じて取り組んでください。

〔成績評価の方法〕

授業内課題（CoursePower のテスト、アンケート、クリッカーなどの機能を利用します）のウエイトが 40%、期末試験や宿題レポートのウエイトが 60% で総合評価をします。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ① アカウンタビリティの存在意義について理解できる。
- ② 営利法人のアカウンタビリティについて説明できる。
- ③ 非営利法人のアカウンタビリティについて説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

企業経営や企業会計に関する科目で学修した知識を修得していることを前提として授業を進めます。

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しません。授業でプリントを配布します。

〔参考書〕

特にありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

ICT 活用

科目名	人的資源管理						
教員名	義村 敦子						
科目No.	122539000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕 人的資源管理施策とは、組織に雇用される人が受ける具体的な管理の方策であり、採用に始まって退職に終わるまでの多岐にわたる施策を含んでいます。これらの現状を学びながら、今後どのような人的資源管理施策の変更が求められるかについても考えていきます。							
〔到達目標〕 この授業では、DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とします。 ①人的資源管理施策に関する基本的な知識を得る。 ②今後の人的資源管理のあり方について議論するための基盤となる力を養成する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）					準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション：労働市場と人的資源	【予習】テキスト第一章を熟読。					60
第2回	採用（組織メンバーの選定と雇用）	【復習】第2回の内容を把握する。					60
第3回	人材配置（組織メンバーを最適なポジションに配置）	【復習】第3回の内容を把握する。					60
第4回	教育訓練（職務遂行能力を向上させる教育サポート）	【復習】第4回の内容を把握する。					60
第5回	キャリア開発（個人の生涯キャリア発達と組織によるサポート）	【復習】第5回の内容を把握する。					60
第6回	職務設計（個人やチームに適した職務をデザイン）	【復習】第6回の内容を把握する。					60
第7回	人事評価（働きぶりを公正に評価）	【復習】第7回の内容を把握する。					60
第8回	報酬制度（貢献に見合った報酬の仕組み）	【復習】第8回の内容を把握する。					60
第9回	雇用差別の是正（雇用における機会の均等を考える）	【復習】第9回の内容を把握する。					60
第10回	雇用形態の多様化（さまざまな働き方と企業対応）	【復習】第10回の内容を把握する。					60
第11回	労使間コミュニケーション（経営者と労働者の意思疎通）	【復習】第11回の内容を把握する。					60
第12回	高齢化と退職制度（キャリアプランと年金など）	【復習】第12回の内容を把握する。					60
第13回	成果主義の行方（成果主義の課題と留意点）	【復習】第13回の内容を把握する。					60
第14回	人的資源管理のこれから	【復習】第14回の内容を把握する。					60
〔授業の方法〕 基本的に講義形式をとります。具体的にはパワーポイントによる教材提示をしながら授業を進めます。授業内容に基づいて複数回のレポート提出を求めます。評価の基準は講義中にその都度明らかにします。							
〔成績評価の方法〕 平常点（授業への積極的参加）10%と提出されたレポート（複数回の合計点）90%によって総合的に評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

①人的資源管理の特徴と背景を明確に説明できる。

②各人的資源管理施策の機能と留意点を明確に説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

幅広い理解のためにこれらの科目の受講を推奨しますが、これらの科目を受講していなくても講義は受けられます。「労働法」、「日本の労働市場」、「キャリアの経済学」、「人事政策」

〔テキスト〕

特に指定しません。

〔参考書〕

『入門 人的資源管理 第2版』 奥林康司 上林宣雄 平野光俊 編著 中央経済社 2,940 円

その他、必要に応じて提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		人間情報処理					
教員名		山崎 由香里					
科目No.	122541000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p><テーマ>人間の情報処理(=意思決定)を理解し、よい判断を導く方法を考える。</p> <p>日常生活や企業活動において、人々は常に何らかの情報を処理し、判断を下している。我々は、よい判断を導き出したいと思うものである。しかし、常的な確かな情報処理が行えるとは限らないため、時には偏った、あるいは誤った判断をしてしまうことがある。また、同じ情報が手元にあったとしても、人や状況によって判断が異なったりもする。なぜ誤ってしまうのか、なぜ異なる判断が下されるのか。この間の答えを出すべく、本授業では人間の情報処理についての諸理論を理解する。そして、2017年のノーベル経済学賞を受賞した R. Thaler らによるキーワード「ナッジ (Nudge)」をヒントに、より望ましい判断を下すための糸口を探っていく。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1(専門分野の知識・技能)とDP3(課題の発見と解決)を実現するために、次の3点を到達目標とする。</p> <p>1. 人間の情報処理・意思決定に関する理論を修得する。</p> <p>2. 社会におけるさまざまな現象を、修得した理論を用いて説明する。</p> <p>3. より望ましい情報処理をするためにはどのようなことができるか、自分なりに考えて意見を表明する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	<p>ガイダンス:</p> <p>授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。成績評価方法を確認する。</p> <p>簡単なクイズや事例を通じて、人間の情報処理傾向に触れる。</p>			<p>【予習】シラバスをよく読み、内容を把握する。</p> <p>【復習】授業内のクイズを自分の周りの人に紹介し、説明できるようにする。</p>		60	
第2回	<p>情報処理とは:</p> <p>人間とコンピュータの情報処理を比較しながら、人間の情報処理の特徴を理解する。</p> <p>人間の情報処理=意思決定を理解するための3つのアプローチを学ぶ。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第3回	<p>規範的意思決定～理想の追求:</p> <p>合理性、最大化原理、期待値、期待効用理論、期待効用理論の4つの公理などについて学ぶ。</p> <p>※課題の確認。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p> <p>提出課題を行う。</p>		90	
第4回	<p>記述的意思決定1:</p> <p>人間の情報処理・思考における「2つのシステム」について学び、システムに関連する情報処理例を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第5回	<p>記述的意思決定2:</p> <p>人間の心理的特性として、記憶、パーソナリティ、知覚、態度および感情などを取り上げ、情報処理に及ぼす影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		90	
第6回	<p>記述的意思決定3:</p> <p>ヒューリスティック#1 ヒューリスティックスについて学び、代表性ヒューリスティックの影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第7回	<p>記述的意思決定4:</p> <p>ヒューリスティック#2 利用可能性ヒューリスティックの影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第8回	<p>記述的意思決定5:</p> <p>ヒューリスティック#3 アンカリングヒューリスティックと、その他の情報処理への影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第9回	<p>記述的意思決定6:</p> <p>プロスペクト理論#1 プロスペクト理論を学び、情報処理への影響を考える。</p> <p>※課題の確認。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第10回	<p>記述的意思決定7:</p> <p>プロスペクト理論#2 プロスペクト理論を学び、情報処理への影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第11回	<p>処方的意思決定1～改善に向けて:</p> <p>処方的アプローチを採用する諸理論を学び、情報処理について考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第12回	<p>処方的意思決定2:</p> <p>ナッジ (NUDGE) について学び、情報処理への影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		60	
第13回	<p>処方的意思決定3:</p> <p>選択アーキテクチャ (Choice Architecture) について学び、情報処理への影響を考える。</p>			<p>【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。</p>		90	
第14回	<p>総括</p>			<p>【復習】これまで学んだ内容を踏まえて、自分なりの処方方を考察する。</p>		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で進める。授業の進行具合に応じて、数回の課題提出も予定している。質問などは、教室やメールなどで随時受け付ける。授業終了後、配布資料を見直して理解できなかったことや疑問点を確認し、次回の授業やメールなどで質問をするように心がけること。</p> <p>また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安なので、各自の理解度に応じて取り組むこと。なお、取り上げる内容は、学生の理解度に応じて変更する可能性がある。</p>							
〔成績評価の方法〕							

授業取り組みに対する態度意欲（20%）、授業関連課題（30%）、学期末試験（50%）を基準に、総合的に評価する。
※Course Power 等を用いたレポート、小テスト、クリッカー、クイズ、コメントシートの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて授業課題を出す。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①授業で取り上げた理論を理解し、説明できる。
- ②さまざまな理論を踏まえ、諸要因が情報処理に及ぼす影響について考えることができる。
- ③よりよい情報処理を行うために、どのような取り組みが必要かなど、自分の意見を持ち、表明することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし／企業経営の基礎／特になし

〔テキスト〕

山崎由香里『行動科学／行動経済学キーワード事典』, Next Publishing Authors Press
(Kindle 版 ASIN : B09KT6HCT2 ¥1,000)
(ペーパーバック ISBN-10 : 4802081448 ¥1,650)
授業時の配布資料

〔参考書〕

『組織における意思決定の心理』、山崎由香里、同文館出版、¥3,360、ISBN-13: 9784495379919
その他、必要に応じて適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		コーチングの基礎					
教員名		田原 麗衣					
科目No.	122542000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>近年、スポーツ以外の分野で人材育成や円滑な対人関係構築を目的として、スポーツにおけるコーチングの手法やスポーツ・身体活動が取り入れられている。また、我が国でもオリンピック・パラリンピックや各種ワールドカップをはじめ、大きなスポーツイベントを招致している。本講義では、スポーツの側面から個や集団を良い方向に導くための基本概念や手法、国内外のスポーツを取り巻く環境を様々な事例をもとに概説する。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>①スポーツにおける優れた指導者・コーチが実践している「コーチング」の本質や、優れた組織・チーム運営の仕組みを理解する。 ②個人や集団を目標達成に導く手法や求められる資質・能力などについて理解する。 ③学んだ内容を自らの状況等に当てはめて、適切な対処法や改善策を考察する。 上記を到達目標とし、DP1（専門分野の知識・理解）およびDP3（課題の発見と解決）の実現を目指す。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス： シラバスの内容、授業の進め方、評価基準等について把握する。			【予習】これまでの生活の中で目標達成できた経験と達成できなかった経験を振り返っておく。 【復習】これまで出会った優れたコーチ・指導者を思い浮かべ、優れていた点（資質・能力）を挙げておく。		60	
第2回	コーチング～指導者の役割： 個・チームを導くために必要な資質・能力について把握する。			【予習】スポーツ現場でコーチが果たしている役割を考えてみる。 【復習】実在する個人やチームを例に、コーチにどのような資質が必要か考えてみる。		60	
第3回	競技力向上を目的としたコーチング～トップアスリートの指導： 競技力向上のためのトレーニングについて把握する。			【予習】競技力向上のためにコーチが考慮すべきことは何か考えておく。 【復習】競技力向上のためのコーチングで考慮すべき4つのダイヤモンドについて説明できるようにする。		60	
第4回	医科学を活用したコーチング： 現代の情報・医学・科学にもとづいた合理的なコーチングについて把握する。			【予習】コーチングにどのような情報や知見が活用されているか（必要か）考えてみる。 【復習】コーチを支える様々な分野のスタッフについて説明できるようにする。		60	
第5回	教育現場におけるコーチング～教育にスポーツは必要なのか？： 学校教育や企業等でスポーツが取り入れられている意義を理解する。			【予習】スポーツが持つ教育的意義について考えておく。 【復習】人材育成の観点からスポーツに期待される役割と勝利至上主義について説明できるようにする。		60	
第6回	社会におけるコーチング～余暇としてのスポーツの意義： スポーツ普及の意義について理解する。			【予習】余暇としてのスポーツの楽しみ方にどのようなものがあるか考えてみる。 【復習】今後の自分の生活の中へのスポーツの取り入れ方について考えてみる。		60	
第7回	チームビルディングと戦略目標： チームビルディングの手法、戦略目標の導出について把握する。			【予習】SWOT分析のやり方についてネット等で調べておく。 【復習】集団を導くために必要な戦略目標の設定の仕方を説明できるようにする。		60	
第8回	組織運営～競技団体、クラブチーム： 国内外のスポーツ組織運営について把握する。			【予習】日本の競技団体やクラブチームを1つ選び、その組織体制について調べておく。 【復習】日本のスポーツに関連する組織をより充実させるためには何が必要か考えてみる。		60	
第9回	人材育成～指導者の育成プログラム： 適切な指導者の育成・ライセンスについて考察する。			【予習】指導者に必要な知識や資質について考えておく。 【復習】日本の指導者育成の現状と課題について説明できるようにする。		60	
第10回	大会招致とスポーツ立国戦略： 大きなスポーツイベントを招致する意義・課題を理解する。			【予習】東京オリパラを招致して良かった点と悪かった点を考えておく。 【復習】スポーツイベント招致が及ぼす影響・効果について、多面的に考えてみる。		60	
第11回	スポーツイベントの運営と経済効果： スポーツイベントの運営・マネジメントについて把握する。			【予習】オリンピックやワールドカップ等のビックイベントを1つ選び、運営費を調べておく。 【復習】今後のスポーツイベントのあり方について考えてみる。		60	
第12回	スポーツと関わる技術開発・商品開発： スポーツと関連した技術開発について把握する。			【予習】スポーツと関連した用具器具の開発について、どのようなものがあるか調べてみる。 【復習】スポーツ技術開発に求められる視点や課題について説明できるようにする。		60	
第13回	パラアスリートのコーチングと支援： パラアスリートを取り巻く環境について把握する。			【予習】パラアスリートの雇用について調べておく。 【復習】パラスポーツとの関わり方や今後のパラアスリートの支援のあり方について考えてみる。		60	
第14回	講義のまとめ： これまでに学んだ学修内容を確認する。			【予習】これまでの回で学んだ内容を確認しておく。 【復習】レポート作成を通して自分の理解度を確認し、理解度が足りない点は復習する。		90	
〔授業の方法〕							
<p>各回のテーマに則した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いて講義形式で授業を展開する。 授業内課題レポートを課すので、そのレポートを利用して受講生とのコミュニケーションを図り、できる限り双方向の授業を展開する。 ただし、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
〔成績評価の方法〕							

課題提出状況 60%、平常点(授業への参加状況) 40%により、総合的に評価する。
履修者数などの状況によっては最終週に到達確認テストを実施する場合がある。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第 39 条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度にもとづいて評価する。

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

予備知識は特に必要としない。先修科目の設定は特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

レイナー・マートン『スポーツ・コーチング学 指導理念からフィジカルトレーニングまで』(西村書店)

広瀬一郎『「尊重」と「覚悟」を育む スポーツマンシップ立国論』(小学館)

チューダー・ボンパー『競技力向上のトレーニング戦略』(大修館書店)

※購入の必要なし

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

授業後に実施場所にて受け付ける。

また、それ以外の質問・相談方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		ストレス・マネジメント					
教員名		林 潤一郎					
科目No.	122543000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ストレスに対する正しい理解を得るとともに、ストレスへの対処能力を高めていくことは、学生生活、さらには卒後の社会生活において、自分自身を守り、支えながら、自らの持つ力を発揮していくために有益なものとなる。</p> <p>そこで本講義では次の2つを軸として、ストレス・マネジメントについての専門性を高めていく。第一に、ストレスについての基礎的知見を学び、正しい知識を得ること。第二に、ストレス・マネジメント力向上のための一連の体験ワークやエクササイズを通して、実践的スキルを身に付けること。</p> <p>なお、本講義では、ストレスに対する知識取得だけでなく、自分自身に適したストレス・マネジメントスキルを獲得し、実生活で実際に活用できるようになることを目指している。そのため、授業時間内だけでなく授業時間外でも体験ワークやエクササイズをホームワークとして課すことがあり、積極的な取り組みを期待している（ホームワークは、レポート作成のような学術的なものではなく、日々の中で、自分の特徴をモニターしたり、行動の仕方や考え方を考えてみて、その影響をモニターするなどの体験的・実験的なものを主に想定している）。さらに、授業の初回と最終回において、自分自身のストレス反応パターンおよびストレス・マネジメントスキルの評価を行い、ストレス・マネジメントに関する各自の元来の特徴を把握するとともに、受講後の変化について振り返りを行う予定である。</p> <p>また、授業の進捗状況および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p> <p>【オンライン授業になった場合の変更点】 内容には変更はないが、「授業の方法」と「成績評価の方法」を一部、変更する可能性がある。変更予定の詳細は各項目を参照のこと。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) ストレスについて正しい理解を得ること。</p> <p>(2) ストレス・マネジメント力向上のための体験ワークやエクササイズに取り組み、実践的スキルを身につけること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション： ・授業の内容、進め方、評価、予習・復習の仕方等を知る ストレスについて正しい理解を得る（1）： ・ストレス理解の概要を把握する ・これまでのストレス体験を測定する（事前評価）			【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【復習】60	
第2回	ストレスについて正しい理解を得る（2）： ・ストレスの影響について学ぶ ・自分自身に特徴的なストレスの影響を理解する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第3回	ストレスについて正しい理解を得る（3）： ・ストレスが（悪）影響を及ぼす過程について学ぶ ・自分自身に特徴的な「ストレスが（悪）影響を及ぼす過程」について理解する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第4回	ストレスについて正しい理解を得る（4）： ・ストレス対処について学ぶ ・自分自身に特徴的なストレス対処について理解する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第5回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（1）： ・問題解決スキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第6回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（2）： ・人と上手にやりとりするスキル（コミュニケーション・アサーションスキル）について学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第7回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（3）： ・行動変容スキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第8回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（4）： ・時間管理スキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第9回	ストレスマネジメント力向上のための知識と体験ワーク（5）： ・思考（認知）の癖と上手に付き合うスキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第10回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（6）： ・身体感覚を介したリラクゼーション・マインドフルネススキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第11回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（7）： ・健康的なライフスタイルを保つスキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第12回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（8）： ・自他の心の痛みやしんどさに気づき、受け入れ、温かくケアしていくためのコンパッションスキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	

第13回	<p>ストレス・マネジメント方向上のための知識と体験ワーク(9):</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰かの成長(変化)を支えて、応援していくためのコミュニケーションスキルについて学び、実践する 	<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。</p>	<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>
第14回	<p>授業のまとめと事後評価:</p> <ul style="list-style-type: none"> ストレス場面での対処(マネジメントスキル)をシミュレーションする 各回を振り返り、自身のストレス反応パターンおよびストレスマネジメントスキルの変化を整理する 授業を受けたあとのストレス体験を測定する(事後評価) 	<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。</p>	<p>【予習】10</p> <p>【復習】50</p>
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義と体験ワーク(エクササイズ)を併用して行う。また、各授業を受けた結果や感想をレスポンスシートにまとめ、毎回提出する。学期末に期末レポートを課す。普段からプリントを使った復習(およびホームワークがあればそれ)に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学習の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。出欠確認のために学生証を使用するため、必ず持参して授業に臨むこと。</p> <p>なお、レスポンスシート、期末レポートの狙いは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> レスポンスシート:各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる(なお、必要に応じて、適時レスポンスシートの内容に対するフィードバックを行う予定である)。 期末レポート:授業全体の学修成果をまとめる。 <p>【オンライン授業になった場合の変更点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各回の授業終了時に、レスポンスシート提出に加えて、理解度確認用の確認ミニテストを実施し、評価対象に追加する可能性がある。 出欠の確認方法を変更する。各回の最後に実施予定の「レスポンスシートへの提出」(と実施する場合は「確認ミニテストへの回答」)をもって出席扱いとする。 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点(40%)、期末テスト(60%)、により総合的に評価する。</p> <p>【オンライン授業になった場合の変更点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業への参加状況(レスポンスシートの提出状況(と実施する場合は確認ミニテストの成績)など)、および学期末課題(CoursePowerで提出する期末レポート)の提出状況を踏まえ、総合的に平常点として成績評価する。 			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その到達度により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ストレスについて正しい理解を得ること。 ストレス・マネジメント方向上のための体験ワークやエクササイズに取り組み、実践的スキルを身につけること。 			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕</p> <p>関連科目:こころの健康と臨床/カウンセリングの基礎</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし。なお、各回のレジュメは事前に Course Power にアップロードする予定なので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		組織の経済学					
教員名		平尾 由紀子					
科目No.	122544000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>民営化、企業の合併・買収、従業員の報酬制度、取締役会制度や監査制度など、新聞には経済組織に関する記事が毎日のように載っている。これらの現象をばらばらにみるのではなく、統一的な経済学の視点から捉えることが組織の経済学の目的である。企業組織内のモチベーション（動機付け）、企業間関係と契約、企業の資本構成とインセンティブ、組織のデザインなど、経営学で扱われてきた対象を、経済学的手法を用いて分析する。</p> <p>なお、授業の進捗に応じて、以下の授業の計画・内容、及び宿題の回数と提出日を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①組織の経済学の基礎的な概念を学び、理論的な理解力を養う。 ②理論をさまざまな組織に応用して分析するための基礎知識を身に付ける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	はじめに：組織の経済学とは			【復習】 授業の内容を復習する。		60	
第2回	取引コスト理論の基本原則			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題1に取り組む。		120	
第3回	宿題1の解説 取引コスト理論と組織デザイン			【復習】 授業の内容を復習する。宿題1の理解を確認する。		60	
第4回	取引コスト理論と企業の境界			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題2に取り組む。		120	
第5回	宿題2の解説 情報の非対称性の問題：逆選択とモラル・ハザード			【復習】 授業の内容を復習する。宿題2の理解を確認する。		60	
第6回	情報の非対称性への対策			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題3に取り組む。		120	
第7回	宿題3の解説、期末レポートのテーマを周知 エージェンシー理論と人事労務			【復習】 授業の内容を復習する。宿題3の理解を確認する。 【予習】 期末レポートに取り組む。		120	
第8回	日本の人事制度			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題4に取り組む。		120	
第9回	宿題4の解説 エージェンシー理論とコーポレート・ガバナンス			【復習】 授業の内容を復習する。宿題4の理解を確認する。 【予習】 期末レポートについて調べる。		120	
第10回	日米コーポレート・ガバナンスの特徴			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題5に取り組む。		120	
第11回	宿題5の解説 エージェンシー理論と企業財務（コーポレート・ファイナンス）			【復習】 授業の内容を復習する。宿題5の理解を確認する。 【予習】 期末レポートについて調べる。		120	
第12回	所有権理論の原理			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題6に取り組む。		120	
第13回	宿題6の解説 所有権理論と企業組織			【復習】 授業の内容を復習する。宿題6の理解を確認する。 【予習】 期末レポートを執筆する。		120	
第14回	全体のまとめ			【復習】 学期中に学んだ内容全体の復習と理解に努める。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業時にはプリントを配布し、それをもとに講義を行う。授業中の短い演習問題と授業外の宿題を定期的に課し、学生の理解度を見ながら授業を進める。学生は、これらの課題に取り組むことにより、授業の復習をする。分からないことを次の授業に持ち越さないようにする。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、演習、宿題と期末レポートの狙いは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の短い演習と授業外の宿題：その時々授業内容の理解を確認する。 ・期末レポート：現実の組織形態について学生各自が調べることで、授業第1部（取引コスト理論）に関する理解を深める。 							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点（評価の60%程度）と学期末の課題レポート（評価の40%程度）を目安として、総合的に成績評価する。</p> <p>平常点は、授業中の演習問題（毎授業時提出）と、授業外で取り組む宿題（隔週提出）から成る。</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①組織の経済学の基礎的な概念を学び、理論的な理解を深めた。
- ②理論をさまざまな組織に応用して分析するための基礎知識を身に付けた。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識、先修科目は特になし。関連科目は「ゲーム理論」、「情報の経済学」、及び「組織と人間」群の科目。ただし、これらの科目を履修していなくても差し支えない。

〔テキスト〕

・菊澤研宗（2006）『組織の経済学 入門』、有斐閣、2300 円＋税（ISBN4-641-16277-8）に依拠する。ただし、授業で講義プリントを配布するので、テキストを購入する必要はない。

〔参考書〕

- ・菊澤研宗編著（2006）『業界分析 組織の経済学』、中央経済社、2600 円＋税。
 - ・清水克俊・堀内昭義（2003）『インセンティブの経済学』、有斐閣、3200 円＋税。
 - ・中林真幸・石黒真吾編（2010）『比較制度分析・入門』、有斐閣、2800 円＋税。
 - ・柳川範之（2000）『契約と組織の経済学』、東洋経済新報社、2500 円＋税。
 - ・エドワード・ラジャー、マイケル・ギブス（2017）『人事と組織の経済学 実践編』日本経済新聞社、4800 円＋税。
 - ・Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer (2010), "Economics of Strategy, Fifth Edition," Wiley.
 - ・Milgrom, P., and J. Roberts (1997) 『組織の経済学』、NTT 出版、5500 円＋税。
- 以上はいずれも参考書であり、購入の必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	コーポレート・ファイナンス						
教員名	時岡 規夫						
科目No.	122552000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>ファイナンスは経済主体の金融に関わる意思決定や金融取引を研究対象とする学問分野です。そこでは、しばしば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金の供給主体で証券の需要主体である投資家の金融に関する意思決定をテーマとする証券投資 ・資金の需要主体で証券の供給主体である企業の金融に関する意思決定をテーマとするコーポレート・ファイナンス（企業金融論） ・資金と証券の交換メカニズムである証券市場や銀行 <p>に大別して説明されます。この授業では、前期に開講される「ファイナンスの基礎」の内容を受けて、コーポレート・ファイナンスの発展的なトピックスを学んでいきます。できるだけ具体的な事例等をまじえることで、コーポレート・ファイナンスの実際についての理解をさらに深める一助とすることもめざします。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、以下を到達目標とします：</p> <p>コーポレート・ファイナンス（企業金融論）の発展的なトピックス、具体的には、コーポレート・ガバナンス（企業統治）、M&A（合併・買収）、株式公開、国際財務管理に関する理論と具体的な事例や関連データをまじえて実際について理解し、明確に説明できることを到達目標とします。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかた等を説明します。 ・ファイナンスの学問分野としての特徴、コーポレート・ファイナンス（企業金融論）の分析の視点を確認します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【予習】 シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。</p> <p>【復習】 配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第2回	<p>コーポレート・ガバナンス（その1）</p> <p>※以下、進捗状況等に応じて内部が一部変更される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンスの課題について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第3回	<p>コーポレート・ガバナンス（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株主と経営者の利害の対立とその解決策について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第4回	<p>コーポレート・ガバナンス（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株主と債権者の利害の対立とその解決策について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第5回	<p>コーポレート・ガバナンス（その4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取締役会のコーポレート・ガバナンス上の役割、その国際比較について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第6回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M&Aの基礎知識を学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第7回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M&Aはなぜ行なわれるのかについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第8回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敵対的買収について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第9回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M&Aは実際に成功しているのかについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第10回	<p>株式公開とコーポレート・ファイナンス（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式公開の基礎知識を学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第11回	<p>株式公開とコーポレート・ファイナンス（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式公開の事例分析を学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第12回	<p>株式公開とコーポレート・ファイナンス（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式の非公開化について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第13回	<p>国際財務管理（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際財務管理とは何かについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第14回	<p>国際財務管理（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際財務管理の理論と実際を学修します。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
〔授業の方法〕							
<p>通常の講義形式で進めますが、授業中にクイズなどを出すことがあります。また、レポートの提出を求められることがあるかもしれません。ふだんから復習に力を入れ、今回の授業にわからないところを持ち越さないように心がけてください。上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。なお、クイズ、レポートの主なねらいは次のとおりです。</p>							

- ・クイズ：学修内容についての基本的な理解度やキーワードの理解を確認する。
 - ・レポート：課題内容を理解し、学修内容をふまえて自分の理解を明確に説明できているかを確認する。
- 授業自体は、配布資料等を基に、講義内容を詳述します。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および授業中に出されるクイズなどの取り組み状況等ならびにレポートの提出状況・内容等によって総合的に評価します。評価ウェイトは学期末試験が80%、クイズやレポートなどの平常点が20%を目安とする予定です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価します。

・コーポレート・ファイナンス（企業金融論）の発展的なトピックス、具体的には、コーポレート・ガバナンス（企業統治）、M&A（合併・買収）、株式公開、国際財務管理に関する理論と実際について理解し、明確に説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目としては、「企業経営の基礎」、「ファイナンスの基礎」など。

関連科目としては、「会社のしくみと制度」、「ミクロ経済学の基礎」、「マクロ経済学の基礎」、「資産選択の意思決定」、「証券市場」、「社会理解実践講義（資本市場の役割と証券投資）」など。

〔テキスト〕

現時点では使用するかどうかを含め未定です。
はじめの授業日に担当者から説明があります。

〔参考書〕

とりあえず

- ・新井 富雄・渡辺 茂・太田 智之〔著〕, 1999, 『資本市場とコーポレート・ファイナンス』, 中央経済社 (3,500円＋税, ISBN 4-502-34902-1)
 - ・榊原 茂樹・菊池 誠一・新井 富雄・太田 浩司〔著〕, 2011, 『現代の財務管理』, 新版, 有斐閣 (2,100円＋税, ISBN 4-641-12427-2)
 - ・俊野 雅司・白須 洋子・時岡 規夫〔著〕, 2020, 『ファイナンス論・入門』, 有斐閣 (3,600円＋税, ISBN 978-4-641-16570-0)
 - ・米澤 康博・小西 大・芹田 敏夫〔著〕, 2004, 『新しい企業金融』, 有斐閣 (1,900円＋税, ISBN 4-641-12217-2)
 - ・Brealey, Richard A., Stewart C. Myers, and Franklin Allen, 2020, Principles of Corporate Finance, 13th ed., New York: McGraw-Hill Education (ISBN 978-1-260-56555-3) (邦訳の最新版は第10版; リチャード・ブリーリー＝スチュワート・マイヤーズ＝フランクリン・アレン〔著〕, 藤井 真理子・國枝 繁樹〔監訳〕, 2014, 『コーポレートファイナンス』, 第10版, 上・下, 日経BP社)
- を挙げますが、その他、個々のトピックスに関する参考書・参考資料等の参考文献は授業中に適宜紹介、配付します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名	資産選択の意思決定						
教員名	時岡 規夫						
科目No.	122553000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>現代ファイナンスは、経済主体の金融に関わる意思決定を取り扱う分野です。そこでは、しばしば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金の供給主体で証券の需要主体である投資家の資産選択問題などをテーマとする証券投資 ・資金の需要主体で証券の供給主体である企業の投資政策や資本構成や利益還元政策などをテーマとするコーポレート・ファイナンス ・資金と証券の交換メカニズムである証券市場や銀行 <p>に大別して説明されます。この授業では、証券投資にスポットを当てます。そこでの中心的なテーマは、上で述べたように、資金を持っている投資家はその資金を使ってどの証券（株式、債券、あるいは、国内資産のみならず外国資産も含めて）にいくら投資をするか、という資産選択の意思決定問題です。その問題に対する1つの答えが、金融実務の世界でもよく知られている資本資産評価モデル（CAPM）です。その主要な結果は、あらゆる株式をある決まった比率で保有することがすべての投資家にとって最適な資産選択になる、というものです。この授業では、単にモデルの結果を紹介するだけでなく、前提となる人間の選択や結果に至る理論の筋道、関連するトピックスについてもなるべく丁寧に説明することを心がけ、証券投資に対する理解を深めてもらうことをめざします。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、以下を到達目標とします：</p> <p>証券投資のトピックス、具体的には、リスク、期待効用、平均・分散アプローチ、投資機会集合、トービンの分離定理、CAPM について理解し、明確に説明できることを到達目標とします。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかた等を説明します。 ・現代ファイナンス、証券投資の学問上の位置づけを把握します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【予習】 シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。</p> <p>【復習】 配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。</p>			60
第2回	<p>リスクの捉え方（その1）</p> <p>※以下、進捗状況等に応じて内容が一部変更される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクの捉え方について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第3回	<p>リスクの捉え方（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、リスクの捉え方について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第4回	<p>期待効用（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待効用について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第5回	<p>期待効用（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、期待効用について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第6回	<p>平均・分散アプローチ（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均・分散アプローチについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第7回	<p>平均・分散アプローチ（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、平均・アプローチについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第8回	<p>投資機会集合（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資機会集合について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第9回	<p>投資機会集合（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、投資機会集合について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第10回	<p>投資機会集合（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、投資機会集合について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第11回	<p>トービンの分離定理（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トービンの分離定理について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第12回	<p>トービンの分離定理（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、トービンの分離定理について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第13回	<p>資本資産評価モデル（CAPM）（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資本資産評価モデル（CAPM）について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
第14回	<p>資本資産評価モデル（CAPM）（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回にひきつづき、資本資産評価モデル（CAPM）について学修します。 			<p>【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>			90
〔授業の方法〕							

通常の講義形式で進めますが、授業中にクイズなどを出すことがあります。また、レポートの提出を求めることがあるかもしれません。ふだんから復習に力を入れ、次回の授業にわからないところを持ち越さないように心がけてください。上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。なお、クイズ、レポートのねらいは次のとおりです。

- ・クイズ：その回の学修内容についての基本的な理解度やキーワードの理解を確認する。
- ・レポート：課題内容を理解し、学修内容をふまえて自分の理解を明確に説明できているかを確認する。

授業自体は、配布資料等を基に、講義内容を詳述します。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および授業中のクイズなどやレポートの提出状況・内容等によって総合的に評価します。評価ウェイトは学期末試験が80%、クイズやレポートなどの平常点が20%を目安とする予定です。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・リスク、期待効用、平均・分散アプローチ、投資機会集合、トービンの分離定理、CAPMといった、証券投資のトピックスについて理解し、明確に説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目としては、「企業経営の基礎」、「ファイナンスの基礎」など。

関連科目としては、「会社のしくみと制度」、「ミクロ経済学の基礎」、「マクロ経済学の基礎」、「コーポレート・ファイナンス」、「証券市場」、「社会理解実践講義（資本市場の役割と証券投資）」など。

〔テキスト〕

- ・俊野 雅司・白須 洋子・時岡 規夫〔著〕、2020、『ファイナンス論・入門』、有斐閣（3,600円＋税、ISBN 978-4-641-16570-0）

はじめの授業日に担当者から説明があります。

〔参考書〕

とりあえず

- ・大村 敬一〔著〕、2010、『ファイナンス論：入門から応用まで』、有斐閣（3,200円＋税、ISBN 978-4-641-18383-4）
- ・大村 敬一・俊野 雅司〔著〕、2000、『証券投資理論入門』、日本経済新聞社（860円＋税、ISBN 4-532-10824-1）
- ・仁科 一彦〔著〕、2004、『現代ファイナンス理論入門』、第2版、中央経済社（3,500円＋税、ISBN 4-502-37270-6）
- ・Huang, Chi-fu, and Robert H. Litzenberger, 1988, Foundations for Financial Economics, Prentice-Hall (ISBN 0-13-500653-8)

を挙げますが、その他、個々のトピックスに関する参考文献は適宜紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名	管理会計						
教員名	伊藤 克容						
科目No.	122554000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>企業会計には、「財務会計」と「管理会計」という2つの領域があります。</p> <p>現在のような競争の激しい世の中で、会社の経営をうまくおこなおうとすれば、様々なデータを駆使することがどうしても必要になります。「どの商品が儲かっているか」、「業績の好調な支店はどの店か、その原因は何か」、「計画どおりに利益があがらなかったのはなぜか、対策をどう考えたらいいか」、「あたらしい工場を建てるべきか、思いとどまった方がいいか」など、経営者が直面するいろいろな問題を処理するのにデータはひじょうに有効です。管理会計の講義では、経営に役立つ数字の扱い方を学習します。</p> <p>「管理会計」という言葉は、英語で書くと management accounting といいます。この言葉は、「財務会計」とセットになる言葉です。株主、債権者、税務当局など企業外部の人たちに役立つ情報を提供するものが財務会計とよばれる領域です。これに対して、会社のなかの経営者が問題を処理するのにつかう情報を提供するものが管理会計です。会社のなかの経営者といっても、社長などのトップ・マネジメントから部課長レベルおよび現場の第一線で活躍する管理者のすべてが含まれます。経営管理 (management) のための会計 (accounting) が、管理会計だというわけです。この講義では、企業が競争優位を構築し、維持するために利用している会計手法のうち、基本的な内容を学習します。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①管理会計の基本用語について説明できる。</p> <p>②管理会計の代表的な手法について、実際に計算ができる。</p> <p>③企業における管理会計の運用プロセスを理解することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	ガイダンス (管理会計と財務会計、成績評価の方法)			【予習】管理会計とはどのようなものか、書籍、ウェブサイトなどで自分なりに調べておくこと。 【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第2回	原価計算の基礎知識 (1)			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第3回	原価計算の基礎知識 (2)			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第4回	個別原価計算と総合原価計算 (1)			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第5回	個別原価計算と総合原価計算 (2)			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第6回	事業部の業績測定			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第7回	総合問題演習 (前半のまとめ)			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第8回	プレゼンテーション大会、差額原価収益分析			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第9回	組織間コストマネジメント			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第10回	コスト・マネジメントの新しい体系 原価企画・原価改善・原価維持			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第11回	予算実績差異分析 (1)			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第12回	予算実績差異分析 (2)			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第13回	主要財務指標の改善 (1)			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第14回	主要財務指標の改善 (2) + 全体のまとめ			【復習】確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
〔授業の方法〕							
<p>基本的には講義形式 (教官の話を中心にする授業形態) をとっていますが、教官の話をおとなしく聞いていれば、それだけでいいという授業ではありません。授業時間中のディスカッション、課題提出など、受講者の側からの積極的な取り組みを前提として考えています。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみるようにしてください。最初によくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いているうちに段々分かってくるということが、頻繁にあります。計算問題をやる際に必要となるので、毎時間かならず自分用の電卓をもってきてください。質問はいつでも受け付けます。授業時間中に不明な点をその都度、確認するようにしてください。</p>							

〔成績評価の方法〕

課題提出（50%）、講義時間内の確認テスト、発言など講義時間内の取り組み（50%）を基本に評価します。
積極的に参加する意欲の高い受講者に対して加点します。いくつかの重要概念、経営手法について、受講者が作成したレポートを発表し、討議・共有する機会を設けます。受講者が主体となって課題解決に取り組む、プロジェクト型授業としての性格を一部、有します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度を総合的に評価します。
①管理会計の重要概念、計算構造を理解している。
②管理会計の計算実務を実施することができる。
概ね、「試験 50%+平常点 50%」での評価となります。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「企業会計入門」で学んだ知識があれば、十分です。基礎から勉強します。特定の先修科目を前提としません。
経営、企業、会計、金融などへの一般的な関心・興味があったほうがよいでしょう。
管理会計は、財務会計と対になる概念で、企業会計の重要な構成要素です。多くの会計科目の基礎として位置付けられます。関連科目として、会計関連の諸科目の受講をすすめます。

〔テキスト〕

特に定めません。毎回、プリントを配付します。

〔参考書〕

必要に応じて指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

オフィスアワーについては、ポータルサイトで周知しています。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名		財務会計					
教員名		高橋 史郎					
科目No.	122555000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>会計は「事業の言語 (language of business)」と呼ばれています。会計の素養があれば、ビジネスの場面での取引内容について、少なくとも「お金の流れ」については理解できるはずです。ビジネス上の交渉があり、有形無形の物の流れがあれば、その背景には必ずお金の流れがあります。物の流れを理解するためには、その背景にあるお金の流れを掴むことが必須の作業といっても過言ではないでしょう。会計は、お金の流れを掴みとるために必要な「言語」(言葉)なのです。</p> <p>この授業では、会計について、とくに「財務会計」と呼ばれる学問領域からその内容を検討していきます。財務会計は、外部の利害関係者に対して財務的な情報を提供するための理論的枠組み・スキルです。履修後に、財務会計の理論的な背景や具体的な手法について理解できれば、この授業を履修した目的が達成できたといえるでしょう。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①財務会計の意義と役割を説明できる。 ②会計処理の背後にある理論について、おおよそ理解できる。 ③財務会計のスキルを、今後のキャリア上で活用できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、成績評価方法などを確認する。			【予習】 これまでに履修した会計に関する授業の内容を振り返っておく。		60	
第2回	企業会計の本質とフレームワーク ・企業会計のポイントを押さえ、その概要について理解を深める。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	会計制度の論理と体系 ・現行の会計制度のポイントを確認し、その運用状況について理解を深める。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	企業のディスクロージャー ・ディスクロージャーのポイントを確認し、企業内容の開示についての概略について学修する。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	貸借対照表のパラダイム ・貸借対照表のポイントを確認し、その理論的基盤について学修する。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	資産の会計1 ・貸借対照表上の資産について理論的基盤を学修する。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	資産の会計2 ・貸借対照表上の資産の個別項目について学修する。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	純資産 (持分) の会計 ・貸借対照表上の持分の意味と個別項目について学修する。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	損益計算書1 ・損益計算書の理論的基盤について学修する。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	損益計算書2 ・損益計算書に示される各項目のポイントについて確認し、その情報内容について確認する。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	損益計算書3 ・損益計算書に示される各項目のポイントについて確認し、その情報内容について確認する。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	財務会計トピックス 企業会計実務での問題点について学修する。 可能であれば、ゲストスピーカーによる講義とする。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	非営利法人の会計 ・営利ではない非営利法人の会計について学修し、営利法人の会計との違いを理解する。			【復習】 今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	授業のまとめ ・これまでの学修内容を振り返り、各自が理解度を確認する。 質疑応答を行う。			【復習】 授業のまとめを踏まえ、期末試験 (あるいはレポート) へ向けて、到達目標と自分の理解度をチェックし、不足知識を補う。		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で進めます。授業の進行具合に応じて、Course Power のクリッカー、テスト、アンケートなどを利用した課題で、理解度の確認を行います。課題は授業中に解答してもらい、原則として授業終了時に提出してもらいます。</p> <p>質問などは、授業中やメールなどで随時受け付けます。授業終了後、配布資料を見直して理解できなかったことや疑問点を確認し、次回の授業やメールなどで質問をするように心がけてください。</p>							
〔成績評価の方法〕							

授業内での課題（Course Power の「テスト」、「クリッカー」、「アンケート」などの機能を利用します）のウエイトが 40%、期末試験やレポートのウエイトが 60%で総合評価をします。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①財務会計の意義と役割を説明できる。
- ②会計処理の背後にある理論について、おおよそ理解できる。
- ③財務会計のスキルを、今後のキャリア上で活用できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

企業経営や企業会計についてのエントリー科目が履修済みであることが望ましいです。

なお、本科目の内容は、後期開講の「財務諸表論」を受講する際の予備知識となります。

前期の「財務会計」および後期の「財務諸表論」をセットで受講することが望ましいでしょう。

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しません。授業で資料を配布します。

〔参考書〕

購入する必要はありません。

伊藤邦雄著『新・現代会計入門』、日本経済新聞出版社、3,500 円＋税

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

ICT 活用

科目名	国際会計						
教員名	高橋 史郎						
科目No.	122556000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>21世紀の初頭に、“会計ビッグバン”という衝撃的な言葉に象徴されるような日本の会計制度が大きな変革を迫られる動きがありました。国際標準への調和に伴う大きな「うねり」に巻き込まれたのです。その後も変革のモメントは途切れることがなく、日本企業もその対応に追われています。</p> <p>この一連の大きな動きの本質をつかむためには、わが国の会計制度だけでなく、国際会計についての知識を修得することが不可欠になります。この授業では、国際会計という環境の下での日本の会計の位置づけを理解し、日本企業がグローバル化のためにいかなる対応を模索しているかについて学修します。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①会計制度のグローバル化について理解できる。 ②国際的な会計ルールや会計処理についての概要について説明できる。 ③基本的な国際会計用語を理解できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、成績評価方法などを確認する。			【予習】グローバル展開している企業を選び、どのような会計上の問題があるかについてイメージする。		60	
第2回	国際会計の領域 ・国際会計でカバーする範囲とその内容について理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	財務報告の国際化と国際的多様性 ・財務報告のグローバル化と多様性について理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	国際会計基準審議会（IASB）について ・国際会計基準（国際財務報告基準）の作成機関について学修する。 課題1 ・これまでの学修内容についての理解度をチェックする。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。 これまでの学修内容を復習し、課題に取り組む。		60	
第5回	外貨換算会計1 ・外貨換算会計の概要と方法について学修する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	外貨換算会計2 ・外貨換算会計のルールと問題点について学修する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	企業結合会計1 ・「企業結合」の意味を理解し、会計ルールの概要について学修する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	企業結合会計2 ・企業結合会計ルールの詳細と実務の一端について学修する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	企業結合会計3 ・企業結合会計ルールの問題点を探る。 課題2 ・課題1提出以降の学修内容を振り返り、理解度のチェックをする。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。 これまでの学修内容を復習し、課題に取り組む。		60	
第10回	従業員給付会計の基本 ・「報酬」についての会計ルールの概要を学修する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	従業員給付会計の実務 ・とくに株式を利用した報酬に注目し、実務での活用状況について考察する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。 これまでの学修内容を復習し、課題に取り組む。		60	
第12回	国際税務会計1 ・国際会計に関わる税務についての基礎を学修する。 課題3 ・課題2提出以降の学修内容を振り返り、理解度のチェックをする。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	国際税務会計2 ・国際会計に関わる税務について、実例を学修する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	授業のまとめ ・これまでの学修内容を振り返り、各自が理解度を確認する。 質疑応答を行う。			【復習】授業のまとめを踏まえて、期末試験（あるいはレポート）に向けて到達目標と自分の理解度をチェックし、不足している知識を確認する。		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で進めます。授業の進行具合に応じて、Course Powerのクリッカー、テスト、アンケートなどを利用した課題で、理解度の確認を行います。課題は授業中に解答してもらい、原則として授業終了時に提出してもらいます。</p> <p>質問などは、授業中やメールなどで随時受け付けます。授業終了後、配布資料を見直して理解できなかったことや疑問点を確認し、次回の授業やメールなどで質問をするように心がけてください。</p>							
〔成績評価の方法〕							

授業内での課題（Course Power の「テスト」、「クリッカー」、「アンケート」などの機能を利用します）のウエイトが 40%、期末試験やレポートのウエイトが 60%で総合評価をします。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①会計制度のグローバル化について理解できたか。
- ②国際的な会計ルールや会計処理についての概要を理解できたか。
- ③基本的な国際会計用語を理解することができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

企業経営や企業会計に関する基礎科目を履修済みであることが望ましいです。

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しません。授業で資料を配布します。

〔参考書〕

購入の必要はありません。

伊藤邦雄著『新・現代会計入門』、日本経済新聞社、3, 500 円＋税。

上記以外の参考書も授業中に随時紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

ICT 活用

科目名	経営分析						
教員名	高橋 史郎						
科目No.	122557000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>この授業は、会計情報の基本的な読み取り方を修得した人を対象として、その読み込んだ情報をさらに活かしていくためのツールを学修してもらうことを目的とします。</p> <p>会計情報は、ビジネスに関する情報の中でも重要な位置づけにありますが、情報受領者がその情報をいかに加工してさらなる付加価値を得られるか、また得られた情報の真実をどのように保証できるかが、昨今のビジネス界での大きなテーマです。</p> <p>自分が信頼できるソースから情報入手し、さらにその情報に自分なりの付加価値をつけるためのツールを学修し、さらにその活用スキルを学んでいきます。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とします。</p> <p>①財務比率を導出するための基本的ツールを習得する。 ②財務比率から重要ポイントを見極める能力を高める。 ③財務比率を分析し、生の会計データからは得られない付加価値を見いだすためのスキルを学ぶ。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス： 授業の内容、進め方、予習・復習等について説明する。成績評価方法を確認する。 会計情報に関する基本的資料を紹介する。			【予習】これまでの学修で使用したテキストや配布資料などを振り返り、会計情報に関する知識を再確認する。		60	
第2回	戦略的視点と経営分析(1)： 会計情報を用いた分析を行う際の1つの視点である「戦略的視点」について学修する。			【復習】企業の経営戦略と決算書の関係を理解する。今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	戦略的視点と経営分析(2)： 重要な会計情報に関する資料を学修する。経営分析の指標の概要を学修する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	売上高総利益率(1)： 会計情報を用いて企業の売上高利益率を分析する手法を学修する。業界特性を把握する。			【予習】次回のケーススタディで取り上げる企業の予備調査を行う。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	売上高総利益率(2)： 前回学んだ手法を用いて、実際の企業のケーススタディを行う。業界特性を意識した分析を行う。			【復習】ケーススタディの学修結果をまとめる。今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	売上高販管費比率(1)： 会計情報を用いて企業の売上高販管費比率を分析する手法を学修する。広告費の高さに留意する。			【予習】次回のケーススタディで取り上げる企業の予備調査を行う。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	売上高販管費比率(2)： 前回学んだ手法を用いて、実際の企業のケーススタディを行う。広告費の高さを意識した分析を行う。			【予習】次回のケーススタディで取り上げる企業の予備調査を行う。 【復習】ケーススタディの学修結果をまとめる。今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	損益分岐点比率： 会計情報を用いて企業の損益分岐点比率を分析する手法を学修し、ケーススタディを行う。安全余裕度を理解する。			【予習】次回のケーススタディで取り上げる企業の予備調査を行う。 【復習】ケーススタディの学修結果をまとめる。今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	総資産回転率： 会計情報を用いて企業の総資産回転率を分析する手法を学修し、ケーススタディを行う。資産の適正金額を意識した分析を行う。			【予習】次回のケーススタディで取り上げる企業の予備調査を行う。 【復習】ケーススタディの学修結果をまとめる。今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	棚卸資産回転率： 会計情報を用いて企業の棚卸資産回転率を分析する手法を学修し、ケーススタディを行う。適正在庫を意識した分析を行う。			【予習】次回のケーススタディで取り上げる企業の予備調査を行う。 【復習】ケーススタディの学修結果をまとめる。今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	有形固定資産回転期間： 会計情報を用いて企業の有形固定資産回転期間を分析する手法を学修し、ケーススタディを行う。適正資産を考慮した分析を行う。			【予習】次回のケーススタディで取り上げる企業の予備調査を行う。 【復習】ケーススタディの学修結果をまとめる。今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	固定長期適合率： 会計情報を用いて企業の固定長期適合率を分析する手法を学修し、ケーススタディを行う。			【予習】次回のケーススタディで取り上げる企業の予備調査を行う。 【復習】ケーススタディの学修結果をまとめる。今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	負債比率： 会計情報を用いて企業の負債比率を分析する手法を学修し、ケーススタディを行う。			【予習】次回のケーススタディで取り上げる企業の予備調査を行う。 【復習】ケーススタディの学修結果をまとめる。今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	会計指標（比率）の選択手法： 会計情報を用いて企業の包括的な分析を行う手法を学修し、ケーススタディを行い、授業のまとめとする。			【予習】授業のまとめに向けて、これまでの内容を総復習する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義形式で進めます。授業の進行具合に応じて、Course Powerのクリッカー、テスト、アンケートなどを利用した課題で理解度の確認を行います。課題は授業中に解答してもらい、原則として授業終了時まで提出してもらいます。</p> <p>質問などは、授業中やメールなどで随時受け付けます。授業終了後、配布資料を見直して理解できなかったことや疑問点を確認し、次回の授業やメールなどで質問をするように心がけてください。</p>							

また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組んでください。なお、取り上げる内容は、学生の理解度に応じて変更する可能性があります。

〔成績評価の方法〕

授業内での課題（Course Power の「テスト」、「クリッカー」、「アンケート」などの機能を利用します）のウエイトが 40%、期末試験やレポートのウエイトが 60%で総合評価をします。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①財務比率を導出するための基本的ツールを習得できたか。
- ②財務比率から重要ポイントを見極める能力を高めることができたか。
- ③財務比率を分析し、生の会計データからは得られない付加価値を見いだすためのスキルを学び取れたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

企業経営や企業会計に関する基本科目を履修済みであることが望ましいです。

〔テキスト〕

とくにありません。授業で資料を配布します。

〔参考書〕

とくにありません。必要に応じて指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

ICT 活用

科目名		証券市場					
教員名		俊野 雅司					
科目No.	122558000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>世の中には、お金の余っている黒字主体とお金の不足している赤字主体が存在する。両者を仲介して、経済活動を円滑に進める機能が金融（ファイナンス）である。その中で、企業や国などの赤字主体が株式や債券などの証券を発行して、これを家計（個人投資家）や機関投資家などの黒字主体が購入することで、資金の過不足を調整する場が証券市場である。本講座では、講義担当者の証券会社系のシンクタンクや年金コンサルティング会社での実務経験に基づいて、証券市場の発展の経緯や仕組み、そこで活動する市場参加者や仲介機関の概要について解説する。</p> <p>本講座では、冒頭で金融システムや証券市場の機能や仕組みについて説明した後で、赤字主体の主要なファイナンス手段である株式と債券について、発展の経緯や発行・売買（流通）の仕組みなどを整理する。最近では証券価格や経済指標等の変動が激しくなっているが、このようなリスクに対する管理手段として活用されているデリバティブ取引の概要についても説明する。さらに、証券市場における投資家の種類や投資行動、主要な機関投資家である投資信託や年金基金の概要、証券市場の仲介者である証券業者（証券会社）の役割について説明する。</p> <p>株式市場（債券市場）とオルタナティブ投資（証券化）に関する2つの課題を課す。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>証券市場の仕組みに加えて、そこで活動する市場参加者の役割を理解することを主な目標とする。証券市場という枠組みを通じて、事業会社や資産運用会社、証券会社などの企業がどのような活動を行っているのかを理解することは、今後、就職先を検討するうえでも、重要な意義があると思われる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・講義の進め方と取り扱うテーマの全体像の説明 ・金融市場としての証券市場の概要			【予習・復習】講義用資料は成蹊ポータルに掲載するので、読んでおくこと。 基本テキストを入手して、第1章を読んでおくこと。		60	
第2回	赤字主体のファイナンス手段 ・ファイナンス手段の分類 ・財務レバレッジと負債の節税効果 ・ファイナンス方法の選択に関する理論 ・日本企業のファイナンスの特徴 ・政府によるファイナンス			【予習・復習】基本テキスト第2章を読んでおくこと。		60	
第3回	株式会社制度と株式の発行 ・株式会社制度の誕生と発展 ・株式の公開と株式発行市場			【予習・復習】基本テキスト第3章を読んでおくこと。		60	
第4回	証券取引所とマーケットシステム ・証券取引システムの誕生と発展 ・証券取引所の機能 ・マーケットシステムの種類			【予習・復習】基本テキスト第4章を読んでおくこと。		60	
第5回	日本の株式市場 ・株式市場の歴史 ・上場制度 ・売買取引制度 ・証券税制 ・株価指数			【予習・復習】基本テキスト第5章を読んでおくこと。		60	
第6回	債券の基礎知識 ・債券の歴史 ・債券の種類 ・債券の仕組み ・債券の利回り ・債券のリスク要因			【予習・復習】基本テキスト第6章を読んでおくこと。		60	
第7回	債券の発行・流通市場 ・債券発行方法の分類 ・日本の債券発行市場 ・日本の債券流通市場 ・アメリカの債券市場			【予習・復習】基本テキスト第7章を読んでおくこと。		60	
第8回	債券格付け ・格付けサービスの存在意義 ・格付けビジネスの歴史と課題 ・格付けの仕組み ・スプリット・レーティング ・格付情報の有効性			【予習・復習】基本テキスト第8章を読んでおくこと。		60	
第9回	デリバティブ ・デリバティブとは何か ・デリバティブ取引の機能 ・代表的なデリバティブ取引（先渡・先物取引、オプション取引、スワップ取引） ・デリバティブ取引の歴史 ・デリバティブ取引の原資産			【予習・復習】基本テキスト第9章を読んでおくこと。		60	
第10回	先渡・先物取引 ・先物取引の仕組み ・先渡・先物取引の価格形成 ・先渡・先物取引の活用方法			【予習・復習】基本テキスト第10章を読んでおくこと。		60	
第11回	オプション取引 ・オプション取引の仕組み ・オプションプレミアムの特性			【予習・復習】基本テキスト第11章を読んでおくこと。		60	

	・オプション取引の活用方法		
第12回	投資家の種類と証券市場 ・投資家の種類 ・日本の年金制度 ・日本の投資信託 ・個人投資家	【予習・復習】基本テキスト第12章を読んでおくこと。	60
第13回	機関投資家 ・(狭義)機関投資家の受託者責任 ・日本版スチュワードシップ・コード ・機関投資家の投資プロセス ・機関化現象 ・社会的責任投資	【予習・復習】基本テキスト第13章を読んでおくこと。	60
第14回	証券業(者)の機能 ・証券業と証券業者 ・証券業(者)の誕生と発展の経緯 ・証券自由化と証券業者の競争激化 ・日本の証券業	【予習・復習】基本テキスト第14章を読んでおくこと。 【復習】課題を取りまとめて提出すること。	120
〔授業の方法〕 ・基本テキストに沿った形で、毎回配布するレジュメに基づいて、講義形式で進める。			
〔成績評価の方法〕 期末試験 60%、課題 40%で評価を行う。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 主に、以下の点に関する到達度に応じて評価する。 ・株式市場と債券市場を中心とする証券市場の仕組みについて十分に理解できているか ・与えられた課題について自主学修して、その内容を取りまとめる能力があるか			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 『証券論』大村敬一・俊野雅司、有斐閣、2014年			
〔参考書〕 特になし			
〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 学内専用ホームページで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名	財務諸表論						
教員名	高橋 史郎						
科目No.	122559000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>会計は「事業の言語 (language of business)」と呼ばれています。会計の素養があれば、ビジネスでの取引内容について、少なくとも「お金の流れ」に関しては理解できるはずですが、ビジネス上の交渉があり、有形無形のモノの流れがあれば、その背景には必ずカネの流れがあります。モノの流れを理解するために、その背景にあるカネの流れを掴むことは必須の作業といっても過言ではないでしょう。会計は、カネの流れを掴みとるために必要な「言語」(言葉)なのです。</p> <p>会計を言語としてとらえる場合、発信された言葉は財務数値であり、それを集約的に示したものが財務諸表です。この授業では、財務諸表を分析対象として、その全体像や個別項目についての情報内容を探っていくことを目的とします。企業(およびその他の組織)から離れた外部者の視点で、アウトプットである財務諸表をターゲットとして財務諸表を読み解いていきます。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、次の3点を到達目標とします。</p> <p>①財務諸表の意義と役割について説明できる。 ②財務諸表の情報内容について、おおそ理解できる。 ③財務諸表を読み解くスキルを、今後のキャリア上で活用できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、成績評価方法などを確認する。			【予習】これまでに履修した授業で使用したテキストや資料などで、財務諸表に関わるものを見直しておく。		60	
第2回	企業会計に関する知識レベルの確認 ・履修者それぞれがこれまでに学修した会計についての知識の定着度を確認する。			【復習】会計知識のチェック問題について、理解不足であった点を復習する。		60	
第3回	企業の財務諸表の情報内容1 ・企業の財務諸表の全体像と情報内容の概要を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	企業の財務諸表の情報内容2 ・企業の財務諸表の個別項目について、有価証券報告書の実例を参考にしてその情報内容を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	企業の財務諸表の情報内容3 ・企業の財務諸表の個別項目について、有価証券報告書の実例を参考にしてその情報内容を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	企業の財務諸表の情報内容4 ・企業の財務諸表の個別項目について、有価証券報告書の実例を参考にしてその情報内容を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	企業の財務諸表の情報内容5 ・企業の財務諸表の個別項目について、有価証券報告書の実例を参考にしてその情報内容を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	企業の財務諸表の情報内容6 ・企業の財務諸表の個別項目について、有価証券報告書の実例を参考にしてその情報内容を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	企業の財務諸表の情報内容7 ・企業の財務諸表の個別項目について、有価証券報告書の実例を参考にしてその情報内容を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	非営利法人の財務諸表の情報内容1 ・営利を追求しない非営利法人について、財務諸表の全体像と個別項目の情報内容を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	非営利法人の財務諸表の情報内容2 ・営利を追求しない非営利法人について、財務諸表の全体像と個別項目の情報内容を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	国際企業の財務諸表の情報内容1 ・国内のみならずグローバルに事業展開している企業や団体の財務諸表の全体像と個別項目の情報内容を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	国際企業の財務諸表の情報内容2 ・国内のみならずグローバルに事業展開している企業や団体の財務諸表の全体像と個別項目の情報内容を理解する。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	授業のまとめ ・これまでの授業内容を振り返り、自分の興味のある企業の財務諸表の活用方法について理解する。			【復習】自分自身が興味のある企業を選び、知りたい情報をリストアップして、有価証券報告書を改めて見直す作業をする。		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業の進行具合に応じて、CoursePowerのクリッカー、テスト、アンケートなどを利用した課題で、理解度の確認を行います。課題は、原則として授業中に解答して提出してもらいます。</p> <p>質問などは、授業中やメールなどで随時受け付けます。授業終了後、配布資料などを見直して理解できなかったことや疑問点を確認し、次回の授業やメールなどで質問をするように心がけてください。また、準備学修の時間はあくまで目安なので、各自の理解度に応じて取り組んでください。</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>授業内での課題(Course Powerの「テスト」、「クリッカー」、「アンケート」などの機能を利用します)のウエイトが40%、期末試験やレポートのウエイトが60%で総合評価をします。</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①財務諸表の意義と役割について説明できる。
- ②財務諸表の情報内容について、おおよそ理解できる。
- ③財務諸表を読み解くスキルを、今後のキャリア上で活用できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

企業経営や企業会計の基本科目については履修済みであることが望ましいです。

また、前期科目の「財務会計」の知識は必須となりますため、履修済みで本授業に臨むことを強く勧めます。その他の会計関連科目や経営学関連の科目の履修もあればなおよいでしょう。

〔テキスト〕

とくに指定しません。授業で資料を配布します。

〔参考書〕

購入の必要はありません。

伊藤邦雄著『新・現代会計入門』、日本経済新聞出版社、3,500 円＋税。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

ICT 活用

科目名	戦略支援システム						
教員名	伊藤 克容						
科目No.	122562000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>企業の戦略を実現するために必要な「事業計画」の作成方法とその実行のための方策について勉強します。</p> <p>競争の激しい企業環境では、適切な経営戦略を策定し、他社に対する競争優位性を確立することが企業の存続に不可欠です。ただし、適切な経営戦略を形成するためには、経営者個人の才覚に頼っているばかりではリスクが大きすぎます。適切な経営戦略の形成を促進するための仕組みを作っておく必要があります。また、仮にいくら立派な経営戦略を作成したとしても組織全体としてそれを効果的に実施するための工夫がなければ意味を成さず、単なる「絵に書いた餅（画餅）」に終わってしまいます。戦略を組織内で共有したり、外部から資金調達を円滑に行ったりするためには、構想やアイデアとしての戦略を具体的な会計数値に置き換え、事業計画に翻訳する作業が重要なのです。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①管理会計を中心としたキャッシュフロー経営推進のための基本概念について説明できる。</p> <p>②キャッシュフローを活用した、初歩的な分析を行うことができる。</p> <p>③企業における資金循環の重要性と現実的な課題について理解することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス（戦略実現のための4P、経営企画部門の役割、成績評価の方法）			【予習】事業計画（ビジネスプラン）とはどのようなものか、経営企画部門の役割とは何か、書籍、ウェブサイトなどで自分なりに調べておくこと。 【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第2回	ビジネスプランの作成(1) B/S、P/L、C/F 計算書の構造			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第3回	ビジネスプランの作成(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第4回	ビジネスプランの作成(3)+ビジネスプランの評価・分析			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第5回	PPMとキャッシュフロー経営(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第6回	PPMとキャッシュフロー経営(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第7回	総合問題演習（前半のまとめ） 到達度確認テスト			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第8回	予算編成と予算統制(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第9回	予算編成と予算統制(2)、プレゼンテーション大会			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第10回	予算管理をめぐる諸問題 CCC、EVA、BSCなどの経営管理手法への着目			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第11回	予算実績差異分析(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第12回	予算実績差異分析(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第13回	長期投資プロジェクトの評価方法			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
第14回	全体のまとめ			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。		60	
〔授業の方法〕							
<p>基本的には講義形式（教官の話を中心にすすめられる授業形態）をとっていますが、教官の話をおとなしく聞いていれば、それだけでいいという授業ではありません。授業時間中のディスカッション、課題提出など、受講者の側からの積極的な取り組みを前提として考えています。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみるようにしてください。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いているうちに段々分かってくることが、頻繁にあります。計算問題をやる際に必要となるので、毎時間かならず自分用の電卓をもってきてください。</p> <p>質問はいつでも受け付けます。授業時間中に不明な点をその都度、確認するようにしてください。</p> <p>重要な概念、計算手法について受講生がレポートを作成し、講義時間中に発表、討議・共有する機会を設けます。</p>							
〔成績評価の方法〕							

提出課題（講義時間中の発言、毎回のリアクションペーパー、講義時間内の確認ミニテスト）で 50%、授業内に実施する到達度試験（2 回を予定）で 50%を基本に評価します。

積極的に参加する意欲の高い受講者に対して加点します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。

次の点に着目し、その達成度を総合的に評価します。

- ①戦略実現のための事業計画（キャッシュフロー経営）について、その重要概念、計算構造を理解している。
- ②事業計画作成の計算実務を正確に実施することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

復習の時間を設け、基礎から勉強します。

先修科目としては「企業会計入門」、「管理会計」があげられます。これらの科目で学んだ知識があれば、理解が深まります。

経営、企業、会計、金融などへの一般的な関心・興味があったほうがよいと思います。

〔テキスト〕

特に定めません。毎回、プリントを配付します。

〔参考書〕

必要に応じて指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

オフィスアワーについては、ポータルサイトで周知しています。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名		税務会計					
教員名		伊藤 公哉					
科目No.	122563000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この授業では、みなさんが社会人になったときに役立つ税金の知識を学修します。たとえば、「ふるさと納税」という言葉を聞いたことはありませんか？ 自分の選んだ自治体に寄附（ふるさと納税）をすると所得税と住民税から控除することができる制度で、（返礼品のある自治体が多いことから）552万人もの人が利用しています。慣れれば簡単な手続きですが、税務用語（テクニカルターム）を理解できないと難しく感じるでしょう。</p> <p>また、突然の予期せぬ怪我や病気で多額の医療費が発生したようなとき、確定申告（税務署に納税申告書を提出）することで還付を受けられる（税金が戻ってくる）場合もあります。</p> <p>将来、会社に就職をしたならば、会社の資金で商品やサービスを発注したり、営業の仕事を任せられ商品を販売したり、顧客を接待する機会があるかもしれません。そのようなときには、法人税の知識（たとえば商品の販売では収益の認識基準、顧客の接待にあたっては交際費等の知識）が必要になりますし、また税務会計の知識を用いて経理担当者と適切にコミュニケーションを図ることでビジネスをスムーズに進めることができるようになるでしょう。</p> <p>なお、授業で扱う内容は一般的な税務に関する内容になります。個別の税務相談等については（授業では応じませんので）税務署や税理士に相談してください。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 将来、社会人になったときに、自分の所得税の確定申告書を作成できるようになること。</p> <p>② 企業税務（法人税）の基礎知識を修得し、ビジネスの場で適切にコミュニケーションを図ることができるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	<p>ガイダンス</p> <p>① 履修上の留意事項（試験や評価など）</p> <p>② ガイダンス（この授業で学修すること）</p>			<p>【準備】 シラバスを読み、内容を把握する。</p> <p>【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p>			60
第2回	<p>税金の種類と所得税のしくみ</p> <p>①税金の種類（国税と地方税、直接税と間接税）</p> <p>②所得税（国税）のしくみ（概要、源泉徴収制度と年末調整、確定申告の概要、納税地、予定納税、復興特別所得税、確定申告の方法、納税方法等）</p>			<p>【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>			60
第3回	<p>個人住民税と所得税の概要</p> <p>①個人住民税（地方税）の仕組み（概要、特別徴収と普通徴収等）</p> <p>②所得税（国税）の所得税額の算出（概要、所得の種類と所得金額の計算方法、所得の総合と分離課税、「分離課税用（第三表）」のポイント等）</p>			<p>【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>			60
第4回	<p>所得控除と税額控除</p> <p>①所得控除の概要（基礎控除、勤労学生控除、社会保険料控除、寄附金控除等を中心に）</p> <p>②税額控除の概要（公益社団法人等寄附金特別控除等を中心に）</p> <p>③税額計算（超過累進税率の適用）</p>			<p>【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>			60
第5回	<p>給与所得</p> <p>①給与所得の取扱い（給与所得の意義（現物給与等を含む）、「まなかい」等の取扱い、非課税所得、労働基準法の休業手当等の課税関係等）</p> <p>②給与所得金額の計算（給与所得控除、年末調整等のための給与所得控除後の給与等の金額の表（所得税法別表第五）、特定支出控除等）</p>			<p>【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>			60
第6回	<p>個人演習（中間まとめ）</p> <p>給与所得の申告書の作成（給与所得の源泉徴収票を用いて申告書をつくる練習をします）</p>			<p>【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>			60
第7回	<p>事業所得と青色申告制度</p> <p>①事業所得（事業所得の意義、概要、損益通算、損失の繰越控除、事業所得の金額の計算、家事及び家事関連費、親族に支払われる対価に関する取扱い等）</p> <p>②青色申告制度（制度の概要、青色申告特別控除、青色事業専従者給与、貸倒引当金、個人事業の開業届出書、青色申告承認申請書、所得税の減価償却資産の償却方法の届出書等）</p>			<p>【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>			60
第8回	<p>雑所得など</p> <p>①期間帰属（権利確定主義と管理支配基準、棚卸資産の販売による収益、債務確定主義等）。</p> <p>②雑所得（意義（公的年金等、業務に係るもの、その他の雑収入）、所得の金額の計算）</p> <p>③電子帳簿保存法と帳簿書類の保存期間等</p>			<p>【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。</p>			60
第9回	<p>金融所得税制</p> <p>①金融所得税制（概要、上場株式等、特定口座と一般口座、株式等に係る譲渡所得等の金額の計算明細書、上場株式等の譲渡損失の損益通算及び繰越控除、確定申告書付表（上場株式等に係る譲渡損失の損益通算及び繰越控除用）、上場株式等の配当</p>			<p>【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。</p> <p>【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。</p> <p>システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し</p>			60

	等を受けた場合の課税関係)。 ②1億円の壁 (申告納税者の所得税負担率等)	到達度を確認する。	
第10回	不動産の税制 ①譲渡所得 (譲渡した資産の種類別の課税方法、譲渡所得の金額の計算、取得費、特別控除額等) ②土地・建物等の分離課税制度 (課税方法、税額の計算、居住用財産を売却した場合の軽減税率、特定居住用財産の買換え特例等) ③不動産所得 (所得の金額の計算、必要経費、賃貸不動産の減価償却とキャット・シユフローのシミュレーション等)	【準備】システム (CoursePower) からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第11回	所得控除 ①配偶者控除と配偶者特別控除 (概要、控除対象配偶者、配偶者控除額の金額、配偶者特別控除を受けるための要件、配偶者特別控除額の金額等) ②扶養控除 (概要、控除対象扶養親族、扶養控除額の金額) ③ふるさと納税 (寄附金控除) ④医療費控除 (概要、セルフメディケーション税制等)	【準備】システム (CoursePower) からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第12回	法人税概論 ①法人税法上の法人概念 (法人税の納税義務者) ②法人税の性質・課税根拠 (シャウプ勧告) と法人税の特色 (所得税との比較) ③法人税の申告と納税 (事業年度と決算書の確定、確定決算主義、納税地、申告期限と納付期限、中間申告、延滞税と利子税等) ④法人税額計算の概要 (法人税の別表、地方法人税 (国税)、所得の金額の計算、税務調整 (決算調整事項と申告調整事項)、損金経理、使途秘匿金課税と留保金課税、税額控除等)	【準備】システム (CoursePower) からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第13回	法人税各論 ①確定申告と添付書類 (別表一、別表四、決算報告書、租税特別措置と適用額明細書等) ②所得の金額の計算 (法人税法 22 条、益金の額 (資産の無償譲渡、役務の無償提供を含む)、損金の額 (債務確定主義、損失の両建経理)、校正処理基準、資本等取引等) ③交際費等 (概要、範囲、接待飲食費、期末資本金の額に応じた取扱い、中小法人の特例)	【準備】システム (CoursePower) からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第14回	法人税各論とまとめ ①減価償却 (概要、非減価償却資産、減価償却資産の種類、償却限度額の計算、期中に取得した資産、償却不足と償却超過、償却方法の変更等) ②まとめ	【準備】システム (CoursePower) からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
〔授業の方法〕 基本的に講義形式で授業を行います。学修効果を高める目的で計算や申告書記入などの個人のアクティビティ等も行う予定です。 なお、各回で扱う範囲等については、受講者の理解を確認しながら弾力的に講義を進めていくこととし、場合によっては変更することがありますので CoursePower の連絡事項を確認するようにしてください。 上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。			
〔成績評価の方法〕 授業後に CoursePower で実施する復習クイズ等 (60%)、CoursePower 上で提出するレポート課題 (40%) により、授業の到達目標を達成しているかどうかを総合的に評価します。 なお、迷惑行為 (授業と関係のないことで騒ぐなど他の受講者の学修の妨げとなる行為) を行う者については、予告の上で減点する場合があります。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ① 将来、社会人になったときに、自分の所得税の確定申告書を作成することができるようになること。 ② 企業税務 (法人税) の基礎知識を修得し、ビジネスの場で適切にコミュニケーションを図ることができるようになること。			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 1 年次で履修する「企業会計の基礎」の知識が役に立ちます。 関連科目として、前期「租税法の基礎」(判例を用いて租税法の基礎を学びます)、後期「経営学特殊講義B (租税法)」(租税法の側面から法人税法、相続税法、消費税法等の基礎を学びます)。			
〔テキスト〕 CoursePower で資料 (レジュメ及び参考資料等) を配布します。 ※第1回目の資料は紙でも配布をしますが、第2回目以降の資料は、CoursePower 上でデータでのみ配布をしますので、ノート PC 等を授業に持参するか、または紙ベースで学習したい人は事前に各自でプリントをして持参してください。			
〔参考書〕 ・国税庁 Web サイト (https://www.nta.go.jp/) ・ふるさと納税については、総務省の「ふるさと納税ポータルサイト」(https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/080430_2_kojin.html)			
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知します。			
〔特記事項〕			

科目名		租税法の基礎					
教員名		伊藤 公哉					
科目No.	122572000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
<p>租税法は、私たちの生活に密着した身近な学問です。たとえば、会社に就職して給料を稼いだとき、株式等の金融資産や不動産などに投資をしたとき、財産の贈与を受けたり相続をしたとき、さらに企業の経営においても租税法の知識は不可欠といえます。現代経済において市場で様々な意思決定をするうえで、いつ、どれだけの納税義務を負うかについて理解できなければなりません。また、租税法では納税者が国家を相手に司法の場で争うことがあるなど、スケールの大きい学問でもあります。</p> <p>この授業では、租税法の考え方の基礎を学修します。具体的には、租税法全体に共通する基本的な考え方（コンセプト）と、個人の所得税（国税）の概要を理解することを目標とします。</p>							
〔到達目標〕							
<p>【経営学部総合経営学科】DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則（とくに租税法主義）について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。</p> <p>② 所得税の基礎知識を修得し、説明できるようになること。</p> <p>【経済学部経済経営学科】DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 租税法の基本原則の理解を通じ</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	① ガイダンスと履修上の留意事項（試験や評価など） ② イントロダクション（租税の意義と種類）			【準備】 シラバスを読み、内容を把握する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		60	
第2回	租税法の基本原則（租税法主義と租税公平主義）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第3回	租税法の法源			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第4回	租税法の解釈と適用（判例を用いてグループディスカッションを実施します）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		60	
第5回	租税法の解釈と適用（続き）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第6回	課税要件 所得税（所得税法総説）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第7回	中間試験（租税法主義に関する理解と知識の定着を図ることを目的とします）			【準備】 前回までに学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		60	
第8回	中間試験のフィードバック。 所得税（「所得」の意義。身近な収入等の事例を用いてグループディスカッションを実施します）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		60	
第9回	所得税（所得税の納税義務者、所得税額算出の基本的な仕組み）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第10回	所得税（利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第11回	所得税（給与所得、退職所得、所得控除）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		60	

		システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	
第12回	所得税 (譲渡所得 (概論))	【準備】システム (CoursePower) からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第13回	所得税 (譲渡所得 (各論)、山林所得、一時所得、雑所得)	【準備】システム (CoursePower) からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第14回	所得税 (年度帰属、必要経費)	【準備】システム (CoursePower) からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
〔授業の方法〕			
<p>基本的に講義形式で授業を行います。学修効果を高める目的で、授業内でのグループディスカッション等のグループワークを実施する予定です (ただし、履修者が想定外に多い場合などで学修効果を高めることが期待できない場合には、個人のアクティビティ等で代替する場合があります)。</p> <p>なお、各回で扱う範囲等については、受講者の理解を確認しながら弾力的に講義を進めていくこととし、場合によっては変更されることがありますので常にポータルで連絡事項を確認してください。また、期末試験は、履修者が少ない場合、授業内に実施する場合があります。</p> <p>上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p>			
〔成績評価の方法〕			
<p>授業後の CoursePower 上での復習クイズ (44%)、中間試験 (「租税法主義」について出題します: 10%)、授業内グループワーク、教員からの問いかけに対する応答などの授業への参加と貢献の状況 (6%)、期末試験 (40%) により、授業の到達目標を達成しているかどうかを総合的に評価します。ただし、期末試験について、新型コロナウイルス感染症の状況によっては事前に予告の上で変更する (期末試験を実施せず別の代替的な方法により評価する) 可能性があります。</p> <p>なお、迷惑行為 (授業と関係のないことで騒ぐなど他の受講者の学</p>			
〔成績評価の基準〕			
<p>成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>① 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則 (とくに租税法主義) について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。</p> <p>② 所得税の基礎知識を修得し、説明できるようになること。</p>			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕			
<p>先修科目として、「企業会計の基礎」(経営学部)・「企業会計入門」(経済学部) があります。</p> <p>また、応用的な関連科目として、「経営学特殊講義 B/租税法」(経営学部)・「経営学特殊講義/租税法」(経済学部) があります。この他、会計処理にフォーカスした関連科目として、「税務会計」(経営学部) があります。</p>			
〔テキスト〕			
<p>CoursePower で資料 (レジュメ及び参考資料等) を配布します。</p> <p>※第 1 回目の資料は紙でも配布をしますが、第 2 回目以降の資料は、CoursePower 上でデータでのみ配布をしますので、ノート PC 等を授業に持参するか、または紙ベースで学習したい人は事前に各自でプリントをして持参してください。</p>			
〔参考書〕			
<p>予習及び復習の参考書としては、金子宏『租税法 [第 24 版]』(弘文堂、2021 年)。</p> <p>租税法における所得概念については、伊藤公哉『アメリカ連邦税法 [第 8 版]』(中央経済社、2021 年) の第 I 章 (租税と所得概念) が詳しい。</p> <p>重要な法令はレジュメでも紹介しますが、以下で紹介するウェブサイトも有用です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ e-Gov 法令検索 (税法を含む法令の検索が可能) https://elaws.e-gov.go.jp/ ・ 裁判所 (裁判例の検索が可能) http://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1 ・ 国税庁 (法令解釈通達の検索が可能) https://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/tsutatsu/menu.htm <p>また、租税判例は、TKC ローライブラリー (情報図書館の法律データベース) も充実しています。</p>			
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕			
ポータルサイトで周知します。			
〔特記事項〕			
アクティブ・ラーニング			

科目名		経営学特殊講義A / (自然保護論)					
教員名		田口 誠					
科目No.	122573000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「さまざまな自然環境問題とその対策について経済や経営の視点から考える」 地球温暖化の防止やリサイクルの推進、自然保護など、近年では企業を取り巻くステークホルダーの環境保全に対する期待が高まっています。企業経営にとって環境問題や環境政策の影響は大きいと言えるでしょう。 消費者は環境にやさしい商品を積極的に選択し、企業は環境保全型の製品を生産することで収益性やブランド価値の向上をはかり、政府は様々な分野において新たな環境規制を制定しています。 なぜ自然環境問題は次々に発生するのでしょうか。また、そのような問題を解決するためにはどのような方策が考えられるのでしょうか。 本講義では、多様な自然環境問題を取り上げながら、それぞれの問題の発生メカニズムや解決策について、経済や経営の側面から考えます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、次の点を到達目標とする。 1. 環境の経済評価の必要性について知ること 2. 様々な環境評価方法について理解を深めること 3. 環境評価が必要となる状況において、適切な評価手法を選択・適用できるようにすること</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	ガイダンス ・ 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。			【復習】 環境評価の意義について説明できるようにする。		60	
第2回	ごみ問題と循環型社会 ・ ごみ問題やリサイクルの経済性について考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	地球温暖化 ・ 地球温暖化の経済や企業への影響について考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	大気汚染と外部性 ・ 大気汚染の発生メカニズムについて外部性の観点から考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	森林・漁業資源と共有資源 ・ 環境問題の発生メカニズムについて共有資源の観点から考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	生態系と公共財 ・ 環境問題の発生メカニズムについて公共財の観点から考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	直接規制 ・ 環境問題の解決手段としての直接規制について考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	環境税 ・ 環境問題の解決手段としての環境税について考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	直接交渉 ・ 環境問題の解決手段としての直接交渉について考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	排出量取引 ・ 環境問題の解決手段としての排出量取引について考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	廃棄物に関わる政策 ・ 廃棄物制度の現状について考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	地球温暖化に関わる政策 ・ 地球温暖化対策の現状について考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	環境の持つ価値 ・ 自然環境が持つ価値とは何かについて考える。			【復習】 授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	授業のまとめ 質疑応答			【復習】 この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度を点検し、不足している知識等を確認する。		60	
〔授業の方法〕							
<p>授業は講義を中心に進める。普段から講義資料を使った復習に力を入れ、次回の授業にわからない点を持ち越さないようにすること。 なお、授業期間中の課題、最終レポートの狙いは以下の通りである。 ・ 授業期間中の課題：講義の内容が理解できているかを確認する。 ・ 最終レポート：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。</p>							
〔成績評価の方法〕							

平常点による総合評価。最終レポート 70%、授業期間中の課題 30%をめやすとする。
学期末試験は実施しない。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
(1)自然環境問題の発生メカニズムについて説明できる。
(2)自然環境問題を解決するための手段について論理的に説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識：特になし。
関連科目：「環境と経営戦略」、「ミクロ経済学の基礎」

〔テキスト〕

栗山浩一・馬奈木俊介(2020年)「環境経済学をつかむ」(第4版)、有斐閣、2,400円+税、ISBN 9784641177291。

〔参考書〕

講義の中で適宜、紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		経営学特殊講義B / (行動ファイナンス)					
教員名		俊野 雅司					
科目No.	122576000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講座では、行動ファイナンス(行動経済学)に関する議論を通じて、人間の意思決定の特徴や金融分野への応用問題について学修する。</p> <p>行動ファイナンスは、資産選択の意思決定に関する標準的な理論体系(「現代ポートフォリオ理論」もしくは「伝統的ファイナンス理論」)に対して何らかの修正を試みる研究分野である。伝統的ファイナンス理論は、1950年代から構築されてきたが、投資家をはじめとする証券市場の意思決定主体は市場に存在するすべての情報を証券価格に的確に反映できるという点で合理的な行動を示すことを前提にしている。ところが、実際の証券市場ではこれらの理論体系では説明できない現象が数多く見られ、アノマリーと呼ばれている。行動ファイナンスは、投資家の情報分析能力の限界や感情的な要因がアノマリーの背景にあるにではないかという考え方のもとで構築されている。その際、心理学の一分野である意思決定理論における研究成果が応用される。本講座では、行動ファイナンスの基礎的な概念と応用例の学修を主な目的とする。</p> <p>本講座では、まず人間の思考プロセスの特徴を説明したうえで、伝統的ファイナンス理論が想定しているような合理的な意思決定を妨げている「意思決定上の歪みの源泉」について整理する。この種の研究は心理学の一分野である意思決定理論の範疇に属するが、その応用分野は非常に広く、その中でファイナンス関連のトピックへの応用研究が行動ファイナンスであることを説明する。そのうえで、具体的に、簡便的意思決定法、プロスペクト理論、心理的勘定の設定という行動ファイナンスの基礎理論について説明する。</p> <p>後半では、伝統的ファイナンス理論の基礎となっている期待効用理論や効率的市場仮説について説明した後で、伝統的ファイナンス理論では説明困難なアノマリーの例を紹介する。次に、証券投資や企業金融などの具体的な局面における行動ファイナンスの応用例を示し、最後に、行動ファイナンスの課題と活用例について説明する。</p> <p>前半の講義の終了後に、意思決定上の歪みの実例と意思決定プロセスの改善策に関するグループワークを実施する。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>D P 1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>本講座では、資産決定の意思決定に関する標準的な理論体系(伝統的ファイナンス理論)の概要と問題点を認識したうえで、これらの理論の修正を図ろうと試みる行動ファイナンスの基礎概念について理解することを第1の目標とする。また、行動ファイナンスの概念を用いて、意思決定の歪みが生じやすい事例を理解し、意思決定プロセスの改善等の面で、これらの概念の応用力を身につけることも第2の目標とする。さらに、行動ファイナンスに関連する著書や論文を読むこと</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション ・講義の進め方や行動ファイナンスの全体像について説明する。			【予習】【復習】講義用資料(パワーポイント版のレジュメとワード版のノート、どちらもPDF化している)をコースパワーに掲載するので、読んでおくこと。		60	
第2回	人間の思考プロセスの特徴 ・直感的な思考プロセス(システム1)とじっくりと熟慮する思考プロセス(システム2)の違い ・様々な錯覚の事例			【予習】【復習】講義用レジュメとノート①「人間の意思決定プロセスの特徴」を読んでおくこと。		60	
第3回	限定合理性 ・記憶の不正確性 ・情報の選別的認識 ・判断の不正確性			【予習】【復習】講義用レジュメとノート②「意思決定上の歪みの源泉」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第4回	意思決定上の歪みの源泉 ・感情的要因(自信過剰、後悔の回避) ・社会的要因(ムード、群れの行動、認知不協和の回避)			【予習】【復習】講義用レジュメとノート②「意思決定上の歪みの源泉」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第5回	簡便的意思決定法(ヒューリスティクス)の採用と歪み ・アンカリング ・代表性の簡便法 ・利用可能性の簡便法			【予習】【復習】講義用レジュメとノート③「行動ファイナンスの基礎理論」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第6回	プロスペクト理論 ・評価関数の推計 ・ウェイト付け関数の推計			【予習】【復習】講義用レジュメとノート③「行動ファイナンスの基礎理論」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第7回	心理的勘定の設定 ・損益の分離と統合 ・参照価格の設定 ・心理的勘定の設定 ・マーケティング戦略への応用			【予習】【復習】講義用レジュメとノート③「行動ファイナンスの基礎理論」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第8回	グループワーク ・意思決定上の歪みの源泉の整理 ・意思決定上の歪みの実例の共有 ・改善策の検討			【予習】【復習】事前準備を踏まえて、グループワークを行い、課題の取りまとめを行うこと。		120	
第9回	ファイナンス理論の基礎 ・期待効用理論 ・ファイナンス理論の前提条件と概要			【予習】【復習】講義用レジュメとノート④「伝統的ファイナンス理論と行動ファイナンス」を読んでおくこと。		60	
第10回	証券市場のアノマリー ・アノマリーとは何か ・アノマリーの類型			【予習】【復習】講義用レジュメとノート⑤「証券市場のアノマリー」を読んでおくこと。		60	
第11回	行動ファイナンスの投資家行動への示唆① ・自社株投資と利用可能性 ・ホームバイアス ・年金加入者の意思決定上の歪みと制度的対応の可能性			【予習】【復習】講義用レジュメとノート⑥「行動ファイナンスの意思決定プロセスへの示唆」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第12回	行動ファイナンスの投資家行動への示唆② ・インターネット取引と投資行動 ・分散投資を巡る意思決定上の歪み(1/nルールの採用) ・売買タイミングに関する示唆			【予習】【復習】講義用レジュメとノート⑥「行動ファイナンスの意思決定プロセスへの示唆」の該当箇所を読んでおくこと。		60	

第13回	行動ファイナンスと企業金融 ・新規株式公開（IPO）と価格形成 ・企業買収と企業経営者の自信過剰 ・配当政策と行動ファイナンス	【予習】【復習】講義用レジュメとノート⑥「行動ファイナンスの意思決定プロセスへの示唆」の該当箇所を読んでおくこと。	60
第14回	行動ファイナンスの課題と活用例 ・価値ベースの選択モデルの限界と論理的思考 ・人間の意思決定過程の特徴 ・選択肢の提示方法と意思決定	【予習】【復習】講義用レジュメとノート⑦「行動ファイナンスの課題と展望」の該当箇所を読んでおくこと。 【復習】講義全体の復習と課題の提出、期末試験の準備を行うこと。	120
〔授業の方法〕 毎回配布する講義用資料（レジュメ）に基づいて、講義形式で進める。適宜、講義用ノートや関連する論文等を配布する。			
〔成績評価の方法〕 期末試験 50%、2つの課題 50%（25%ずつ）の配分で評価を行う。 課題①：意思決定上の歪みの源泉について自分なりの言葉でまとめたうえで、これまでの自分や仲間の意思決定上の歪みに関する事例をまとめて、意思決定プロセスに対する改善策を示すこと 課題②：行動ファイナンスに関する文献（論文や著書）を1点選んで、その内容を要約するとともに、関心を持った点をまとめること			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 主に、以下の点に関する到達度に応じて評価する。 ・人間の意思決定プロセスの特徴や意思決定上の歪みの源泉を理解できているか ・行動ファイナンスの基礎概念を理解し、これを応用する能力を身につけているか ・ファイナンス理論の概要と行動ファイナンスの応用例を理解しているか			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 『証券市場と行動ファイナンス』俊野雅司、東洋経済新報社、2004年 『ファスト&スロー（上）、（下）』ダニエル・カーネマン、早川書房、2012年 『行動経済学の逆襲』リチャード・セイラー、早川書房、2016年			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名	経営学特殊講義 B / (マクロ組織論)						
教員名	鈴木 美代子						
科目No.	122576040	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>組織の理論には、組織の中の人間行動や心理、または対人関係に注目していくミクロ次元の組織論と、組織における社会的関係性や、組織と社会・経済環境に焦点を当てているマクロ次元の組織論があります。本講義では主として、後者に関して基本的な理解を深めることを目的としています。具体的には、組織の効率性、コンピタンス（組織に内在する強み）、パワー、ネットワーク、アイデンティティに注目し、組織の環境という意味のさまざまな捉え方と、組織の集合体が相互に作用し、機能し、競争し、協調する、マクロレベルの組織構造について取り上げていきます。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、理論的な知識を修得し、その組織理論の枠組みを用いて、現代社会における経営組織の活動やその背景にある意味について理解し、組織現象について多面的かつ批判的に考えることができるようになることを目標とします。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・ 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・ 経営学の特徴と本講義の範囲について説明する。			【予習】 シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第2回	経営学の古典 ・ 科学的管理法と管理原則・管理過程について理解する。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	官僚制組織 ・ 官僚制組織の特徴と逆機能について理解する。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	組織構造 ・ 情報処理システムとしての組織観や部門構造について理解する。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	組織における意思決定 ・ 組織の意思決定プロセスについて理解する。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	組織と環境 ・ 組織の環境とは何か、コンティンジェンシー理論における環境と組織構造の関係について理解する。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	組織間におけるパワー ・ 経営資源から組織間のパワー関係について理解する。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	ソーシャル・ネットワーク理論① ・ 人と人、組織と組織間の強いつながりについて理解する。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	ソーシャル・ネットワーク理論② ・ 人と人、組織と組織間の弱いつながりについて理解する。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	組織文化 ・ 組織メンバーに共有される価値観や行動様式について理解する。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	組織学習 ・ 新たな知識や価値が獲得・蓄積されていくプロセスについて理解する。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	組織と技術 ・ 歴史的・社会的観点から技術とは何か、技術がどのように組織や人々と関わっているかについて考える。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	社会学ベースの制度理論 ・ 多様な制度観や社会に埋め込まれた組織や人々の行動について考える。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	総括 ・ 授業全体のまとめを行う。			【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
<p>この授業は、講義形式で行われますが、リアクションペーパーや課題を通じて受講生の理解度を確認しながら進めていきます。質問等については、翌週の授業にて全体へフィードバックします。普段から授業資料等を用いた復習に力を入れ、わからないことを持ち越さないようにしてください。また、上で示された準備学習の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。</p>							
〔成績評価の方法〕							
<p>授業への参加状況やリアクションペーパー・課題への回答、レポートの内容または試験により平常点（100％）で評価します。詳しくはガイダンスで説明しますので、履修を予定している方は第1回の授業へ必ず参加するようにしてください。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
理論的な知識を修得し、その組織理論の枠組みを用いて、現代社会における経営組織の活動やその背景にある意味について理解し、組織現象について多面的かつ批判的に考えることができるようになる、という目標の達成度を基準とします。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
企業経営の基礎を履修していることが望ましい。

〔テキスト〕
教科書は指定しません。

〔参考書〕
高橋正泰監修（2019）『マクロ組織論』学文社
大月博司・藤田誠・奥村哲史（2001）『組織のイメージと理論』創成社
参考書を購入する必要はありません。その他の参考書に関しては講義中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
授業終了後に教室で受けつけます。

〔特記事項〕

特にありません。

科目名	経営学特殊講義 B / (経営科学)						
教員名	俊野 雅司						
科目No.	122576050	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>経営科学の起源は、古代ローマ時代にまで遡ると言われている。アルキメデスのような知識人を招聘して、戦争に勝つための科学的な方法が研究された。その後、第1次世界大戦や第2次世界大戦においても、限られた戦力を効率的に活用して勝利に導くための戦略の研究が行われ、ノウハウが蓄積されていった。</p> <p>第2次世界大戦後は、オペレーションズ・リサーチ (OR) と呼ばれたこれらの科学的な戦略論が企業経営などの平和目的で活用されるようになり、経営科学と呼ばれるようになった。本講座では、代表的な経営科学の手法を学修するとともに、企業活動などにおける科学的な意思決定を行ううえでの基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>経営科学とは、一般的に数理的な手法を用いて企業等の組織運営における意思決定の支援を行う研究分野と位置づけられる。本講座では、経営科学の歴史や分析手法を概観したうえで、景気動向や経済指標などの分析・予測、最適化、シミュレーションなど、企業経営上の意思決定において重要性の高い分野に焦点を当てて学修する。</p>							
〔到達目標〕							
<p>DP1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>本講座で最初に学修する主要なテーマは、予測である。企業経営者は、常に不確実性を伴う状況の中で、最善の経営判断をしようと試みる。企業によって重要な指標は異なるが、予測手法には共通点がある。本講座では、予測手法について学修するとともに、各自がテーマを決めて、経済指標等をダウンロードして計量的な分析を行う実践的なトレーニングも経験する。</p> <p>第2の主要テーマは、最適化である。戦争の際には、兵士や武器・弾薬などが希少資源となり、企業経営の</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	イントロダクション ・講義の全体像や進め方、経営科学について学修することの意義について説明する。			【予習・復習】講義用資料は、事前にコースパワーを通じて掲載するので読んでおくこと。インターネットおよびオフィス (WORD と EXCEL) を使用するため、利用可能な PC を確保しておくこと。オフィス機能の使い方を確認しておくこと。		60	
第2回	経営科学の歴史と全体像 ・経営科学の歴史 (軍事目的から平和目的への転用、情報化時代における意義など) について概説する。 ・OR 研究の草分け的存在であるアコフによる OR の 8 つの基本問題 (在庫、配分、待ち行列、順序づけ、順路、取替、競争、探索) について説明する。			【予習・復習】参考図書などを参照しながら、経営科学 (OR) の歴史と全体像を理解すること。		60	
第3回	予測の重要性と予測手法 ・景気動向や経済指標の予測が、企業経営者ばかりでなく、一般市民 (家計) や政府にとっても重要であることを説明する。 ・主要な経済指標や予測情報について概観する。			【予習・復習】景気等の予測の重要性を認識したうえで、主要な経済指標や予測情報を理解すること。		60	
第4回	景気の判断と予測 ・主要な景気予測手法であるサーベイデータに基づく予測と CI (コンボジット・インデックス) に基づく景気判断について説明する。			【予習・復習】景気の予測手法について理解すること。		60	
第5回	データ分析の基礎と時系列分析 ・データのダウンロードや EXCEL を用いたグラフの作成、基本統計量の計測、複数のデータ間の相関係数など、データ分析の基礎について説明する。 ・主要な時系列分析手法である自己回帰モデルと移動平均モデルについて説明する。			【予習・復習】時系列分析の手法について理解すること。		60	
第6回	回帰分析 ・経済指標等の分析においては主要な手法である回帰分析の概要を説明する。			【予習・復習】回帰分析の手法について理解すること。		60	
第7回	経済指標等の分析 ・経済指標等のデータをダウンロードし、分析を行うプロセスを説明する。			【予習・復習】経済指標等の分析に関する課題に取り組むこと。		60	
第8回	最適化問題 ・企業経営における最適化 (希少資源の最適配分) 問題の典型事例を整理するとともに、最適化の手法について概観する。 ・基本的な線形計画法 (LP) の活用例を説明する。			【予習・復習】最適化問題の概要について理解すること。		60	
第9回	線形計画法 (LP) の活用 ・線形計画法の活用例を説明する。			【予習・復習】線形計画法の概要を理解し、応用力を身につけること。		60	
第10回	分散投資理論 ・2次関数を用いた最適化の例として、分散投資理論の概要を説明する。			【予習・復習】分散投資理論の概要と応用分野について理解すること。		60	
第11回	決定理論 ・不確実性を伴う状況において、どのような意思決定をすべきかを議論する決定理論の概要と活用例を説明する。			【予習・復習】決定理論の概要について理解すること。		60	
第12回	シミュレーションの基礎 ・ある前提条件のもとで将来の状況を予測し、それを繰り返し行うことで、ある経営方針を採用した場合のリスク等を把握し、意思決定の是非を判断する方法 (シミュレーションという) について説明する。			【予習・復習】シミュレーションの重要性と手法について理解すること。		60	
第13回	モンテカルロ・シミュレーションの応用 ・代表的なシミュレーション手法の1つであるモンテカルロ・シミュレーション活用例を説明する。			【予習・復習】モンテカルロ・シミュレーションの活用例を理解すること。		60	

第14回	その他の経営科学（OR）の手法	【予習・復習】その他の主要な経営科学（OR）の手法について理解すること。 【復習】課題を提出すること。	120
<p>〔授業の方法〕</p> <p>毎回配付するレジュメに基づいて、講義形式で進める。実践的な知識を身につけるために、経済指標等の分析に関する課題を課す。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>期末試験を60%、課題を40%の配分で評価を行う。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 主に、以下の点に関する到達度に応じて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測、最適化、シミュレーションなど、企業が科学的方法に基づいて経営上の意思決定を行う考え方を理解できているか ・経営科学に関する分析手法（回帰分析等）や基礎データ（経済指標等）に関する基礎知識を身につけているか ・関心のあるデータをダウンロードして、独自の観点から分析し、その結果を取りまとめることができるか 			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>『OR 入門（第12版）』宮川公男、日本経済新聞社（日経文庫）、1992年 『意思決定論—基礎とアプローチ（新版）』宮川公男、中央経済社、2010年 『経営科学と意思決定』中村雅章、税務経理協会、2006年</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	経営学特殊講義B / (租税法)						
教員名	伊藤 公哉						
科目No.	122576300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
〔テーマ・概要〕							
<p>租税法は、私たちの生活に密着した身近な学問です。企業経営においても、租税法の知識は不可欠といえます。</p> <p>そこで、この授業では、法人税法を中心とした租税法の概論を学修します。具体的には、租税法全体に共通する基本的な考え方や、法人税や消費税等を中心に国税の概要を理解することを目標とします（この授業では、どちらかという企業会計の知識を前提とする企業周りの税を多く扱います。なお、所得税法については、別の授業（租税法の基礎／基盤特殊講義（租税法基礎））の方で詳しく扱います）。</p>							
〔到達目標〕							
<p>【経営学部総合経営学科】</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 租税法の基本原則の理解を通じたりーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則（とくに租税法律主義）について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。</p> <p>② 法人税等を中心に国税の基礎知識を修得し、説明できるようになること。</p> <p>【経済学部経済経営学科】</p> <p>DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 租税法の基本原則の理解を通じたり</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	① ガイダンスと履修上の留意事項（試験や評価など） ② イントロダクション（租税の意義と種類）			【準備】シラバスを読み、内容を把握する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第2回	租税法の基本原則（租税法律主義と租税公平主義）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第3回	租税法の法源、租税法の解釈と適用			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第4回	所得税の概要（所得税総説、所得の意義）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第5回	法人税（法人税総説、法人税の課税要件）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第6回	法人税（事業年度と決算、益金の額、損金の額、資本等取引）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第7回	法人税（公正処理基準、年度帰属、受取配当等）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第8回	法人税（売上原価、寄附金、交際費等）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第9回	法人税（給与、減価償却） 法人税（同族会社、税額控除、申告手続等）			【準備】システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	

第10回	相続税	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第11回	相続税、贈与税	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第12回	消費税 (消費税総説)	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第13回	消費税 (仕入税額控除)	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第14回	まとめ	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。	60
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に PowerPoint 等を用いた講義形式ですが、適宜、指名をするなどしてなるべく楽しい雰囲気での授業ができればと考えています。各回で扱う範囲については、受講者の理解を確認しながら弾力的に講義を進めていくこととし、一部変更する場合があります。そこで、常にポータルで連絡事項を確認してください。また、期末試験は、受講者が少ない場合、授業内に実施する場合があります。上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>授業後のシステム (CoursePower) 上での復習クイズ (50%)、期末試験 (50%) により、授業の到達目標を達成しているかどうかを総合的に評価します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、事前に予告の上で変更する (期末試験を実施せず別の代替的な方法により評価する) 可能性があります。なお、迷惑行為 (授業と関係のないことで騒ぐなど他の受講者の学修の妨げとなる行為) を行う者については、予告の上で減点する場合があります。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ① 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則 (とくに租税法主義) について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。 ② 法人税や消費税等の国税の基礎知識を修得し、説明できるようになること。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕</p> <p>法人税や消費税の理解にあたっては、企業会計 (財務会計) の知識が必要になります。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>税法は毎年改正されますので、第 1 回目のガイダンス時に詳しく説明します。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>予習及び復習の参考書としては、金子宏『租税法 [第 24 版]』(弘文堂、2021 年)。 租税法における所得概念については、伊藤公哉『アメリカ連邦税法 [第 8 版]』(中央経済社、2021 年) の第 I 章 (租税と所得概念) が詳しい。 重要な法令はレジュメでも紹介しますが、以下で紹介するウェブサイトも有用です。 ・ e-Gov 法令検索 (税法を含む法令の検索が可能) https://elaws.e-gov.go.jp/ ・ 裁判所 (裁判例の検索が可能) http://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1 ・ 国税庁 (法令解釈通達の検索が可能) https://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/tsutatsu/menu.htm また、租税判例は、TKC ローライブラリー (情報図書館の法律データベース) も充実しています。</p>			
<p>〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		統計学					
教員名		田中 研太郎					
科目No.	122714000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 前期
〔テーマ・概要〕							
近年の情報技術の発達により、大量のデータを高速に収集・処理することが可能になっている。そのようなデータを有効活用するためには、統計解析によって意味のある情報を取り出し、新たな知見を得ることが重要である。本講義では、統計解析に必要な基礎知識として、記述統計から一歩進んだ推測統計の考え方を習得することを目標とする。なお、授業の第1～3回においては統計学の基本を復習するために記述統計に関する授業を行う。 (注：授業内でのPC使用あり)							
〔到達目標〕							
DP2(教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。 1) 確率分布を用いた推測統計の考え方を理解する。 2) 種々の検定などが適切に利用できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス (統計学とは何か?)			【復習】統計学とはどのようなものなのかについて把握する。		60分	
第2回	記述統計の基礎 (身近なデータの種類にはどのようなものがあるのか?)			【予習・復習】記述統計の基礎について予習・復習する。		60分	
第3回	1 変量データに対する記述統計 (1 変量データを視覚化する方法にはどのようなものがあるか? 平均や分散とは何か?)			【予習・復習】1 変量データに対する記述統計について予習・復習する。		60分	
第4回	2 変量データに対する記述統計 (2 変量データを視覚化する方法にはどのようなものがあるか? 相関係数とは何か?)			【予習・復習】2 変量データに対する記述統計について予習・復習する。		60分	
第5回	確率モデル ～記述統計から推測統計へ～ (推測統計における確率分布とはどのようなものなのか?)			【復習】推測統計における確率分布の考え方について復習する。		60分	
第6回	2項分布の考え方と使い方 (2項分布を用いた確率の計算について)			【復習】2項分布について復習する。		60分	
第7回	確率分布における期待値と分散 i) 確率分布における期待値と分散の定義 ii) 2項分布における期待値と分散の求め方			【復習】確率分布における期待値と分散について復習する。		60分	
第8回	中間試験(または中間レポート課題)			【予習】中間試験(中間レポート課題)に備える。		60分	
第9回	前半のまとめと後半の導入 i) 中間試験の解説 ii) 大数の法則と中心極限定理			【復習】中間試験(中間レポート課題)で分からなかった部分について復習する。また、大数の法則と中心極限定理について、なんとなくでも理解するように努める。		60分	
第10回	正規分布の考え方と使い方 i) 正規分布を用いた確率の求め方 ii) 正規分布の平均と分散			【復習】正規分布について復習する。		60分	
第11回	統計的仮説検定について i) 確率分布についての復習 ii) 統計的仮説検定についての導入			【復習】これまで出てきた確率分布とその性質について復習する。		60分	
第12回	統計的仮説検定について i) 統計的仮説検定の考え方 ii) 平均値についての検定(正規分布の利用)			【復習】平均値についての検定の考え方について復習する。		60分	
第13回	統計的仮説検定について i) 統計的仮説検定の考え方(再) ii) 平均値についての検定(t-分布の利用)			【復習】平均値についての検定の考え方について復習する。		60分	
第14回	分割表の解析 i) 独立性の検定(カイ2乗分布の利用) ii) 層別の重要性			【復習】分割表における独立性の検定の考え方について復習する。また、層別の重要性について理解する。		60分	
〔授業の方法〕							
講義による授業を行う。 統計における計算や課題に取り組むときにPCを使用する。							
〔成績評価の方法〕							
配点は、学期末試験の成績60%、レポート課題20%、平常点20%を目安とする。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

i) 現象を確率を用いてモデル化できる。

ii) 基本的な推測統計の手法（推定と検定）について理解している。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

記述統計についての基本的な知識があることが望ましいが、授業の第 1～3 回において記述統計の基本についての復習を兼ねた授業を行う。

〔テキスト〕

特になし。授業資料を配布する。

〔参考書〕

適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	情報コミュニケーション技術						
教員名	吉見 憲二						
科目No.	122715000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>内閣府では、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」を意味する「Society 5.0」という政策キーワードを提唱し、新しい価値を産業や社会にもたらすことを目指している。しかしながら、「Society 5.0」が包含する領域は広いと、その全体像を把握することは容易ではない。本授業では、個々の事例からその背景にある情報コミュニケーション技術を学習することで、「Society 5.0」という概念を実感を持って理解できるようになることを目的とする。各回の授業では、特定の情報サービスを取り上げ、どのような情報コミュニケーション技術が用いられているか検討していく。全体の講義を通して、現代のコミュニケーションに用いられる多様な技術について理解を深めることを目指す。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】を実現するため、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>(1)さまざまな情報サービスに用いられている情報コミュニケーション技術を説明できる。</p> <p>(2)情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか説明できる。</p> <p>(3)「Society 5.0」という概念を、具体例を交えて自分なりの言葉で説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・情報コミュニケーション技術について学ぶ意義を理解する。 			<p>【予習】事前にシラバスをよく読み、質問等があれば用意しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第2回	<p>クラウドサービス（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドサービスの概要について理解する。 ・クラウドサービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】クラウドサービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第3回	<p>クラウドサービス（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドサービスの概要について理解する。 ・クラウドサービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】クラウドサービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第4回	<p>モバイル通信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モバイル通信サービスの概要について理解する。 ・モバイル通信サービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】モバイル通信サービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第5回	<p>インターネット広告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット広告の概要について理解する。 ・インターネット広告に用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】インターネット広告の具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第6回	<p>自動車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の自動車の変化について理解する。 ・近年の自動車に用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】近年の自動車の変化について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第7回	<p>情報家電</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報家電の概要について理解する。 ・情報家電に用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】情報家電の具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第8回	<p>中間まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実施内容について振り返る。 ・レポート課題に関する説明を行う。 			<p>【予習】これまでの実施内容で理解が不十分な点を確認しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第9回	<p>決済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決済サービスの概要について理解する。 ・決済サービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】決済サービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第10回	<p>金融</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金融サービスの概要について理解する。 ・金融サービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】近年の金融サービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第11回	<p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育サービスの概要について理解する。 ・教育サービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】近年の教育サービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第12回	<p>シェアリング・エコノミー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェアリング・エコノミーの概要について理解する。 ・シェアリング・エコノミーに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】シェアリング・エコノミーの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第13回	<p>レポート課題のフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施したレポート課題について評価ポイントを理解する。 ・レポート執筆の基本事項について再度確認し、理解する。 			<p>【予習】自身の提出したレポートの内容について再確認しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。</p>		60	
第14回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的内容を振り返り、情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか議論する。 ・シラバスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。 			<p>【予習】全体的内容を振り返り、情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか考える。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。期末試験に向けて準備する。</p>		60	

<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義形式で進める。授業の構成として、①ディスカッション準備（10分）②前回内容の振り返り（20分）③ディスカッション（10分×2回）、④講義（40分）⑤質疑応答（10分）⑥小テスト（授業後）を基本とする。詳細は次の通りである。</p> <p>①冒頭に【予習】と関連したディスカッションテーマを提示し、10分間各自で考える時間を与える。</p> <p>②小テストの内容に関して次回授業の前半で振り返りを行い、優れた回答は全体に共有する。</p> <p>③授業時間中に、冒頭に提示したテーマに関して受講者にマイクを回し、ディスカッションを行う。受講人数に応じて実施形態については検討する。</p> <p>④講義は配布した資料を中心に展開する。なお、講義中にも受講者にマイクを回し、意見や回答を求めることがある。</p> <p>⑤ICTを活用した双方向型の授業として、スマートフォンでQRコードを読み取り、授業時間内に質問をできるようにする。授業の最後に質疑応答の時間を設ける。</p> <p>⑥e-ラーニングを活用した自主学習支援として、各回の授業内容に関連した小テストを【予習】【復習】扱いで実施する。</p> <p>課題レポートの内容、評価基準については、授業内で説明する。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>各回の小テスト（14回：42%）、課題レポート（18%）、期末試験（40%）による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>(1) さまざまな情報サービスに用いられている情報コミュニケーション技術を説明できるか。</p> <p>(2) 情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか説明できるか。</p> <p>(3) 「Society 5.0」という概念を、具体例を交えて自分なりの言葉で説明できるか。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>必要な予備知識は特になし。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>資料は毎回の授業で配布する。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>『IoT時代の競争分析フレームワーク』、早稲田大学ビジネススクール根来研究室（著）・根来龍之・浜屋敏（編著）、中央経済社、2,750円、978-4502180514、購入の必要なし</p> <p>『ネットビジネスケースブック』、荻原猛・田中洋、同文館出版、3,080円、978-4495390051、購入の必要なし</p> <p>その他、参考文献については授業内で適宜提示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>アクティブ・ラーニング ICT活用</p>

科目名	社会理解実践講義 / (資本市場の役割と証券投資)						
教員名	河路 武志						
科目No.	122731400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2022 後期
[テーマ・概要]							
<p>本講義は、実務経験豊富な野村證券株式会社の講師による提供講座として開講される。</p> <p>直接金融とは何か、資本市場に求められる役割とは何かなどのテーマに関する証券投資の解説を行う。また、リーマン危機以降、激変する日本の資本市場の全容、投資とリスク・リターンへの考え方、株式投資・債券投資の手法など、各講師の実務経験に基づいて、金融資本市場の様々な側面について解説する。</p> <p>本講座では、さらにアクティブ・ラーニングの要素を取り込んで、より実践的な知識の習得も追加的な目標とする。具体的には、少子高齢化の進展を背景にして、老後の生計に対する不安が高まる中、ライフプランと資産形成や年金制度に関する解説を行ったうえで、加入者自らが資産運用の意思決定を行う確定拠出(DC)型年金制度におけるポートフォリオ作成やマネープラン作成の実践的演習を行う。</p>							
[到達目標]							
<p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証券投資を中心に、金融資本市場の実務とファイナンス理論を整合的に理解し、将来のビジネスパーソンとしての素養を身に付ける ・ライフサイクルにおける資産形成の重要性や年金制度の概要を理解する ・近い将来、老後の生活資金を確保するためにDC制度のポートフォリオ設計やマネープランを構築する場合を想定した実践的知識を習得する 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション ・コーディネーターの役割から、講義の全体像を説明する。 ・ガイダンス、経済指標の捉え方 外部講師から、講義の内容・予定について説明した後で、資本市場において用いられる経済情報・指標について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講座の全体像を確認すること。</p> <p>課題①の内容を確認したうえで、少しずつ時間をかけて取り組むこと。</p>		60	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・金融資本市場の役割とその変化 赤字主体と黒字主体の資金過不足を調整する場としての金融資本市場の役割とその全体像を解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・債券市場の役割と投資の考え方 国債や社債などの債券を通じた資金調達仕組みと債券市場での投資の考え方を解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・株式市場の役割と投資の考え方 株式の発行を通じた資金調達仕組みと株式市場での投資の考え方を解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・投資信託の役割とその仕組み 投資信託の仕組みと投資戦略ごとの特徴について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク・リターンとポートフォリオ分析 証券の期待リターンとリスクの意味、ポートフォリオの分散投資効果について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・外国為替相場とその変動要因について 外国為替の仕組み、為替レートの役割、為替レートの決定要因について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・資本市場における投資家心理 資本市場における投資家心理の果たす役割や行動ファイナンスの基礎概念について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフプランと資産形成 社会人になってから、退職して、老後の生活を送るという一連の「ライフサイクル」の中で、結婚・子育て、マイホームの取得、退職後の生活費など、様々な場面で資金ニーズが発生する。これらのライフプランの概要とそれを支えるための資産形成の考え方について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・公的年金制度について 日本の公的年金制度は、自営業者等、民間サラリーマンや公務員、専業主婦等の立場によって仕組みが異なるなど、複雑な側面がある。このような公的年金制度の仕組みについて解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・確定拠出年金について 確定拠出年金(DC)制度は、加入者自身が資産運用の方針を決定する仕組みであり、運用結果に応じて年金額が決定される。この制度の仕組みについて解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・DCポートフォリオの作成 実際にDC制度の加入者として運用方針を決定することを想定した実践的なトレーニングを行う。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p> <p>課題②に取り組むこと。</p>		60	
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・マネープランの作成 人的資本の考え方に基づいて、自分のライフサイクルにおける収支を資産と負債に見立てたうえで、総合的なマネープラン作成の実践的なトレーニングを行う。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p> <p>課題③に取り組むこと。</p>		60	
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめと課題について 講義全体のまとめと課題についての最終確認を行う。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p> <p>【復習】課題①～③を取りまとめて、提出すること。</p>		120	
[授業の方法]							

証券ビジネスの最前線に従事する実務家を講師に迎えて、講義を行う。
DC ポートフォリオとマネープラン作成に関する実践的な演習も行う。

〔成績評価の方法〕

成績は、平常点（3つの課題）で評価する。
・課題1：講義内容と関連するニュースの解説（40点）
・課題2：DC ポートフォリオ関連（30点）
・課題3：マネープランの作成（30点）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39
次の到達目標に注目して、その到達度に応じて評価する。
・金融資本市場や年金制度の概要を的確に理解し、日常的に関連するニュースを理解し説明できる
・DC 制度のポートフォリオ設計やマネープランを構築する場合の実践的スキルを活用できる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし
授業時に資料を配布する。

〔参考書〕

『入門証券論（第3版）』榊原茂樹他著、有斐閣コンパクト、2013年「購入の必要なし」

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

・アクティブ・ラーニング

科目名		学際特殊講義 / (SNS と情報リテラシー)					
教員名		高橋 暁子					
科目No.	122741300	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2022 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>炎上、誹謗中傷、ネットいじめ、出会い系被害、ゲーム・ネット依存、デマやフェイクニュース、詐欺被害… 毎日のように SNS に伴う事件が報道される時代となりました。 SNS は便利で楽しいものですが、同時に様々な事件やトラブル被害につながっています。 SNS でなぜどのような事件やトラブルが起きているのか、理由と背景、心理を理解した上で、未然に防いだり、解決するための対処法までを講義を通して考えます。 SNS 関連事件やトラブルについての取材・講演経験豊富なジャーナリストとしての実務経験に基づき、最新の SNS にまつわる事件やトラブル、心理、取材実例などを取り上げます。 情報モラルリテラシーを高め、現代社会を生き抜く力を身に付けていきます。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP2【教養の修得】を達成するために、以下の目標を設定する。 現代を生きる上で必要な SNS についての教養を修得し、特徴やリスクについて説明できる。 SNS に伴う事件の背景や心理、理由を深く理解し、説明できる。 SNS における課題発見ができ、解決策を考え、説明できる。 情報モラルリテラシーを高め、SNS を適切に使いこなせる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第 1 回	<p>【ガイダンス】 講義の内容、進め方、予習、復習の仕方等を説明する。 レポート課題についてのやり方を説明する。 グループ分けを行い、チーム内で自己紹介する。 自分たちの SNS 利用実態と課題について確認する。</p>			<p>【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。</p>		30 30	
第 2 回	<p>【SNS コミュニケーションとネットいじめ】 SNS コミュニケーションが難しい理由とは。 ネットいじめの実態とリスクについて。 自分や周囲で起きた事例から考察を深める。 SNS でネットいじめやトラブルが多発する理由について考える。</p>			<p>【予習】 SNS におけるネットいじめで起きた事件について調べ、記事を読んでおく。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 ネットいじめが起きる理由について考えをまとめる。</p>		30 30	
第 3 回	<p>【誹謗中傷】 なぜ SNS では誹謗中傷が多く見られるのか。 誹謗中傷で起きた事件について知る。 匿名性の問題と誹謗中傷対策とは。 どのような対策が効果的か考え、発表する。</p>			<p>【予習】 誹謗中傷で起きた事件、対策について調べる。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 誹謗中傷の防ぎ方、対策について考えをまとめる。</p>		30 30	
第 4 回	<p>【個人情報】 なぜ SNS では顔写真や個人情報を公開したくなるのか。 自分や他人 (友人・家族を含む) の顔写真や個人情報を公開するリスクとは。 顔写真や個人情報を公開することで起きた事件を知る。 顔写真や個人情報公開の意義とリスクを考える。</p>			<p>【予習】 SNS における個人情報の取扱いや公開実態について調べておく。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 個人情報公開について自分なりの考えをまとめる。</p>		30 30	
第 5 回	<p>【炎上と個人情報特定】 SNS 上で個人情報特定される理由と手法について。 SNS 投稿で炎上、個人情報特定で起きた事件について知る。 炎上・個人情報を特定されない SNS の使い方考える。</p>			<p>【予習】 炎上・個人情報特定で起きた事件について調べ、記事を読んでおく。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 炎上、個人情報特定の防ぎ方、対策について考えをまとめる。</p>		30 30	
第 6 回	<p>【デマ・フェイクニュース】 なぜ SNS ではデマ・フェイクニュースが広まりやすいのか。 デマの種類とデマ拡散で起きた事件について知る。 デマ・フェイクニュースが広まりやすい時期と拡散する理由について知る。</p>			<p>【予習】 SNS におけるデマ・フェイクニュース拡散で起きた事件について調べ、記事を読んでおく。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 デマ・フェイクニュースが拡散される理由について考えをまとめる。</p>		30 30	
第 7 回	<p>【正しい情報の見極め方】 デマ・フェイクニュース・ステマの見極め方。 ディープフェイクなど偽画像・動画実態、ネットにあふれるステマ実態について知る。 正しい情報の集め方を考える。 SNS を通じた情報収集はどうすればいいか。</p>			<p>【予習】 正しい情報の集め方について自分なりに調べ、考えておく。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 デマの見極め方、正しい情報の集め方について考えをまとめる。</p>		30 30	
第 8 回	<p>【ネット依存・ゲーム依存】 自分たちは「依存」状態なのか？ ネット依存、ゲーム依存の実態について。 なぜネット依存・ゲーム依存になるのかについて考える。</p>			<p>【予習】 ネット依存・ゲーム依存実態について調べ、記事を読んでおく。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 ネット依存・ゲーム依存になる理由について考えをまとめる。</p>		30 30	
第 9 回	<p>【ネット・ゲームとの付き合い方】 ネット依存・ゲーム依存対策の実態。 ネット依存・ゲーム依存の治し方について知る。 ネット依存やゲーム依存にならない使い方のコツを考える。</p>			<p>【予習】 ネット依存・ゲーム依存対策について調べておく。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 ネット依存・ゲーム依存にならない使い方について考えをまとめる。</p>		30 30	

第10回	【出会い系被害・自撮り被害】 出会い系被害・自撮り被害とは何かについて。 SNS やマッチングアプリでなぜ出会い系被害・自撮り被害が起きるのかについて考える。 SNS・マッチングアプリで起きる出会い系被害・自撮り被害事件について知る。	【予習】 SNS やマッチングアプリで起きた出会い系被害・自撮り被害について調べ、記事を読んでおく。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 出会い系被害・自撮り被害が起きる理由について考えをまとめる。	30 30
第11回	【SNS・マッチングアプリでの出会い】 SNS やマッチングアプリで実施されている出会い系被害対策について。 会う前に相手を見極める方法と対策について考える。	【予習】 SNS やマッチングアプリにおける出会い系被害対策について調べる。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 出会い系被害・自撮りの防ぎ方、対策について考えをまとめる。	30 30
第12回	【副業詐欺・闇バイト募集】 なぜSNS で詐欺被害が多発しているのか。 大学生に広がる闇バイト・副業詐欺被害実態を知る。 自分たちがSNS で見かけた副業・儲け話の実例について発表する。 なぜ大学生が詐欺対象として狙われるのかについて考える。	【予習】 SNS で起きた詐欺事件について調べ、記事を読んでおく。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 SNS で詐欺被害が起きる理由、大学生が狙われる理由について考えをまとめる。	30 30
第13回	【高齢者・子どものネット利用実態とトラブル】 年齢によるネット・端末・SNS 利用の違いについて。 高齢者や子どももターゲットとなる詐欺被害について知る。 祖父母や周囲の子もたちが詐欺被害に合わないために自分たちができることを考える。 詐欺被害にあったらどうすればいいかについて。	【予習】 年齢ごとのネット・端末・SNS 利用実態について調べる。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 自分たちができる詐欺被害の防ぎ方、対策について考えをまとめる。	30 30
第14回	【SNS のルール・マナー】 SNS のルール・マナーとは。 ルールやマナーが必要な理由と具体例、世代や個人による違いについて。 新時代のルール・マナーを考える。	【予習】 SNS のルール、マナーについて調べる。 【復習】 授業内容について振り返り、理解を深める。 SNS のあるべきルール・マナーについて考えをまとめる。	30 30
〔授業の方法〕 授業は主に講義形式で行うが、グループワークや質疑応答も取り入れるため、十分な予習・復習が必要となる。 事前に関連記事などを読んで、そのテーマの実態を知り、問題意識を持った上で講義に臨むこと。 講義内容を踏まえた上で、自分の考えを述べたり、リアクションペーパー提出を求める。 課題レポート提出を2回実施し、テーマは学んだ中より自ら2つ選ぶものとする。 課題レポートでは、SNS の特性と課題について理解しているか、対策が考えられているかを確認する。			
〔成績評価の方法〕 平常点（講義中の発言や質問、話し合いなど、講義への積極的な参加、リアクションペーパー）60%、課題レポート（2回、40%）による総合評価。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 講義内での発表において、SNS やリスクの特徴や問題点を理解し、説明できている。 レポートは、次の点に着目し、その達成度に応じて評価する。 課題レポートにおいて、課題に乗っ取り、適切に調査、思考し、自分の考えが説明できている。 ○SNS の特性と課題について理解している。 ○事件・被害につながる背景や心理、理由について理解している。 ○特性や理由などを理解した上で、自分の考えや対策について説明できている。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 各 SNS の基本的な機能や使い方について理解している。			
〔テキスト〕 各テーマの関連事件などが掲載されている新聞記事。 その他、参考となる記事などは授業内で適宜指示、配布することがある。			
〔参考書〕 購入の必要なし			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける他、随時、CoursePower 経由での連絡や電子メールでも受け付ける。			
〔特記事項〕 情報リテラシー教育科目			